

第四十六回 貴族院議事速記録第二十五號

大正十二年三月二十一日(水曜日)

午前十時十五分開議

議事日程 第二十五號 大正十二年三月二十一日

午前十時開議

- 第一 恩給法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二 大正十二年度歳入歳出總豫算案並大正十二年度各特別會計歳入歳出豫算案 會議(委員長報告)
- 第三 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件 會議(委員長報告)
- 第四 賠償金特別會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第五 對支文化事業特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第七 大正十一年度第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議
- 第八 大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議
- 第九 大正十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議
- 第十 大正十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議
- 第十一 大正十年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議(委員長報告)
- 第十二 大正十年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議(委員長報告)
- 第十三 大正十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過

支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議(委員長報告)

第十四 陪審法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 遠洋漁業獎勵法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 大正十年法律第百二號中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔小林書記官朗讀〕

昨二十日本院ニ於テ否決シタル左ノ衆議院提出案ハ即日第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

借地借家調停法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スヘキモノト議決シタル軍人恩給法中改正ノ請願外三十五件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

都市計畫法中改正法律案外一件特別委員會

委員長 侯爵蜂須賀 正韶君

副委員長 岡田 良平君

委員長 土方 寧君

副委員長 安立 綱之君

身元保證ニ關スル法律案外一件特別委員會

同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

陪審法案可決報告書

恩給法案修正報告書

大正十年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)、大正十年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)、大正十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)可決報告書

遠洋漁業獎勵法中改正法律案可決報告書

大正十年法律第百二號中改正法律案可決報告書

西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ニ受領セリ

賠償金特別會計法中改正法律案

對支文化事業特別會計法案

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案

大正十一年度第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ本院ノ議決ニ同意シテ

上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

共通法中改正法律案

同日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル左ノ政府提出案ハ本院ノ修正ニ同意シテ

上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

中央卸賣市場法案

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、恩給法案、政

府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、近衛公爵  
〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

恩給法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十日

右特別委員長

公爵近衛 文麿

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔特別委員ノ修正ニ係ル條ノミヲ印刷シ其ノ他ハ之ヲ略ス小字ハ修正文、ハ同削除ノ符號ナリ〕

附則

ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十三條 本法施行ノ期日及各條ノ適用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百一條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺

族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ分割遞次増給ス

第二百二條 本法施行後勅令ヲ以テ定ムル時期迄ニ年金タル恩給又ハ扶助料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル者ノ恩給又ハ扶助料ノ年額ハ當該金額ニ其ノ額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ年額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ分割遞次増加シタル額トス

第二百三條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教員職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第二百四條 勅令ヲ以テ定ムル時期迄ニ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタル警察監獄職員ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ノ年額ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二百五條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新

ニ之ニ普通恩給ヲ給ス  
前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス  
前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六條 第八十三條及第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔公爵近衛文麿君演壇ニ登ル〕

○公爵近衛文麿君 恩給法案委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告イタシマス、委員會ニ於キマシテハ最初大體ノ質問ヲ終リマシタ後ニ、更ニ審議ヲ小委員會ニ移シマシテ、小委員會ニ於キマシテハ、慎重ニ逐條審議ヲ致シタノデアリマス、委員會ニ於キマシテ問題トナリマシタ主モナル點ハ、第一ニハ恩給權ノ擔保禁止ニ關スル問題デアリマス、第二ニハ國庫納付金ノ徵收ニ關スル問題デアリマス、第三ニハ別表第二號增加恩給額ノ果シテ適當ナルヤ否ヤト云フ問題デアリマス、是等ノ問題ニ付キマシテハ、詳細ハ速記録ニ譲リマシテ、茲ニハ申述ベマセス、唯此處デハ最重要ナル施行時期ノ問題ニ付テ、概略ヲ申述ベルニ止メマス、御承知ノ如ク此度ノ恩給増額ニ要シマスル費用ハ、衆議院ノ修正ニ依リマシテ約三千萬圓ノ巨額ニ上ルノデアリマス、而シテ政府ニ於キマシテハ六箇年間ニ之ヲ完成スルノ見込ヲ以テ分割的ニ増額ヲ致ス計畫ヲ立テテ居ッタノデアリマス、然ルニ委員會ニ於キマシテハ、受恩給者ノ切實ナル要求ニ鑑ミマシテ、本年度ヨリ即時全部ヲ實行スルノ必要ヲ認めマシテ、再三大藏大臣ニ出席ヲ求メマシテ懇談ヲ遂ゲマシタル結果、一昨十九日大藏當局ヨリ回答ガアリマシタ、其回答ニ依レバ全部ヲ明年ヨリ……三年度ヨリ全部ヲ實行スル、二年度ニ於キマシテハ其四分ノ一、即チ七百六十萬圓ヲ計上スル、内三百六十萬圓ハ既ニ總豫算ニ計上セラレテ居リマスルカラ、尙ホ残り四百萬圓ハ追加豫算トシテ提出ヲ致スト云フコトデアリマシタ、從ツテ其施行時期ハ本年十月一日カラ全部ヲ實行スルト云フ結果ニナルノデアリマス、即チ明年一月ヨリ三月マデノ分ハ三年度豫算ニ計上セララルノデアリマスカラシテ、本年度豫算ニ於キマシテハ、十月ヨリ實施ト云フコトニナレバ、十、十一、十二、此三箇月分、即チ全年額ノ四分ノ一ニ當ル七百六十萬圓ヲ計上イタセバ足リルノデアリマスカラシテ、即チ施行時期ハ本年十一月一日ヨリ全部實行ト云フコトニ相成ツテ差支ナイ次第デアリマス、既ニ施行時期ガ定マリマシタ以上ハ、之ヲ法文ニ明定ラスル方ガ宜シイト云フ趣意デアリマシテ、江木委員ヨリ次ノ如キ修正案ガ出タノデアリマス、第八十三條「本法施行ノ期日及各條ノ適用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアリマスルノヲ「本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス」ト修正スルノデアリマス、此修正意見ニ對シマシテハ、政府モ同意ヲ表セラレ、我々委員ニ於キマシテモ、固ヨリ異議ハナカッタノデアリマス、尙ホ江木委員ヨリ明

年度ヨリ全部實行ト云フコトニ相成リマシタノデ、ソレニ伴フ條文字句ノ修正ヲ要スル必要ガ起ルノデ、其點ハ委員長ニ一任ラスルト云フコトデアリマシタカラ、委員長ニ於キマシテ次ノ如ク修正ヲ致シマシタ、百一條「本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ分割遞次増給ス」トアリマス、此「分割遞次」ノ四字ヲ削リマシタ、是ハ本年十月一日ヨリ一齊ニ増額スルコトニナリマシタ結果デアリマス、次ニ百二條及百四條ヲ削リマス、從ツテ第百三條ヲ第百二條トシ、第百五條ヲ第百三條ト致シマス、第百二條ハ本法施行ノ日ヨリ本法ガ全部適用セラルルマデノ間ニ新タニ恩給權ヲ得マシタ者ノ恩給金額ノ定メ方ヲ規定シタモノデアリマス、又第百四條ハ改正恩給率ガ全部適用セラルルマデハ現行ノ規定ニ依ル方ガ利益デアル所ノ受恩給者ノ爲ニ全部適用ノ時マデ從前ノ例ニ據ル旨ヲ規定シテ居ルノデアリマシテ、是等ハ何レモ十月一日ヨリ一齊ニ適用セラルル結果トシテ規定ガ不必要ニナルノデアリマス、第百六條ヲ第百四條ト致シマシテ、第百六條劈頭ノ「第八十三條及」ト云フ字ヲ削リマス、是ハ八十三條ヲ修正イタシタ結果デアリマス、大要右申上ゲマシタ如キ修正ヲ施シマシテ、之ヲ特別委員會ニ諮リマシタ所ガ、特別委員會ニ於キマシテハ、全會一致ヲ以テ此小委員ノ修正案ヲ可決イタシタノデアリマス、此段御報告イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發言モナイト認メマスカラ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

○子爵池田政時君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ題名竝ニ第一章第一條ヨリ第八十二條マデ問題ニ供シマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、附則第八十三條ヲ問題ニ供シマス、特別委員會ノ修正ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ハ第八十四條ヨリ第百條マデヲ問題ニ供シマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ハ第百一條ヲ問題ニ供シマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ハ第百二條ハ特別委員會ニ於テ……

○江木翼君 唯今原案ト仰ツシヤッタノハ特別委員長ノ報告ト云フ御趣意デアラウト思ヒマス、左様デゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 原案ハ衆議院ヨリ回附セラレマシタノガ原案デゴザイマス

○江木翼君 サウスルト第百一條ニハ特別委員長ノ報告ガゴザイマシテ……

○議長(公爵徳川家達君) 若シ百一條ヲ原案ト申上ゲマシタナラバ、ソレハ議長ノ申シ誤リデゴザイマス、左様御承知ヲ請ヒマス

○江木翼君 了承イタシマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 他ニ若シ議長ニ於テ誤リガアリマシタナラバ御遠慮ナク御注意ヲ願ヒタウゴザイマス、第百二條ハ特別委員會ニ於テ削除セラレマシタカラ、原案ニ付テ決ヲ探リマス、第百二條原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵徳川家達君) 少數ト認メマス、故ニ第百二條ハ削除セラレマシタ、第百三條ヲ問題ニ供シマス、第百三條委員會ノ修正デ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、第百四條ハ特別委員會ニ於テ削除セラレマシタカラ原案ニ付テ決ヲ探リマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 ナシ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者ナイト認メマスカラ、削除セラレマシタ、第百五條ハ特別委員會ノ修正デ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、是ヨリ別表ヲ問題ニ供シマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、是デ第二讀會ヲ終リマシタ

○子爵西大路吉光君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

○子爵池田政時君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通リデ御異存ゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 此際諸君ニ御諮リヲ致シマス、唯今恩給法案ガ修正可決セラレマシタ結果、衆議院ヘ廻付ヲ致シマスカラ、本案ハ豫算ト關係ガゴザイマスカラ、衆議院ヨリ同意スルヤ否ヤノ通牒ヲ受ケマスマデ、豫算ノ會議ハ延バシタイト考ヘマス、御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、從ツテ日程第二、第三ハアトヘ廻シマシテ、日程第四、第五、第六ヲ問題ニ供シマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第四、賠償金特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

賠償金特別會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
大正十二年三月二十日

衆議院議長 粕谷 義三

貴族院議長公爵徳川家達殿

賠償金特別會計法中改正法律案

賠償金特別會計法中左ノ通改正ス

第七條 山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案鐵道細

目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券ハ本會

計ニ歸屬セシメ同條約第二十二條ノ規定ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山

東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金ハ本會計ニ

繰入ルヘシ

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬セシムル國庫證券ノ額面金額及本會計ニ

繰入ルル補償金ノ額ハ通シテ獨逸國トノ平和條約附屬議定書第二號ノ規

定ニ依リ獨逸國ノ貸方ニ記入スヘキ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東懸案鐵道

細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタル國庫證券ハ本

法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

〔阪本鈺之助君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 唯今本案ノ説明ガアルダラウト考ヘマス

○阪本鈺之助君 誤リマシタ

〔政府委員西野元君演壇ニ登ル〕

○政府委員(西野元君) 唯今議題ニ相成リマシタル賠償金特別會計法中改正

法律案ニ付キマシテ簡單ニ其提案ノ理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、御承知ノ

通り獨逸國トノ平和條約附屬議定書ノ第二號ニ依リマシテ、獨逸國ガ山東鐵

道及鑛山ニ付キマシテ獨逸國民ノ持ッテ居リマスル利益ニ對スル補償ト致シ

マシテ之ニ支拂フベキ金額ハ賠償ノ名義ノ下ニ獨逸國ノ負擔ヲ致シテ居リマ  
スル金額ト相殺イシマスル爲ニ之ヲ獨逸ノ貸方ニ記入スルコトニ相成ッテ居  
リマス、平和條約ニ依ッテ設定セラレマシタル所ノ賠償委員會ニ於キマシテハ  
曩ニ右ノ金額ヲ五千九百萬金貨馬克、之ヲ邦貨ニ換算イタシマシテ二千八百  
二十萬二千圓ト決定イタシタノデアリマス、然ルニ華盛頓ニ於キマシテ調印  
セラレマシタル所ノ山東懸案解決ニ關シマスル條約ノ規定ニ依リマシテ右ノ  
鐵道及ビ鑛山ハ帝國政府ヨリ之ヲ支那ニ還付スルコトニ相成リマシテ、其對  
價ト致シマシテ支那國政府ノ國庫證券及ビ新タニ設立セラレマシタル所ノ鑛山  
會社ノ補償金ヲ取得スルコトニ相成ッタノデアリマシテ、今回賠償金特別會計  
設置ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、右ノ二千八百二十萬二千圓ノ金額ノ限度ニ於キマ  
シテ、之ヲ賠償金特別會計ニ歸屬イタサセマスルト云フコトニ致スコトガ適  
當デアルト考ヘタノデアリマス、而シテ右金額ノ内鐵道ニ屬シマスル分ハ二  
千五百五十萬圓デアリマス、鑛山ニ屬シマスル分ハ二百六十餘萬圓デアリマ  
ス、右様ノ次第デゴザイマシテ、賠償金特別會計ニ加ヘタイト存ズル次第  
デアリマス、極メテ簡單ナル改正デゴザイマシテ、何卒御審議ノ上御協賛アラ  
ムコトヲ切望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 別段御質疑モナイト存ジマスカラ本案ノ特別委員  
ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔小林書記官朗讀〕

賠償金特別會計法中改正法律案特別委員

伯爵奧平 昌恭君 子爵牧野 忠篤君 内田 嘉吉君

上山 滿之進君 男爵平野 長祥君 男爵藤田 平太郎君

江木 翼君 和田 豐治君 伊藤 傳七君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第五、對支文化事業特別會計法案、政府提出、  
衆議院送付、第一讀會、外務大臣内田伯爵

對支文化事業特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

大正十二年三月二十日

衆議院議長 粕谷 義三

貴族院議長公爵德川家達殿

(小字ハ衆議院修正文  
ハ削除ノ符號ナリ)

對支文化事業特別會計法案

對支文化事業特別會計法

第一條 對支文化事業助長ノ爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 左ニ掲クル證券ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

一 明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條 規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券

二 山東懸案解決ニ關スル條約第六條及第二十五條竝山東懸案細目協定第十九條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中製鹽業者ニ交付スルモノヲ除キタルモノ

三 山東懸案解決ニ關スル條約第十五條及第十八條竝山東懸案鐵道細目協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中賠償金特別會計ニ歸屬セシメラルヘキモノヲ除キタルモノ

第三條 山東懸案解決ニ關スル條約第二十二條ノ規定ニ依リ設立セラルル會社ヨリ山東懸案細目協定第二十四條ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル補償金中賠償金特別會計ニ繰入レラルヘキモノヲ除キタル殘額ハ之ヲ本會計ニ繰入ルヘシ

第四條 本會計ニ於テハ左ニ掲クル諸收入ヲ以テ其ノ歲入トス

一 所屬證券ノ償還元利金

二 所屬資金ノ運用利殖金

三 寄附金

四 附屬雜收入

第五條 本會計ニ於テハ左ニ掲クル事業ニ關スル諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

一 支那國ニ於テ行フヘキ教育、學藝、衛生、救恤。ニ關スル事業

二 帝國ニ在留スル支那國人民ニ對シテ行フヘキ前號ニ掲クル事業ト同種ノ事業

三 帝國ニ於テ行フヘキ支那國ニ關スル學術研究ノ事業

第六條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使

用スヘシ

第七條 本會計ノ歲出額ハ寄附金ニ依ルモノヲ除クノ外毎年度二百五十萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 本會計ノ決算上剩餘金ヲ生スルトキハ之ヲ積立ツヘシ

第九條 本會計ノ資金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

附 則

本法ハ大正十二年度ヨリ之ヲ施行ス  
大正十一年度一般會計ニ於テ明治三十四年支那國及列國最終議定書第六條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ受領シタル四分利付支那國債券ノ元利償還金收入トシテ受入レタル金額ニ相當スルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ノ歲入ニ繰入ルヘシ

本法施行前第二條第二號及第三號ニ規定スル國庫證券ニシテ本法施行前支那國政府ヨリ交付ヲ受ケタルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

(國務大臣伯爵內田康哉君演壇ニ登ル)

○國務大臣(伯爵內田康哉君) 唯今上程ニ相成リマシタ對支文化事業特別會計法案提出ノ趣旨ヲ極ク簡單ニ申上ゲマス、我國ト支那トガ古來特殊緊密ノ關係ニアリマスルコトハ、私ガ茲ニ喋々スルマデモアリマセヌ、而シテ此日支兩國民間ノ間ニ眞ノ了解ヲ齎ス爲ニハ單リ政治的經濟方面ノミナラズ、文化的方面ニ於キマシテモ互ニ大イニ努力ヲ致ス必要ガアルト存ジマス、即チ之ガ兩國民間ノ了解ノ根柢ニナルモノト存ジマス、時々起リマスル時々ノ當面ノ問題ハ離レテ永遠ノ國是ト致スベキモノト信ズルノデアリマス、是マデ支那ニ於キマシテ、本邦人ノ手ニ經營セラレマシタ文化事業ハ相當ニゴザイマシタ、其規模ガ概シテ小サク、其範圍モ割合ニ狹カッタノデアリマス、政府ニ於キマシテハ、豫テ是等ノコトヲ遺憾ト致シマシテ、若干ノ施設ニ對シテハ國費ヲ支出シテ補助ヲ加ヘ、且ツ之ヲ獎勵シ來ッタノデアリマス、然ルニ御承知ノ如ク大正六年十二月ヨリ昨年十二月マデ即チ過去五箇年間支拂延期中デアリマシタ所ノ義和團事件賠償金ノ支拂ガ再開セラレマシテ、昨年ノ十二月ヨリハ所定ノ金額ガ日本ニ這入ルコトニナッタノデアリマス、此賠償金元利ハ今後二十三箇年間ニ年賦ヲ以テ償却ヲ受ケルコトニナツテ居リマス、又山東

鐵道ノ補償ト致シマシテ交付ヲ受ケマスル國庫證券中賠償金特別會計ニ屬ス

ル分ガ公有財産及ビ製鹽業ノ補償トシテ交付ヲ受ケル國庫證券中製鹽業者ニ

交付スベキモノヲ除キマシタモノハ、十五箇年間ニ其元利ヲ償還スルコト、

ナッテ居リマス、又山東ニ於ケル鑛山ニ對スル補償ト致シマシテ交付ヲ受ケ

マスル現金中、賠償金特別會計ニ繰入レラレベキ分ヲ除キタル殘額ヲモ加ヘ

マシテ本特別會計ノ財源ト致シマシテ、一層對支文化事業ノ爲ニ盡スコト、

致シタク本案ヲ提出イタシマシタ次第デゴザイマス、而シテ此事業ガ永年ニ

互リ繼續スベキ性質ノモノデアリマスルガ故ニ、成ルベク多クノ資金ヲ積立

テルノ必要ガアリマスコトニ鑑ミマシテ、之ヲ特別會計ト致シタ次第デアリ

マス、本特別會計法案ノ目的ト致シマスル事業ノ範圍ハ大體之ヲ教育、學藝、

衛生、及ビ救恤ニ限ルコト、致シマシテ、事柄ノ性質上急速ニ其效果ヲ收メル

コトハ誠ニ困難デアリマスコトハ申スマデモナイコトデアリマスガ、其實施

ノ方法ニ關シマシテハ篤ト考究調査ヲ要スル必要ガアリマス、ソレ故ニ十二

年度ニ於キマシテハ差掛リ必要ヲ感ジテ居リマス所ノ在本邦支那留學生ノ學

資補給及ビ山東省ニ於ケル病院、學校經營ノ補助、其他二三ノ事柄ニ對シマ

シテ必要ナル支出ヲ致スニ止メ、十二年度ニ於キマシテハ、専ラ將來行フベキ

事柄ニ關スル調査ニ力ヲ盡シタイ考デゴザイマス、委細ハ別ニ提出イタシマ

シタ所ノ本特別會計大正十二年度追加豫算ニ依リ御承知ヲ願ヒタウゴザイマ

ス、尙ホ文化事業ナルモノハ其性質上各方面ノ協力ヲ俟ツニアラザレバ其效

果ヲ擧ゲ得ルモノデアリマセヌカラ、本事業ニ對シマスル調査及ビ其經營

方針等ニ付キマシテ、我朝野有識者ノ意見ヲ徵スル爲メ、追テ適當ノ機關ヲ設

クルノミナラズ、又進ンデ支那官民ノ意見ヲモ徵スル爲メ、相當ナル方法ヲ

講ジタイ積リデゴザイマス、本特別會計法案提出ノ理由竝ニ政府ノ方針ハ大

體以上ノ通りデゴザイマスカラ、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切ニ希

望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ通告ニ依リマシテ阪本鈺之助君ニ質疑ヲ許

シマス

○阪本鈺之助君 餘リ長ウゴザイマセヌカラ、此席ヨリ御許シテ願ヒタウゴ

ザイマス

○議長(公爵德川家達君) 外務大臣ニ聞エマスマヤウニ御登壇ヲ願ヒタク思ヒ

〔阪本鈺之助君演壇ニ登ル〕

○阪本鈺之助君 唯今上程サレマシタ對支文化事業特別會計法案ニ付キマシ

テ、少シク疑ヲ質シテ見タイト思フノデアリマス、事柄自身ハ誠ニ結構ナコ

トト思ヒマシテ、異存ハ固ヨリゴザイマセヌコトデアリマスガ、此方法デア

リマスガ、支那ニ對シテ文化事業ヲ施設スルト云フコトヲ法律マデ作ッテ極

テ公ケニオ前ノ國ヲ世話ヲシテヤルノデアアルゾト云フコトガ、果シテ適シタ

仕方デアアルカト云フコトヲ疑フノデアアル、本員ノ考ヘル所デハ何カ表立テズ

ニ、特別會計トシテ國庫ガ整理セラレルコトハ妨ゲマセズ、又斯クナケレバ

ナラヌノデアアリマセウガ、仕事其モノニ付テハ現ニ衆議院デモ多少修正ヲ致

シテ居リマスガ、第五條ニ列舉シテアル事柄ノ如キコトヲ法律トシテ茲ニ掲

ゲテ、之ヲ卒直ニ申シマスレバ恩ヲ被セルトカ、見セビラカストカ云フヤウ

ナ嫌ヒガアリハセヌカト本員ハ疑フノデアアル

〔「ノーノー」ト呼フ者アリ〕

ノーノト云フ御聲モアリマスルガ、斯ウ云フコトガ御好キナ御方モゴザイ

マセウ

〔「ノーノー」ト呼フ者アリ〕

之ガ即チ我國ノ一ツノ弊デアルト思フノデアアル

〔「ノーノー」ト呼フ者アリ〕

餘所ノ國デハモウ少シ手際好クヤッテ居リハセヌカ、餘所ノ國ノ例ハ能ク取調

ベテ居リマセヌガ、某々國ノ如キハ對支關係トシテハ餘程皮肉ニ上手ニヤッ

テ居ルヤウニ見聞シテ居ルノデアアル、我國ノ對支外交モ斯ノ如キヤリ方ヲ學

ビタイト云フコトヲ常ニ思ッテ居リマス場合ニ、斯ノ如キモノガ出マシテ、而

シテ其金ハ、寄附金ハ、追々出來マスカ知レマセヌガ、國庫カラ出シマス金ハ

僅ニ二百五十萬圓ヲ超エナイノデアアル、一箇年ニ二百五十萬圓ノ金ヲ支那ノ

爲ニ使フト云フコトヲ國家ガ法律ヲ作ッテ法律ノ上ニ於テ實行シテ行クト云

フコトハ私ハ其事ハ「ノー」デアアルノデス、ドウモドウデアアルカト云フコト

思フノデアアル、併シドウシテモ是デナケレバナラヌト云フ、餘所ノ國モ斯

ウ云フ例ニナッテ居ルト云フヤウナコトデアリマセウカ、本員ノ疑ヲ解クニ足

ルベキ御答ヲ一ツ願ヒタイト存ジマスノデアリマス

○國務大臣(伯爵内田康哉君) 阪本君ノ御質問ニ御答ヲ致シマスガ、此文化

事業特別會計法案ノ趣旨ハ、唯今申述ベマシタ通りニ、其趣旨ニ於テ聊カモ支那ニ對シテ恩ヲ被セルガ如ク、或ハ又支那ヨリ何カ求メルト云フ趣旨ハ毛頭無イノデアリマス、或ハ文化ト云フコトニ付テサウ云フ御懸念ガアルカモ知リマセヌケレドモ、文化自身ハ誠ニ結構ナコトデアラウト思ヒマス、此事ハ支那ノ方ニ於テモ決シテ惡感ヲ懷クヤウナコトハ、私ハ無カラウト思ヒマスカラ、何卒左様御承知ヲ願ヒタウゴザイマス

○阪本鈺之助君 固ヨリ惡感ヲ懷クト云フコトハ、本員モ存ジマセヌガ、成ルタケ好感ヲ持タセタイ、之ヲ極ク通俗的ニ申シマス、人ニ物ヲ吳レルノニ、大勢ノ前デ之ヲ貴様ニヤルノデアルト云フテ僅カナ祝儀ヲ與ヘルヨリハ、人ノ居ナイ時ニ手渡シヲシタ方ガ其祝儀ヲ貰ッタ者ハ好感ヲ持ツト云フコトハ、人情ノ常デアアルト思フノデアリマス、國ト國ニ於テ、僅カ二百五十萬圓ノ金ヲ使フノニ、堂々法律ヲ作ッテ、サウシテ前ノ國ノ爲ニ是ダケノコトヲスルゾト云フヨリモ、何カ方法ガアルナラバ、ソレダケノ金ヲ年々支出シテ、手際ヨク表立タグズニ仕事ヲシテヤルト云フノガ宜クハナイカト、本員ハ思フノデアリマス、唯今ノ御答ハ惡感ヲ持タヌト云フ御答デアルガ、惡感ヲ持ツ筈ハナイ、幾ラカデモ世話ヲ受ケルノデアリマスカラ喜ブデアリマセウガ、其喜ブ程度ガ唯今私ノ申シタヤウナコトガ尙ホ強ク喜ビハセヌカ、斯ウ思フノデアリマス、ソレハ出來ナイトカ、サウ云フモノデナイトカ云フノデアリマスルナラバ、其點ニ付テモウ一應御答ヲ煩ハシタイ

〔國務大臣伯爵内田康哉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(伯爵内田康哉君) 固ヨリ何カ別ニ良イ方法ガアリマシテ、斯ル法律案ヲ提出セズシテ出來ルコトガアレバ、之ニ越シタコトハナイト思ヒマス、元來此種ノ事業ハ個人的ノ經營ニ俟ツコトガ最モ望マシイコトデアラウト思ヒマス、ケレドモ御承知ノ如ク亞米利加ノ如キハ多額ノ寄附ヲナス者ガアツテ、支那ニ於テ是マテ色々事業ヲ致シテ居リマシテ、我國ニ於キマシテハ、財力ノ關係上未ダ其域ニ達シ兼ネテ居リマス、已ムナク之ヲ國庫ノ補助ニ俟ツコトニナツタノデアリマスガ、幸ニ義和團賠償金ノ償却ガ始マリマシテ、又山東問題解決ノ爲ニ此方面ヨリモ賠償ヲ得ルコトニナリマシタカラ、是等ハ無論國庫ニ歸屬スベキ性質ノモノデアアル、ケレドモ之ヲ支那ニ於ケル文化事業ニ投ジタイト云フ趣旨カラ起ツタノデアリマシテ、是等ノ金ヲ處分スル爲ニハ、ドウシテモ之ヲ議會ノ協賛ヲ俟ッテ法律的ニ出サナクテハ外ニ方法ガ

無イヤウニ思フノデアリマス、併シ何カ御名案ガアレバ、敢テ之ヲドコマデモ此法案ニ依ラナクチャナラヌト云フノデハナイノデアリマスケレドモ、唯今政府ノ考ヘマス所デハ、矢張り是ハ法律案トシテ特別會計法ヲ定メルヨリ外ナイ、斯ウ云フ考デ此法案ヲ出シタ次第ゴザイマス、左様御了承ヲ願ヒマス

○阪本鈺之助君 政府トシテハ此仕方ガ最善ノモノデハナイカモ知レマセヌガ、宜シイノデアアルト御信ジニナツテ居ルヤウデアリマスカラ、是以上ハ意見ニナリマスカラ、最早ヤ質問ハ之ニ止メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ハ唯今議長ノ指名イタシマシタ賠償金特別會計法中改正法律案ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第六、支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
大正十二年三月二十日

衆議院議長 粕谷 義三

貴族院議長公爵徳川家達殿

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案

支那ニ於テ營業ヲ爲スヲ主タル目的トスル會社カ本店ヲ支那ニ設クルトキハ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ資本ノ額ヲ定ムル會社カ株式會社又ハ株式合資會社ナルトキハ株式ノ額ハ海關兩二十五兩ニ相當スル額ヲ下ルコトヲ得ス但シ一時ニ株式ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り海關兩十兩ニ相當スル額迄ニ之ヲ下スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員田中都吉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(田中都吉君) 只今日程ニ上ゴリマシタ法律案ノ説明ヲ致シマス、本案ノ趣旨ハ、支那ニ於ケル本邦人ノ企業ニ便宜ヲ與ヘル爲ニ商法ノ補足的乃至例外的規定ヲ設ケムトスルモノデアリマス、御承知ノ如ク近年支那ニ於キマシテ、本邦人ノミノ出資ニ依リ、或ハ日支人ノ共同出資ニ依リマシテ、

我法制ノ下ニ會社ヲ設立經營スル者ガ段々増加イタシマシタ趨勢デアリマス、從ヒマシテ支那ニ於テ流通シテ居リマスル銀貨幣ヲ以テ會社ノ資本額ヲ定メルト云フコトハ、大變便宜ト認メタ次第デアリマス、此點ニ付キマシテハ、先年現ニ在支日本人商業會議所聯合會カラ法律制定方ヲ建議シテ來テ居リマスルシ、尙ホ其後内地ノ實業家團體ヨリモ屢々同様に申出ガアリマシタニ依リマシテ、支那ニ於ケル貨幣制度ノ特殊ノ事情ヲ考慮イタシマシテ、本案ヲ提出スルニ至リマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ希望イタシマス

〔菅原通敬君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 菅原君ハ質疑デスカ

○菅原通敬君 チョット政府ニ御尋イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 宜シウゴザイマス

○菅原通敬君 本案ハ本邦人ノ支那ニ於ケル企業ニ便宜ヲ與ヘル趣意ヲ以テ御發案ニナリマシタ、誠ニ御趣意ノ上ニ於テハ結構デアルト思フノゴザイマスガ、此場合チョット御伺ヒ申上ゲタイノハ、支那ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ主タル目的トスル會社ニシテ、本店ヲ支那ニ持ッテ居ルト云フ者ニ對シテ、租稅ノ負擔上カラ何カ御考ヘニナッタコトガアリマセウカ否ヤト云フコトヲ御伺ヒ申タイノデアリマス、尙ホ詳シク申上ゲマスト云フト、支那ニ於テ斯様な事業ヲ營ンデ居ル會社又ハ其本店ト云フモノハ、支那ニ於テ相當何等カノ形ニ於テ税金ノ負擔ヲシテ居ルモノデアルト思フノデアリマス、其會社ノ出資者ガ支那ニ於テ得タル所得ニ對シテ、内地ニ於テ所得稅法ニ依ッテ、所得稅ヲ課セラレルト云フヤウナコトニナリマスト、重複ノ課稅トナルノデアリマスカラ、其重複ノ課稅ヲ避ケテ、成ルベク支那ニ對スル出資者ニ便宜ヲ與ヘ、其出資ヲ獎勵スルト云フヤウナコトガ必要デヤナイカト思フノデアリマスカ、ソレ等ノ點ニ付テ何等カ政府ニ於テ御考案ニナッタコトガアルカ否ヤ、其事ヲ御伺ヒ致シタイ

〔政府委員西野元君演壇ニ登ル〕

○政府委員(西野元君) 唯今支那ニ於キマシテ事業ヲ經營イタシテ居リマスル會社ノ課稅ニ付キマシテ、何カ政府ニ於テ考究イタシタコトガアルカト云フ御尋デゴザイマスガ、私ノ存シテ居リマスル範圍ニ於キマシテハ、特ニ此問題ニ付キマシテ別段ノ考究ヲ致シタト云フコトハ承知イタシテ居リマセヌ

○菅原通敬君 政府ニ於テ何等別ニ御考究ニナッテ居ラナカッタト云フコトデ、左様デアリマスレバ已ムヲ得スト致サナケレバナラスノデアリマスガ、ドウゾ此案ノ御審議ニナル委員會ニ於テハ、其邊ニ付テモ御考慮ヲ以テ御審議ヲ願ヒタイト云フ希望ヲ述ベマシテ、政府ニ對スル質問ハ止メマス

○議長(公爵徳川家達君) 他ニ御質疑モナイト認メマスカラ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔小林書記官朗讀〕

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ資本ニ關スル法律案特別委員

伯爵松平 賴壽君 子爵毛利 高範君 子爵伊東 祐弘君

中村 是公君 男爵中島 久萬吉君 男爵長松 篤葉君

藤田 四郎君 田所 美治君 藤本 閑作君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第七、大正十一年度第二豫備金支出ノ件、第八、大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、第九、大正十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件、第十、大正十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議

大正十一年度第二豫備金支出ノ件

大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件

大正十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十二年三月二十日

衆議院議長 粕谷 義三

貴族院議長公爵徳川家達殿

一 大正十一年度第二豫備金支出ノ件

一 大正十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

一 大正十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件

一 大正十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

右帝國憲法第六十四條第二項ニ依リ承諾ヲ求ムル爲勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十二年三月十二日

内閣總理大臣兼海軍大臣	男爵加藤友三郎
外務大臣	伯爵内田康哉
陸軍大臣	山梨半造
司法大臣	岡野敬次郎
内務大臣	水野鍊太郎
農商務大臣	荒井賢太郎
大藏大臣	市來乙彦
文部大臣	鎌田榮吉
逓信大臣	子爵前田利定

〔政府委員西野元君演壇ニ登ル〕

○政府委員(西野元君) 改正會計法ノ施行ニ伴ヒマシテ、今回大正十一年度ニ屬シマス所ノ第二豫備金支出ニ關スル事後承諾案ヲ提出イタシマシタニ付キマシテ、之ニ伴ヒマシテ、同年度ニ於キマシテ豫備金外ニ於キマシテ、臨時支出ヲ致シマシタモノニ付キマシテモ亦之ト同ジク合セマシテ、本期議會ニ事後承諾案ヲ提出イタシマシタ次第デアリマス、之ニ付キマシテ茲ニ簡單ニ其内容ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、大正十一年度ニ於ケル一般會計ノ第二豫備金ノ豫算額ハ八百萬圓デゴザイマシタガ、之ヲ外務省所管山東條約實施委員派遣費、國際聯盟總會及國際勞動會議參列費、内務省所管ニ於キマシテハ外事警察施設費、社會局新設費、又海軍省所管ニ於キマシテ職工退職特別賜金、其他各省ニ於キマシテ風水害、又震災火災等ニ依リマス所ノ災害復舊ニ基キマスル所ノ諸般ノ經費ト緊急已ムヲ得マセヌモノニ充テマシテ、此豫算額全部ヲ支出イタシマシタノデゴザイマス、又特別會計ニ付キマシテハ、第二豫備金支出ノ主モノナルモノヲ申上ゲマスレバ、朝鮮總督府ニ於キマシテ、露國避難民救護費、臨時機密費、及ビ風水害ニ基キマス所ノ鐵道線路、並ニ道路其他ノ復舊費ニ充テタノデアリマス、又臺灣總督府及ビ樺太廳ニ於キマシテハ、何レモ風水害及ビ震災等ニ依リマスル復舊費ニ之ヲ充當イタシタノデアリマス、次ニ一般會計ニ於キマシテ第一豫備金並ニ第二豫備金ヲ拂切リマシタル關係、又朝鮮總督府特別會計ニ於キマシテハ第二豫備金、造幣局及專賣局ニ於キマシテハ何レモ第一豫備金ノ豫算ヲ拂切リマシタ爲ニ、政府ニ於キマシテ已ムヲ得ズ、歲計剩餘金、又ハ各特別會計歲入金ヲ財源ト致

シテ、豫算超過又ハ豫算外支出ヲ致シタモノガアリマス、其金額ハ一般會計ニ於キマシテ豫算超過支出三百二十餘萬圓、豫算外支出三百五十餘萬圓、合計六百七十餘萬圓デアリマシテ、各特別會計ニ於キマシテハ專賣局ニ於キマシテ豫算超過支出ニ充テマシタモノガ、五百十餘萬圓、朝鮮總督府ニ於テ豫算外支出ニ充テマシタモノガ百三十餘萬圓等デアリマス、今其事項ノ主要ナルモノヲ申上ゲマスレバ、豫算超過支出ニ屬スルモノハ一般會計大藏省所管ニ於キマシテ、諸拂戻及缺損補填金、織物組合交付金、司法省所管ニ於キマシテ在監人費等デアリマシテ、特別會計ニ於キマシテハ、專賣局賠償及購買費等デアリマス、又豫算外支出ニ付キマシテ主要ナルモノヲ申上ゲマスレバ、一般會計ニ於キマシテハ外務省所管ノ西北利亞居留民引揚費、間島地方臨時警備費、内務省所管ニ於キマシテハ北海道ノ災害土木費補助、逓信省所管ノ海底電信線修繕費、其他各省所管ニ互リマシテ災害復舊費等ヲ支出イタシマシタノデアリマス、又特別會計ニ於キマシテハ、朝鮮總督府ノ道路及ビ鐵道線路ノ災害復舊費等ニ要シマシタ經費デアリマス、以上諸般ノ第二豫備金並ニ豫備金外ノ支出ハ何レモ緊急已ムヲ得マセヌ事情ニ依リマシテ支出イタシマシタモノデアリマシテ、何卒御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第七、第八、第九及ビ第十各件ハ大正十年度豫備金支出ノ件外二件承諾ヲ求ムル件特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十一、大正十年度豫備金支出ノ件、第十二、大正十年度特別會計豫備金支出ノ件、第十三、大正十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件、承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議、委員長報告、大原伯爵ノ登壇ヲ望ミマス

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

大正十年度豫備金支出ノ件

大正十年度特別會計豫備金支出ノ件

大正十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十日

右特別委員長

伯爵大原 重明

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔伯爵大原重明君演壇ニ登ル〕

○伯爵大原重明君 唯今議題ニ上ホツテ居リマスル大正十年度豫備金支出ノ件、承諾ヲ求ムル件、大正十年度特別會計豫備金支出ノ件、承諾ヲ求ムル件、此三件併セマシテ委員ニ付託サレマシタニ依リマシテ、併セテ御報告イタシマス、此三件併セマシテ政府ガ事後承諾ヲ求メマシタ金額ノ總計ハ一千六百七十三萬圓餘デゴザイマス、豫算超過ノ支出ガ八百二十三萬圓餘、豫算外ニ必要ヲ生ジテ支出イタシマシタルモノガ八百四十九萬圓餘デアリマス、其財源ノ方カラ申シマスト、第一豫備金カラ支出イタシマシタルモノガ七百八十五萬圓餘、第二豫備金ヲ拂切リマシタ爲ニ剩餘金カラ責任支出ヲ致シマシタルモノガ四十一萬圓餘デアリマス、是等ノ費用ハ各省竝ニ朝鮮、臺灣兩總督府樞太廳ニ互ツテ居リマシテ、極メテ多様ニ互ツテ居リマスカラ一々茲ニ御報告イタシマセス、委員會ニ於キマシテ色々質問ガ多クゴザイマシタガ、其中デ最モ注意イタシマシタモノハ、外務省所管ノ電信料ノ百四十萬圓ノ支出デゴザイマス、是ハ豫算ガ百八十萬圓デアツテ、ドウシテ百四十萬圓ノ不足ヲシタカト云フコトニ付テ質問サレマシタノデアリマス、政府ハ此豫算ハ從來ノ豫算ヲ基トシテ立テタノデアツテ、此際國際事件ガ色々多カッタ爲ニ、已ムヲ得ズ是ダケノ不足ヲ生ジタト云フコトデアリマシタ、其外華盛頓會議ニ參列シマシタ費用ノ二百三十八萬圓餘、其在外鮮人ノ取締ノ費用、一年志願兵ニ關スル費用等ニ付テ質問應答ガゴザイマシタガ、總テ緊急已ムヲ得ナイト云フ御答辯デゴザイマシタ、委員會ニ於キマシテハ、慎重ノ審議ヲ致シマシタル結果、總テ緊急已ムヲ得ナイモノト認メマシテ、採決ニ入りマシテ、全會一致ヲ以テ承諾ヲ與ヘルコトニ議決ニナリマシタ、此旨御報告ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 唯今特別委員長大原伯爵ノ報告セラレマシタ承諾ヲ求ムル件、三件、承諾ヲ與フベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半敷ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十四、陪審法案、政府提出、衆議院送付、

第一讀會ノ續、委員長報告、二條公爵

陪審法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十二年三月二十日

右特別委員長

公爵二條 厚基

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔公爵二條厚基君演壇ニ登ル〕

○公爵二條厚基君 陪審法案ノ特別委員會ノ經過竝ニ其結果ニ付キマシテ御報告ヲ致シマス、此法案ハ御承知ノ如ク前議會ヨリ互リマシテ、今回モ亦再ビ茲ニ審議ヲセラルルコトニナッタノデアリマス、ソレデ既ニ其提出ノ理由ニ付キマシテハ、政府委員ヨリ昨年モ、亦今回ノ議會ニ上程サレマシタ日ニ、時ノ政府委員カラ御説明ガアリマシテ、十分ニ御承知ノコトデアルトハ存ジマスルケレドモ、委員會ノ經過ト致シマシテ、一應繰返シテ其提出ノ理由ヲ先ヅ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、政府當局ノ御言葉ニ依リマスルト、此本案ヲ提出イタシマシタ理由ハ、人文ノ發達シテ居リマスル今日ニ於テ、國民ヲシテ司法事務ニ參與セシムルト云フコトハ、立憲政治ノ本旨ニ副フ所以デアリマシテ、司法事務ニ付テ國民ヲ全然無關係ノ位置ニ置クト云フコトハ、適當ノ司法制度デハナイト云フ理由ガ一ツデアリマシテ、其次ノ理由ト致シマシテハ、國民ヲシテ司法事務ノ運用ニ參與セシメテ、國民ヲシテ司法事務ヲ理解セシメ、之ニ依ツテ司法ノ信賴ヲ高メマシテ、又他面ニ於キマシテ、其被告人ハ其信賴アル制度ノ下ニ、其法ニ悅服セシムルト云フコトガ、是ガ洵ニ必要デアルト云フヤウナ意味デ、政府ハ此案ヲ提出サレタノデアリマス、而シテ政府當局ニ於キマシテハ、其意味ニ於キマシテ、此憲法トノ關係ヲ十分ニ考慮イタシマシテ、其正條竝ニ規定ノ精神ニ順應セシメマシテ、且ツ我ガ國民ノ國風民俗ニ鑑ミマシテ、其實情ニ適セシメルコトヲ期スルト云フヤウナコトデ、此案ガ成立ツタノデアリマス、而シテ更ニ其案ニ付キマシテノ内容ヲ申シマスルト、政府當局ニ於キマシテハ、先ヅ次ノヤウナ數點ヲ重ネテ居ルノデアリマス、先ヅ其骨子トナルベキ第一ノ事柄ハ刑事事件ノ公判ニ陪審ヲ認メルト云フコトデアリマス、從ツテ其他ノ起訴ニ關スル陪審竝ニ民事事件ニ付テノ陪審ハ之ヲ認メナイト云フコトデアリマス、

第二ニハ陪審ハ犯罪事實ノ有無ヲ評議スルノデアリテ、裁判所ニ其結果ヲ答申イタスノデアリマシテ、裁判ノ一部ヲ行フモノデハナイト云フコトデアリマシタ、ソレカラ其次ニハ裁判所ガ罪ノ有無ヲ決スルニ當リマシテ、陪審ノ答申ニ反シマシテ、事實ヲ認定スルト云フコトハ出來ナイ、但シ答申ノ不當ト認めマシタ時ハ、更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ト云フヤウナ意味デアアルノデアリマス、其次ハ陪審ニ付スベキ事件ニ對シマシテ、法律上當然其陪審ノ評議ニ付スベキモノト、ソレカラ被告人ノ請求ニ依ッテ、初メテソレヲ陪審ニ付スルト、此二ツノ制度ヲ設ケテ居ルノデアリマス、サウ致シマシテ且陪審ノ評議ニ付スベキ所ノ事件ヲ適當ノ範圍ニ之ヲ制限シテ居ルノデアリマス、次ニ法律上當然陪審ノ評議ニ付スベキモノト雖モ、之ヲ辭退スルコトガ出來ル、詰リ此陪審制度ハ決シテ強制ヲスルノデナイト云フ一ツノ事ヲ半面ニ現ハシテ居ルノデアリマス、其次ニハ陪審員ハ法律ノ定メタ資格ノ有ル者ノ中カラ抽籤ヲ以テ之ヲ選定スル、以上、先ヅ大體六ツノ事項ヲ政府委員ハ述べラレマシテ、其骨子ヲ以テ此案ヲ組立テラレタト云フノデアリマス、ソコデ委員會ニ於キマシテハ政府委員ノ御説明ヲ聽キマシテ、ソレカラ直チニ質問ヲ致シタノデアリマス、デ應答質問ハナカナカニ澤山ニゴザイマシタガ、其中ノ一二ヲ取上ゲテ申上ゲマスレバ、或委員カラ事實ノ認定ハ裁判ナリト云フコトニ關シテ法律上及法理上ノ根據ニ依ッテ見テ、殊ニ又憲法上ノ方面カラ見テ、ドウ云フ關係ニ立ッテ居ルカト云フヤウナ御質問ガアッタノデアリマス、其時ニ政府委員ノ答辯ハ事實ノ認定ハ裁判ナリヤ否ヤト云フコトニ先ヅ二ツノ説ガアル、即チ一ツハ裁判ハ法律ノ適用デアルト云フコトト、ソレカラモウ一ツハ事實ノ認定ハ裁判ノ一部デアアル、斯ウ云フ説ガアル、ソコデ政府トシテハ何レガ正シイカト云フコトニ對シテ判斷シ兼ルノデアアル、併ナガラソレヲ採用スル上ニ於キマシテモ、政府トシマシテハ、ソレハ其何レノ説モ之ヲ採用シテ居ナイ、唯私一己ノ私見トシテ考ヘレバ、先ヅ一般ノ通説ニ從フト云フコトガ穩當デアルト云フヤウナコトデアリマシタ、ソレカラ憲法上ノ根據ヨリ致シマシテ、詰リ裁判ト云フ字義ノ解釋如何ニアルト云フヤウナ御答ガアッタノデアリマス、殊ニ憲法ノ正條ノ上ニモ、前述ベラレマシタ二ツノ説明ニ對シテ、何レトモ判斷スル根據ヲ見出サナイト云フヤウナ御話デアリマシタ、ソレデ此案ノ立法當時ニ於キマシテモ、此根本問題ニ對シマシテハ少シモ觸レナイヤウニ、又憲法ノ條規ニモ抵觸シナイヤウニ、慎重

ニ審議ヲシタト云フコトデアリマス、デ假ニ若シ前ニ申シ上ゲマシタ二ツノ説ノ何レヲ採用シタト致シマシテモ、是ハ決シテ違憲ニナラヌト云フ所ノ説明ガアッタノデアリマス、ソレカラ又次ニ斯ウ云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、陪審員ノ評決ハ裁判官ノ意見ヲ拘束スルヤ否ヤ、ソレデ即チ意思ノ合致スルマデ裁判ガ出來ナイト云フコトハ、裁判上ソレ自體ノ實質上ノ要件デアアル、決シテソレガ條件デハナイ、斯ウ云フ風ニ考ヘルト、陪審員ノ答申ト云フモノハ參考デハナイ、裁判ヲナス要件デアアル、然ラバ此陪審員ト裁判官ノ雙方ガ協力シテ初メテ裁判ト云フモノガ成リ立ツモノデ、斯ウ云フ風ニ考ヘレバドウシテモ是ハ拘束サレルモノデハナイカ、政府當局ノ意見ハドウデアアルカト云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府當局ハ、拘束力ガアルト云フコトハ、裁判上自ラノ意思ニ反シテ答申ニ從フト云フ時ニ拘束力ガアルト思フ、然ルニ雙方ガ一致シタ場合ニ裁判ヲスルト云フコトハ自己ノ意思ニ反シテ答申ニ從ッタモノデハナイ、即チ雙方ガ合致シタ時ニ裁判ヲ行フト云フコトデアアル、ソレデアアルカラシテ憲法上ニ於テモ何等ノ拘束ト云フモノガナイ、併ナガラ事實上ニ於テ手續デアルト云フノデアリマス、即チ陪審員ノ答申ハ裁判スル上ノ一ツノ手續デアルト云フノデアリマス、カラ、此手續ト云フ一ツノ條件ト云フモノガ出來ナケレバ裁判ト云フモノハ出來ナイ、唯ソレニ止ッテ居ルト云フヤウナコトデアリマス、サウシテ又此事ニ付キマシテハ色々又他ニ學説ガアッテ、或ハ強制鑑定、強制證據ト云フヤウナ學説モアルヤウデアアル、併ナガラ政府ニ於キマシテハソレ等ノ學説ハ別ニ固執スル譯デハナイ、兎ニ角何レニ致シマシテモ此憲法上ノ問題ニハ觸レナイト云フヤウナ御説明デアッタノデアリマス、兎ニ角此問題ニ付キマシテノ質問應答ハ可ナリ澤山ニアリマシテ、今此處ニ其他ノ御話ヲ致スコトハ餘リニ煩ニ堪ヘマセヌカラ省キタイト思フノデアリマス、先ヅ大體斯ウ云フヤウナ質問應答ガアッタノデアリマスガ、既ニ第一回ノ速記録モ御手許ニアルト云フ以上ハ、細カイ點ニ付テハ既ニ其方デ御承知デアラウト思ヒマス、兎ニ角サウ致シマシテ此質問ハ打切りマシテ、討論ニ移ッタノデアリマス、然ルニ討論ニ移リマシテカラ替否兩説ガアリマシテ、意見ヲ述べラレル方ガ澤山アリマシタ、其中デ先ヅ反對論ノ理由ヲ少シバカリ申上ゲテ見マスレバ、此陪審法案ハ尙ホ研究スベキ必要ガアル、ソレ故ニ今直チニ之ニ替同スルコトハ出來ナイ、斯ウ云フ理由デアリマス、其意味ハ憲法ニ抵觸セズト云フ説

ガ澤山ニアル、併ナガラソレハ十分ニ理解ガマダ出来ス、ソレデ自分ハ概觸  
スルト信ジテ居ルケレドモ、ソレモ最宜シイ議論トモマダ思ハナイ、兎ニ  
角憲法ニ概觸スル疑ガアル法案デアルト云フ意味ナノデアリマス、ソレ故ニ  
俄ニ替成ガ出来ズ、ソレカラ又斯ウ云フ理由ガアッタノデアリマス、此法案  
ノ提出理由ガ誠ニ薄弱デアルト云フコトデアリマス、其説明ト致シマシテ、  
近代の傾向ハ民意ガ果シテ其陪審制度ニ對シテ熱望シテ居ルカドウカ誠ニ  
疑ハシト云フ點デアリマス、ソレカラ又民意ヲ徵スルニ、裁判官ニ對シテ  
怨嗟ノ聲ヲマダ聞カナイト云フコト、ソレカラ又裁判ノ手續上ニ付テ、民意  
ガ其要點ニ在シテ居ルト云フコトナンデアリマス、ソレカラ又事實ノ認定  
ニ付テ裁判官ノ常識ト陪審員ノ常識ノ差ガ生ズベキ所ハ一體ドノ位アルカ、  
サウ云フ點ニ付テ民意ノ常識ト云フモノガドレダケソコノ働キヲ爲スカ、其  
點ニ付テ疑ガ澤山ニアルト云フヤウナコトデアアル、其外又莫大ノ費用ヲ掛ケ  
テマデモ敢テスルト云フコトハ、如何デアアルカト云フヤウナ理由モアリマシ  
タ、ソレカラ又國民ノ貧富ノ差ニ依ッテ、幸不幸ヲ生ズルト云フコトハイケ  
ナイ、ソレカラ又陪審員ヲ付スルト云フコトニ付テモ、ソレガ一般デナクシ  
テ、付セラレルモノモアレバ、又付スルコトノ出来ナイモノモアル、是ハ一  
體公平ヲ缺クモノデアルト云フヤウナ理由モアリマシタ、ソレカラ又國民ノ  
要望スル所デハナイ、國民ハ其利害ヲ少シモ痛感シテ居ラナイ、ソレカラ又陪  
審員ヲ撰擇シテモ、適當ナ人ヲ得ルト云フコトハ誠ニ困難デアアル、況ヤ抽籤  
ヲ以テソレヲ選ブト云フコトハ、其素人ニ適當ナル判斷ガ十分ニ出来ルヤ否  
ヤト云フコトヲ疑フモノデアルト云フヤウナ御説モゴザイマシタ、其他黨派  
的ノ影響ヲ受ケル虞ガアリヤ否ヤト云フコトモ、反對ノ理由トシテ述ベラレ  
タンデアリマス、ソレニ對シテ又贊成ノ方ノ理由ヲ承ハッテ見マスト、一體  
今、現今普通選舉ヲ熱望シテ居ル程度ガ誠ニ盛ンデアアル、國民ハソレニ向  
ッテ非常ニ強烈ナル希望ヲ懷イテ居ル、ソレデ立法ト司法ト云フモノハ區別  
ハサレテ居ルケレドモ、法的國民權トシテハ、ソコニ差別ヲサレル筈ハナ  
イ、矢張り同ジク陪審……詰リ司法權ニ向ッテモ國民ノ要求ガナケリヤナラ  
ヌヤウナモノデアリマス、ソレカラ此法案ハ議會ニ上程スル前ニ、既ニ法制  
審議會ニ於テモ滿場一致ヲ以テ通過イタシ、ソレカラ樞密院ニ於テモ非常ナ  
ル贊成ヲ得テ、更ニ衆議院ニ於キマシテモ之ガ通過ヲ見タノデアアル、サウス  
レバ朝野一致シテ此要求ト云フモノガ現ハレテ居ルト云フコトヲ言ッテモ過

言デハナイ、サウ云フ議論モアッタノデアリマス、ソレカラ又歐米ノ弊害ヲ見  
マシテ、サウシテ直チニマダ日本ノ施行サレナイ所ノ此法案ニ對シテ、直チニ  
同一ナル弊害アリトシテ之ヲ責ムルト云フコトハ甚ダ妄斷デアアル、サウ云フ  
コトヲ述ベラレテ居ルノデアリマス、ソレカラ立憲ヲ謳歌スベキ國ニ於テ、  
此實現ニ對シテ反對ヲスル理由ト云フモノハ更ニ分ラナイ、全智全能ヲ有ス  
ル人格權ヲ成ルベル廣ク認メルト云フコトハ、是ハ誠ニ喜ブベキコトデア  
ルト云フコトデアリマス、其他此案ガ決シテ或都合デ妙ニ出来上ッタモノデ  
クシテ、是ハ當然ノ成行デアッテ、決シテ無理ナ理由ニ依ッテ生ジタモノデ  
ナイ、ソレデ或ハ未熟ナルコトヲ非難スル人モアル、或ハ又其法ノ完璧デナ  
イコトヲ以テ排斥スル方モアルカモ知レナイガ、併ナガラ是ハ初メヨリシテ  
完璧ヲ期スルト云フコトハ餘程困難ナコトデアアル、兎ニ角是ハ世界ニ於テモ  
餘程異ッテ居ル所ノ法案デアアル以上ハ、直チニ外國ノ例ヲ引イテ以テ、之ニ  
對シテ色々ノ非難ヲスルト云フコトハ、誠ニ遺憾デアルト云フヤウナ御説明  
モアッタヤウニ聽イテ居ルノデアリマス、ソレデ兎ニ角委員會ニ於キマシテ  
ハ、前後七回ニ互リマシテ此法案ヲ慎重審議イタシタノデアリマス、而シテ  
何等ノ修正案モ出デズシテ、多數ヲ以テ此法案ガ委員會ニ於キマシテ可決サ  
レタンデアリマス、ソレ故ニ何卒十分ノ御審議ヲ願ヒタイト思フノデアリマ  
ス、以上ヲ以テ此委員會ノ報告ヲ終リタイト思ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ討論ニ移リマス、通告順ニ依リマシテ、若  
槻禮次郎君ノ登壇ヲ願ヒマス

〔若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○若槻禮次郎君 陪審法案ニ付テハ、提出當初ニ於テ私ハ政府ニ向ッテ種々  
ナル質問ヲ致シマシタガ、何レノ點ニ向ッテモ、満足ナ御答辯ヲ得ナカッタ  
デアリマス、斯ノ如キ法律案ガ特別委員會ニ於テ、御多數ノ贊成ヲ得ルコ  
トハ決シテアルマイト信ジテ居リマシタノニ、豈圖ランヤ、唯今委員長ノ報  
告ヲ承ハリマスルト云フト、委員ノ多數ノ方ガ本案ニ御贊成ニナッタト云フコ  
トデアアル、是ハ實ニ國家ノ爲ニ大不幸デアアルノデアリマス、ソレデ已ムヲ得  
ズ、茲ニ本案ニ對スル反對論ヲ述ベナケレバナリマセヌ、私ガ此案ニ付テ反  
對イタシマスル理由ハ、澤山ニアルノデアリマスケレドモ、悉ク之ヲ申述ベ  
ルト云フコトハ、餘リ時間ヲ取ルコトデアルト存ジマスノデ、大體ニ付テ申  
上ゲルノデアリマスガ、大體ニ付テ申上ゲテ……私ハ本案ニ對シテハ先ヅ

第一ニ政府ガ之ヲ提案セラレタル理由ガ薄弱デアルト云フコトカラ反對ヲ致スノデアアル、第二ニハ陪審制度ニハ多大ノ弊害ガアル、是ハ外國ニ於テ實驗シテ居ル所デアアル、日本ニ於テ之ヲ實行シタナラバ、更ニ外國ガ實驗シタヨリ以上ニ弊害ガ生ズルト云フコトハ、是ハ今日カラ斷言シテ差支ナイト存ジマス、ソレデアリマス故ニ之ニ反對スル、第三ニハ政府モ言ハレ、唯今、委員長モ言ハレマシタ、陪審制度ハ輿論ノ要求スル制度デアルト言ハレタガ、決シテ左様デハナイ、陪審制度ハ決シテ輿論ハ之ヲ要求シテ居ナイ、此理由ニ依テ又反對スルノデアリマス、第四ニハ陪審制度ヲ日本ニ設ケルト云フコトハ帝國ノ憲法ニ牴觸スル、憲法ニ牴觸スル法律案ヲ作ルト云フコトハ出來ナイト云フ意味ニ於テ反對スルノデアリマス、第五ニハ近來、日本ニ於テモ刑事政策ノ段々新タナルモノヲ拵ヘラレテ、之ヲ作ラレル以上、陪審制度ニ聊カタリトモ利益ノ點ガアリトシタナラバ、其利益ノ點モ今日皆消滅セシメテ、何等此必要ヲ見ナイト云フコトマデニ相成ッテ居ル、此意義ニ於テ反對スルノデアリマス、第六ニハ陪審制度ヲ採用イタシマス、裁判事件、殊ニ刑事事件ガ滯滞シテ來ル、是ハ國民ノ權利ニ重大ナル關係ガアルト存ジマスカラ、此意味ニ於テモ反對ヲ致シマス、第七ニハ陪審制度ヲ實行スレバ、良民ノ……惡漢ハ別デアリマスガ、良民ハ非常ニ迷惑ヲスルコトニナルノデアリマス、ソレデアリマスカラ陪審制度ナルモノハ決シテ施行スベキモノデナイト思フノデアリマス、第八ニハ今提案セラレテ居ル所ノ陪審法案ニ依リマスルト、費用ヲ納メネバナラス、請求ヲシテ陪審ヲ求メル時ニハ……ソレ故費用ヲ納メル力ノアルモノトナイモノトガ、陪審ヲ受ケルコトガ出來タリ、受ケルコトガ出來ヌト云フコトニ相成ルノデアリマスカラ、刑事上ニ貧富ノ差別待遇ヲナスコトニナリ、是ハ甚ダ宜シクナイコトデアルト存ジマス、第九ニハ陪審制度ヲ計畫セフレテ居ル所ノ今日ノ政府ハ、財政ノ整理ヲ高唱シテ居ラレル、其方針ト正シク相反スルモノデアアル、此意味ニ於テ又私ハ本案ニ反對スルノデアリマス、第十ニハ陪審制度ヲ設ケラレタ所ガ、ソレニ依ッテ今日ノ司法權ヲ改善シヤウト云フ其目的ノ核心ニハ決シテ觸レナイノデ、九デ見當違ヒノコトデアアル、此意味ニ於テ反對スルノデアリマス、私ノ反對スル理由ハ此十デアリマス、モットアリマスケレドモ、餘リ長クナリマスカラ、此十二止メタナデアリマス、是カラ此十ノモノヲ説明イタシテ御參考ニ供シ、ドウゾ斯様な惡法ハ御作リニナラヌヤウ、諸君ノ御考慮ヲ求メタイノデアリマス、第一、

政府ノ提案ノ理由ガ甚ダ薄弱デアアル、唯今委員長ノ述べラレタ通り、政府ハ陪審制度ヲ作ルコトハ、立憲ノ精神ニ適合スル、國民ヲシテ裁判ニ悅服セシメル爲デアアル、是ガ今回ノ提出ノ主ナル理由、寧ろ全部ノ理由デアリマス、之ヲ除イタナラバ政府提案ノ理由ナルモノハナイノデアリマス、是ガ極メテ薄弱ナル理由デアリマス、凡ソ法律ヲ作ルノニ、實益ナキ空想ニ依テ法律ヲ作ルト云フコトハ、何處ニ其必要ガアルノデアリマスカ、現實ニ斯ウ云フコトガアル、之ヲ實行シナケレバナラス、若クハ之ヲ矯正シナケレバナラスト云ウテ初メテ法律ヲ作ルモノデアアル、唯今、私ガ紹介シタ政府提案ノ理由ナルモノハ、立憲ノ精神ニ適スル、國民ヲシテ裁判ニ悅服セシムルト云フ理由デアリマス、何モ目前ニ之ヲ實行シナケレバナラスト云フ、目前ノ事柄デモ何デモナイ、世間ニハ今日ハ一部ニ確ニ陪審制度ニ賛成ヲシテ居ルモノガアリマス、悉ク反對シテ居ルトハ申シマセヌ、一部ハ陪審制度ニ賛成シテ居ルモノガアル、何故斯ウナッタノデアリマス、是ハ過日私ガ質問ヲ致シタ場合ニ申上ゲタノデアアルガ、是ハ世間ノ所謂政治家ト稱スルヤウナ人達ガ、最近ニ至ッテ刑事被告人ニナッタ場合ガ屢々アッタ、是等ガ遭遇シタ苦痛カラシテ、如何ニモ今日ノ裁判所ノ状態ガ慘酷デ人權ヲ蹂躪スルト云フ状態デ、之ヲ何とか免レル方法ヲ講ジナケレバナラス、斯ウ言ッテ見渡シタ時ニ何ガアルカト云フト、世間曾テ陪審制度ヲ唱ヘテ居ル事柄ガアッタガ、アノ陪審制度ヲ捉ヘテ來タナラバ、或ハ我々ノ遭遇シタ苦痛カラ、將來ノ被告人ヲシテ免レシメル云フコトガ出來ル……云フ考ガ起ツタ、是ガ私ハ本デアラウト思フ、モット前カラ陪審制度ヲ唱ヘテ居ッタモノモアルヤウデス、ソレハ殆ド辯護士ノ仲間ダケニ止ッテ居ッタ思ヒマス、辯護士諸君ハ陪審制度ガアッテ、素人ニ對シテ巧ニ辯論スルト云フ所以ハ、是ハ自分ノ論ニ引キ付ルコトガ出來マス、辯護士社會ニ於テ陪審ニ對スル歡迎論ノアルノハ當然デアアル、併ナガラ是ハマダ政治論デハナイ、是ガ政治論トナッテ愈々國家ノ制度トシテ成立セシメナケレバナラスカ否ヤ、斯ウ云フコトヲ決スル段ニ至ッテハ、唯辯護士ノ便宜ト云フコトノミヲ以テ、決シテ之ヲ論ズベキモノデアリマセヌ、是ガ問題ニナッテ來タノハ、全ク世間ニ稍、世ノ中デ知ラレテ居ル、彼等ハ政治家デアルトカ何トカ言ハレテ居ルヤウナ人ガ、刑事ノ被告人ニナッテ非常ナ苦痛ヲ受ケタ、ソレニ對シテ是デハカナハヌ、斯様な人權蹂躪ガアッテハカナハヌカラ、其人等カラ盛ンニ人權蹂躪ヲ唱ヘル、世間ヲ調べテ見ルト果シ

テ非常ナ慘酷ナコトガアル、是デハ相成ラヌト云フコトカラ、ソコデ初メテ此陪審論ガ政治問題ニナッタノデアリマス、之ヲ巧ニ捉ヘテ問題ニシタノガ前々内閣ノ原總理大臣デアリマス、世間ニ稍サウ云フ議論ガアル、而シテ自己ノ僚友、友人ノ仲間ニ、隨分此苦痛ヲ受ケタモノガアル、是デハナラヌト考ヘテ居ル空氣ガ周邊ニ瀰漫シテ居ル、ソコデ陪審制度ヲ捉ヘラレテ、陪審制度ガ提出セラレタト云フノハ、全ク最近ニ於ケル其實カヲ始タコトデアルト思フ、所ガ陪審制度ヲ設ケラレタナラバ、唯今申上ゲタ如ク、世間ノ所謂人權蹂躪ナルモノガ矯正サレルヤ否ヤ、決シテサウハ參ラヌノデアリマス、此事ハ過日私ハ詳細ニ申述ベマシタガ、人權ヲ蹂躪スルト言ハレテ居ルノハ、多クハ警察署ニ於テデアアル、多クハ檢事局ニ於テデアアル、多クハ豫審廷ニ於テデアリマス、公判ニ於テ人權ヲ蹂躪シヤウト云ッタテ出来ヤウガナイ、公判ハ公衆ノ眼前ニ於テ之ヲ行フノデアアル、公衆ノ傍聴ノ前ニ於テ之ヲ行フノデアアル、此處デ決シテ人權蹂躪ナルモノガ出来ルモノデヤナイ、人權蹂躪ナルモノノ行ハレ得ルノハ、警察ニ於テデアリ、檢事局ニ於テデアリ、豫審廷ニ於テデアアルノデアリマス、事實ハ私ハ是ガアルヤ否ヤ詳シキコトハ知リマセヌ、又私自身ハ之ニ遭遇シタコトハアリマセヌカラ能ク存ジマセヌ、併シ色々出會ッタ人ノ話ヲ聞キ、又新聞等ニ依ッテ事實ヲ明瞭ニセラレタモノニ依ッテ見マスト云フト、皆警察署或ハ檢事局、豫審廷ニ於テアルノデアアル、公判廷ニテ決シテ人權蹂躪ハナイノデアリマス、ソレナラバ公判ノ判決ガ又大ニ間違ッテ、人權ヲ蹂躪シタヤウナ判決ガアル、事實ヲ間違ヘテ非常ニ人ニ多大ノ迷惑ヲ及ボシタヤウナ判決ガアツタカト云ヒマスト、私ノ寡聞ナル今日マデハ餘リ承知イタシマセヌ、殊ニ死刑ニ處セラルル如キ被告人、無期懲役ニ處セラルル如キ被告人ニ於テ、公判ニ於テ間違ッタル判決ヲ受ケタト云フコトハ、私共ハ是マデ殆ド聞イタコトハナイノデアリマス、ソコテ斯様ナル法律ヲ提出セラルル以上ハ、政府ニ於テハ事實ヲ十分承知シテ居ラルルノデ、左様ナ事實ヲ矯正スルガ爲ニ、陪審制度ヲ設ケルノ外仕方ガナイ、茲ニ陪審員ヲ入レテ之ヲシテ事實ノ認定ヲ爲サシメテ、間違ノナイヤウニシナケレバナラヌト云フ考ガ起ッタト云フノニハ、必ズ政府ニ於テハ誤判、重大ナル過失ガ十分ニアツテ、之ヲ御承知ニナツテ居ルコトト思フノデ、左様ナ實例ガアリマスカト云フコトヲ御尋ネシタノデアリマス、當時政府ハナイト仰シヤッタ、是アルト云フ證明ハ出来ヌ、左様ナコトハナイト言ハレタ、政府自身モ一向

裁判所ノ判決ニ於テハ大ナル間違ハナイ、大ナル過ハナイ、ソレニ依テ無罪ノ者ガ有罪ニ處セラレタリ、全ク罪ノ輕イ者ガ死刑ニ處セラレタリト云フヤウナ事實ハナイト、政府ハ言ッテ居ルノデアリマス、サウスルト云フト、陪審制度ヲ設ケテ、若シ外國ニアレ如キ「グランドジユリー」ト稱ヘル所謂起訴陪審ト云フモノ、即チ有罪トシテ起訴スルヤ否ヤト云フコトヲ判斷スル陪審官ナラバ、或ハ今日ノ日本ノ所謂人權蹂躪ナルモノヲ若干矯正スルコトガ出来ルノデアリマセウ、然ルニ此度提出セラレタル陪審法ニ依リマスト云フト、起訴ニ付テ陪審ヲスルノデハナイ、起訴セラレタ事實ニ付テ、愈々公判ヲセラレタ場合ニ、裁判官ノ前デ此陪審ヲスルノデアアル、世間ニ所謂人權蹂躪ノ行ハレテ居ル場所ニハ關係ガナイノデアリマス、ソレデアリマスカラ之ヲ設ケテ今日ノ屢々世間ノ評判ニナリ問題ニナッタ人權蹂躪ナルモノヲ無クシヤウト考ヘラレテモ、一向是ハ關係ナイノデアアル、ソレナラバ之ヲ設ケテ何カ今日ノ裁判官ノ誤ヲ正サウトスルノデアアルカ、今日ノ裁判官ニハ誤ガナイノデアアル、ドツチカト云ヘバ公平ナル裁判ガ多イ、ドツチカト云ヘバ定ニ人情ニ適シタル裁判ノ方ガ多イノデアリマス、私共ノ承知シテ居ル所ニ於テハ皆サウデアアル、裁判官ハ適當ナル裁判ヲ今日ハ下シテ居ルノデ、決シテ誤ッタル裁判ナドヲ下シテ居ナイノデアリマス、此誤モナシ、間違モナシ、立派ニ行ハレテ居ル此法廷へ、何ノ必要ガアツテ此陪審員ト云フモノヲ持込ムノデアリマスカ、何カ茲ニ缺點ガアル、此缺點ヲ矯正スルガ爲ニ陪審員ヲシテ何トカサセナケレバナラヌト云フナラバ、陪審制度ヲ設ケル理由ガ茲ニ生ジテ來ルノデアリマス、然ルニ左様ナ缺點ハ何モナイ、ナイノミナラズ却テ陪審員ガ入ッテ來レバ、今日ノ立派ナル裁判ハ、後ニモ申上ゲマスガ、却テ悪クナルニ極ッテ居ル、良イ裁判ヲ悪クスル爲ニ陪審員ヲ此處へ設ケル、是ハ何ノ必要ガアリマセウカ、必要ドコロノ話デナイ、斯様ナコトヲスルト云フコトハ、前申上ゲタ如ク、私共ハ此法律ヲ制定ナサレルコトハ 國家ノ不幸デアアル、即チ國家ノ將來ニ於テ大ナル害毒ヲ貽スモノデアルト言ハナケレバナラヌ、此點ニ於テ何等現在ヲ矯正シナケレバナラヌト云フダケノ、現在事柄ガナイニ拘ラズ、斯様ナ制度ヲ提出セラルル、而シテ世間ハ陪審制度ガ出来タナラバ、裁判所ニ於ケル總テノ取扱ガ改善セラレテ、所謂人權蹂躪ナルモノノ跡ヲ絶ッデアラウト思ッテ居ル、ソレハ全ク裏切ラレテ仕舞フノデアリマス、世間ノ期待ハ裏切ラレテ、而シテ裁判所ニ於テ何ニモ惡イコトガナイノニ、斯様ナ

弊害多キ制度ヲ持込デ來ルニ至ッテハ、私共ハ何ト云フコトデアルカ、殆ド理解スルコトガ出來ヌ、政府ハ陪審制度ハ立憲ノ精神ニ適スルト言ハレル、立憲ノ精神ニ適スルト言ハレルノデアリマスカラ、私ハ之ニ付テ果シテサウデアルヤ否ヤト云フコトヲ申上ゲテ見タイノデアリマス、司法大臣ハ本案提出ノ際ニ理由ヲ述ベラレル一ツトシテ、今日ハ立法權ニモ國民ハ參與シテ居ル、行政權ニモ自治體ニ於テモ之ニ參與シテ、司法權ノミ國民ノ參與ガナイ、是ハ立憲ノ精神ニ適ハヌ、ソレデアル故ニ陪審員ヲ設ケテ裁判ニ參與セシメテ、立憲ノ精神ヲ發揮スルヤウニスルト云フノガ、言葉ハ其通リデアリマセス、意味ハ其意味ヲ以テ司法大臣ハ茲ニ述ベテ居ラル、ノデアリマス、陪審員ヲ裁判所ニ呼出シテ、犯罪事件ノ事實ヲ評決ヲサセタ爲ニ、何處ニ司法權ニ對スル國民ノ參與ト云フコトガアルノデアリマスカ、陪審員ト云フモノハドウシテ定メルノデアリマスカ、此法案ニ依ッテモデアリマスガ、外國デモ其通リデアルガ、私ハ外國ノコトヨリモ、却テ今提出セラレテ居ル此法律案ニ依ッテ申上ゲマスガ、此法律案ニ依ッテ見テ、陪審員ハドウ極ルカト云フト、豫テ三十歳以上ノ男子デ、讀書ノ出來ル者ノ中カラ、國務大臣ヲシテ居ル者ヤ色々此法律案ニ依ッテ除外セラレタ者ヲ除イテ、其後ヲ皆拾上ゲテ置イテ、其中カラ抽籤定メルノデ、籤引定メルノデアリマス、決シテ公選シテ陪審員ヲ極メルノデモ何デモナイ、籤定メルノデアリマス、國民ノ代表ト云フノハ、國民ガ選舉シテ是ガ我々ノ代表デアルト云ッテ、國民ヲシテ立法ニ參與セシメル、自治行政ニ參與セシメルト云フナラバ、ソレハ國民ノ代表ト言ハレルノデアリマセウ、籤ヲ以テ籤ニ當ッタ者ヲシテ唯意見ヲ言ハシメル、何處ニ、其處ニ國民ノ代表ト云フモノガアルノデアリマセウカ、此點ニ於テハ陪審制度ノコトニ付テ最モ心ヲ用セラレテ、我國ニ於テ陪審制度ヲ用フベキヤ否ヤト云フコトニ付テ最モ心ヲ勞セラレテ、外國ノ學理ナリ實際ナリヲ調べラレタノミナラズ、日本ノ法律顧問タル外國人ニモ、十分意見ヲ言ハシメテ、總テノ點ヲ、兩端ヲ叩イテ、何處ノ點ヲ叩イテ見テモ、陪審制度ナルモノガ採ルベキモノデアアルカ、採ルベカラザルモノデアアルカト云フコトニ、深キ研究ヲ積マレタ所ノ故ノ井上子爵ガ、日本ガ治罪法ヲ定メル時ノ法律顧問ノ「ボアソナード」ト云フ人ガ、日本ニ於テモ陪審制度ヲ採ラナケレバナラスト云フ主張ヲシタノニ對シテ、十分ニ研究セラレテ、研究セラレタ結果、結局陪審制度ナルモノハ、外國ニ於テモ害ガアッテ一向益

ノナイモノデアアル、況ヤ日本ニ於テ斯様ナモノハ採ルベキモノデナイト云フコトノ結論ヲセラレテ、治罪法ヲ制定セラレタ時ニ、「ボアソナード」氏ガ非常ニ主張シタノニ拘ラズ、之ヲ取上ゲラレナカッタ、其井上子爵ノ茲ニ陪審論ト云フ遺稿ガアリマシテ、陪審論ガアリマス、此中ノ一節ヲ讀上ゲテ見マス、實ニ能ク適切ニ、陪審ナルモノハ決シテ國民ノ代表デナイト云フコトヲ云ッテアルノデアリマス、「蓋シ法家陪審ニ付スルニ國民裁判ノ名ヲ以テスルハ其論點抽籤法ヲ用ヒテ十二名ヲ公衆ノ中ニ抜キ託スルニ國民總代ノ名ヲ以テスルニ過ギズ、夫レ衆ニ抜ク者ハ當ニ衆ノ推ス所ヲ用ユヘシ、然ルニ抽籤之ヲ擇ブ、樽蒲ト何ゾ異ナラム、其人果シテ衆民ノ總代ト爲スニ足ルカ」斯ウ云ッテ非難ヲシテ居ル、籤ヲ以テ人ヲ極メル、國民總代ト云フナレバ、國民ガ選舉セナケレバナラス、國民ノ選舉シタ者デナクテ、籤ヲ以テ極メル、籤ヲ抽イテ極メルト云フノハ、樽蒲ト何ゾ異ナラム、博奕打ツト何ゾ異ナラム、御神籤抽クノト何ゾ異ナラム、ソレデハ決シテ國民總代ナント云ッタ所ガ、決シテ左様ナモノデハナイト云フコトヲ、誠ニ明瞭ニ論ジテ居ラレルノデアリマス、此點ニ付テハ「ボアソナード」氏自身モ亦認メテ居ルノデアリマス、決シテ國民ノ代表デナイト云フコトヲ……是ハ井上子爵カラ箇條ヲ擧ゲテ、自分ハ斯ウ思フガ、之ニ付テ貴方ハドウ思フカト云ウテ、質問ヲセラレタ、其一箇條ノ今ノ點ニ對テ「ボアソナード」ノ答ニ「陪審裁判ヲ國民總代ノ裁判ト爲スハ非ナリ、思フニ貴國國民總代ヲ以テ裁判セシムトセラレルヨリ陪審ハ普通公選ヲ以テスルニ非ザレバ總代ノ名ニ當ラズトセラル、ニ至リシナリ、然レドモ陪審ヲ舉ルニ公選ノ法ヲ以テセントスルハ、未ダ世人ノ論ゼザル所ニシテ普通公選法ヲ主張スル者ト雖モ亦曾テ其公選タルコトヲ欲セザルナリ」ト云ッテ居ルノデアリマス、陪審制度ヲ主張シタ「ボアソナード」其人ガ、陪審制度ハ決シテ國民總代デハナイ、國民ノ代表デハナイ、國民ヲシテ裁判ニ參與セシムルモノデハナイト云フコトヲチヤント認メテ居ルノデアリマス、之ヲ今ノ政府ハ陪審制度ハ國民ヲシテ裁判ニ參與セシムルモノデアッテ、立憲ノ精神ニ適スルナント言ハレル、左様ナコトハ何所ニモナイノデアリマス、外國デモサウデナイ、學者モサウデナイト言ッテ居ル、唯今申上ゲル井上子爵ナドハ兩端ヲ叩イテ十分ニ研究セラレテ、サウシテ決シテ國民總代デハナイト云フコトヲ認メテ居ラレル、此法案自身モ抽籤ニ依ッテ之ヲ定ムト云ッテ、一向選舉ヲシテ居ラナイノデアリマス、陪審ハ決シテ國民總代

デハナイノデアリマス、私ノ理由ハマダ大分アルノデアリマスカラ、唯今十二時ニナッタサウデアリマスカラ、茲デ私ハ暫ク休ミマシテ、更ニ後カラ申上デマス

○議長(公爵徳川家達君) 休憩ヲ致シマシテ午後一時三十分ヨリ開會イタシマス

午後零時五分休憩

午後一時三十九分開會

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス

[長書記官朗讀]

本日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ直ニ之ヲ衆議院ニ回付セリ

恩給法案

本日本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決シタル左ノ政府提出案ハ直ニ之ヲ奏上シ又承諾スヘキモノト議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

大正十年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正十年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

本日本院ヨリ左ノ報告書ヲ受領セリ

大正十一年四月一日現在國有財産現在額總計算書

大正十一年四月一日現在國有財産現在額總計算書検査報告

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、若槻禮次郎君

[若槻禮次郎君演壇ニ登ル]

○若槻禮次郎君 私ハ陪審法案ニ對シテ反對ノ意見ヲ有ッテ居リマス爲ニ、午前中ニ之ニ反對スル理由ノ大體ヲ申上ゲテ置キマシタ、而シテ其理由ノ一ツヅツニ付テ、私ノ意ノアル所ヲ申上ゲテ、政府ノ此度法案ヲ提出セラレタノハ、理由ガ甚ダ薄弱デアアル、政府ノ理由ハ、陪審法案ハ國民ヲシテ司法權ニ參與セシムルモノデアアル、國民ヲシテ裁判ノ結果ニ悦服セシムルモノデアアルト斯ウ唱ヘテ居ラレル、是ガ全ク實際デナイ、架空ナ議論デアアルト云フコトヲ申上ゲテ、第一ニ陪審制ナルモノハ、決シテ國民ヲシテ司法權ニ參與セシムルモノデアナイ、陪審ハ抽籤ニ依テ定ツタル、唯十二人ノ人間ガ裁判ノ事

件ヲ審査スルダケデアツテ、國民ノ意思ヲ代表シテ司法權ニ參加スルモノデナイト云フコトヲ申上ゲテ置イテ、マダ其事ヲ十分ニ申上ゲズシテ時間ガ參リマシタ爲ニ其間ニ止メタノデアリマス、私ハ此陪審制度ナルモノハ、決シテ國民ヲシテ司法權ニ參與セシムルモノデアナイト云フコトノ理由ノ、是マデ申述ベタ以外ノコトヲ、引續イテ申上ゲタイノデアリマス、午前中、委員長ノ報告ニ依リマスト云フト、今日ハ普通選舉ノ主張ノアル位ノ時ニマデ相成ッテ居ル、ソコマデ來ッテ居ルノニ、國民ヲシテ司法權ニ參與セシメナイト云フトデハ、立憲ノ精神ニ適合セスト云フノガ、委員會ニ於ケルドナタカノ委員ノ意見デアッタト云フコトデアリマス、第一國民ヲシテ司法權ニ參與セシムルナラバ、陪審員ハ國民ノ選舉ニ出デナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ選舉ニ出テ居ナイト云フ事柄ハ、ソレノミデ既ニ決シテ國民ヲシテ司法權ニ參與セシムルノデアナイト云フコトハ明カデアリマス、是ハ午前中ニ十分論ジマシタカラ、繰返シテハ申上ゲマセヌ、普通選舉ノ實行ニナル位ナ時代ニ於テ、之ニ反對スルノハイカス、是ハ非常ニ人ノ視聽ヲ欲テ爾議論デアリマス、ソレデアリマス故ニ、私ハ此點ニ付テ論ジテ見タイト思フ、立憲政治ト云フノハ何デアリマス、立憲政治ト云フノハ、議會制度ヲ設ケテ、國民ヲシテ國ノ政治ノ監督ヲ十分ニ爲サシムルコトガ出來ルノガ、立憲政治デアリマス、ソレダケ出來サヘスレバ、立憲政治ノ精神ドコロデナイ、全部ガソレデ成立シテ居ル、國民ノ代表者ガ議會制度ニ依テ、議院ニ依テ政府ノ政治ヲ監督スルト云フコトガ出來マスカラ、然ル後ハ行政權ヲ如何ニシテ行ハウガ、司法權ヲ如何ニシテ行ハウガ、立憲政治ノ基礎ニ於テ何等缺クル所ハナイノデアリマス、要ハ如何ニスレバ行政權ガ適實ニ行ハレルカ、如何ニスレバ司法權ガ公正ニ行ハレルカト云フコトガ問題デアアル、昔ハ專制政治家ガ裁判權ニマデ干渉シテ、隨分人民ヲ苦シメタコトガアル、之ヲ防ガナケレバナラヌト云フ議論ガアルデアリマセウ、之ヲ防グニハ議院制度ガ出來テ、國民ノ代表者ガ政治ヲ監督スルヤウニナレバ、是ハ防グルノデアリマス、議院制度サヘ完全ニ成立スレバ、立憲政治ノ基礎ハ是デ確立スルノデアアル、何ニデモ一人ノ總代ヲ入レナケレバ、立憲政治ノ行ハレヌト云フモノデモ何デモナイ、入レテ却テ物ヲ悪クスルコトモアル、入レテ良クスルコトモアル、問題ハ唯如何ニスレバ行政權ナリ司法權ナリガ、公正適當ニ行ハレルカト云フノデアリマス、之ニ陪審員ガ加ハッテ居ルカラ立憲的デアアル、加ハッテ居ナイカラ非立憲

的デアル、サウ云フ結論ハ何處カラモ生ジテ來ナイノデアリマス、若シ日本ノ議院制度ガ完全デナクシテ日本ノ立憲政治ガ十分デナイトスレバ、議院制度ヲ完全ニスルコトヲ努メナケレバナラス、裁判所ニ陪審員ヲ置イテ、入レタカラト云ウテ、ソレデ何處ニ立憲政治ノ基礎ノ確立ガ増加シタト云フノデアリマセウカ、何ニモ關係ノアルコトデモ何デモナイ、普通選舉ヲ唱ヘル者ガ之ニ反對スルノハイカヌ、何ノコトデアリマス、今日ハ日本ノ立憲政治ハマダ國民ノ一部ノミノ代表ヲ以テ成立ッテ居ル、是デハ眞ノ國論ハ議會ニ代表セラレテ居ナイ、苟モ政治ノ判斷能力アル者ニハ皆選舉權ヲ與ヘテ、之ヲシテ政治ノ上ニ其意思ヲ發揮サセルノガ當然デアアル、是ガ普通選舉ノ議論デ、是ガ即チ日本ノ議會制度ヲ完全ニシヤウト云フ議論デアリマス、若シ日本ニ於テ立憲制度ノマダ足りナイ所ガアルト云フコトヲ考ヘル人ガアルナラバ、議院制度ヲ完全ニスルト云フコトニ全力ヲ盡サナケレバナラス、然ルニ議院ノ制度ニ付テハマダ十分ニ國論ノ全部ヲ茲ニ發揮サセルニハ至ラシメズシテ置イテ、而シテ裁判所ニ陪審員ヲ參加セシメテ、而カモ其陪審員ハ選舉ニ依ッタモノデモ何デモナイ、唯籤引キデ決ッタモノヲ參加セシメテ置イテ、之ヲ參加セシメナケレバ、日本ノ立憲制度ハ完備イタサヌナゾト云フコトハ何處カラ出テ來ル議論デアリマスカ、子供瞞シナラバ別論デアアル、眞面目ニ議論ヲスル人デアリマスレバ斯様ナコトハ出來ル等ガナイノデアリマス、委員會ニ於テ左様ナ意見ヲ唱ヘタ人ガアルト云フ話デ私ハ其無キコトヲ望ミマス、併ナガラ委員長ガ左様ナ議論ヲ唱ヘタ人ガアルト云フコトヲ報告ヲセラレタ以上驚クベキコトデアリマス、議院制度ハマダ完全ニ行ッテナイノデアアリマセウカ、ソレダケニ立憲政治ヲ重ンズル諸君ナラバ何故ニ先ヅ議院制度カラ完備スルト云フコトニ努メナイノデアアル、議院制度ノ完備ニ努力セズデ置イテ、場合ニ依ッテハ之ヲ阻止シテ置イテ、而シテ裁判所ニ陪審員ヲ加ヘナイト立憲制度ノ精神ノ貫徹ガ出來ナイ、是ハ何處カラ來ル論法デアリマス、私共ハ全然理解出來ヌノデアリマス、立憲政治ト云フノハ議院制度デアアル

〔議長公爵徳川家達君議長席ニ著ク〕

議院制度ヲ十分良クスレバ立憲政治ハ能ク行ヘルノデアリマス、然ル後行政權ハ其堪能ノ人ニ委シテヤラシテ宜シイ、司法權亦堪能ナル公正ナル人ニ委シテ宜シイ、問題ハ如何ニシタラ司法權ガ適切ニ公平ニ行ハレルカト云フコ

トデアリマス、陪審ヲ入レヤウガ入レマイガ、司法權ガ適切公正ニ行ハレテ居ルナラバ、立憲制度ノ下ニ於テ何モ缺ケル所ハナイノデアリマス、若シ缺ケタナラバ議院ニ於テ政府ヲ責メルノミデアリマス、ソコニ議院ニ監督權ガアル、議院ノ監督サヘ十分デアレバ裁判所ニ陪審員ヲ加ヘルト否トニ依ッテ立憲政治ハ決シテ左右セラレルモノデアリマセウカ、立憲ノ眞髓ニ適スルコトガ國民ヲシテ裁判ニ參加セシメル、左様ナコトハ子供ナラバ瞞サレルノデアリマス、堂々タル議員諸君ハ左様ナ淺薄ナル議論ニ依ッテ決シテ迷ハサレルモノデナイト私ハ思フノデアリマス、今日ハ國民ガ行政權ニモ參與シテ居ル、立法權ニモ參與シテ居ル、其上ニ行政權ニ參與シテ居ル、獨リ國民ノ參與ナキハ司法ノミデアアル、司法權ニモ亦參與セシメナケレバナラス、是ガ立憲的デアアルト云フノガ政府ノ説明デアリマス、何處ニ行政權ニ國民ガ參與シテ居ルノデアリマス、何處ニモ參與シテ居ラスノデアリマス、自治體ニ於テ自治行政ニ國民ガ參與シテ居ル、ソレハ自治體當然ノ結果、自治行政ヲ國民ガ自カラヤッテ居ルノデアリマス、國ノ行政ニ關係ハナイノデアアル、國ノ行政ハ政府ハ素ヨリ、府縣ニ於テモ市町村ニ於テモ、國ノ行政ニ付テハ今日ハ國民ノ代表者ガチットモ參加シテ居ナイノデアリマス、總理大臣ハ國民ノ公選デアリマスカ、府縣知事ハ國民ノ公選デアリマスカ、何デモアリマセウカ、市町村ニ於テノ戶籍ノコトデモ徵兵ノコトデモ苟モ國ノ行政ニ係ルモノハ自治體カラ選バレタ者ハ關係セヌノデアリマス、國ノ行政ニハチットモ參加シテ居ナイ、之ヲ立法權、行政權ニハ既ニ國民ガ參與シテ居ルガ、司法權ノミハ國民ガ參與シテ居ナイカラ、此度陪審員ヲシテ國民ニ司法權ニマデ參與セシメルノデアアル、是モ又人ヲ瞞ス言葉デアリマス、事實無イコトヲ言ウテ好イ加減ナコトヲ言ウテ人ヲ瞞ス説明デアアルノデアリマス、行政權ニハ何等參與シテ居ナイノデアリマス、私ハ立法權行政權ニ國民ガ參與シタ、故ニ司法權ニ參與セシメナケレバナラストハ思ハヌノデアリマス、又兩方參與シテ居ッテモ司法權ニ參與セシメナケレバナラスト云フ結論ハ生ゼヌト思フ、參與セシメル必要ガアレバ參與セシメテ一向差支ナイ、國民ヲシテ行政權ナリ司法權ニ參與セシメテ效果ガ良イナラバ、之ニ參與セシメルコトニ私ハ決シテ異論ヲ言フモノデハナイ、問題ハ效果ガ良イカ悪イカノ問題デアアル、國民ノ代表ヲシテ總理大臣ヲ勤メシメ國民ノ代表ヲ以テ裁判官ニ干渉セシメ、ソレデ效果ガ良ケレバ至極結構デアリマス、私共ハ裁判ニ干渉セシメルノハ效果ハ必ズ惡イト

思フ、效果ノ悪イコトニシテ、立憲政治ノ完全ニ行ハレルコトニ何等關係ハ  
ナイトスレバ、何ノ必要ガアツテ陪審員ヲシテ司法權ニ干與セシメルノデア  
ル、立法權ニ參與セシメテ居リ、行政權ニ參與セシメテ居ル、ソレ故ニ司法  
權ニ參與セシメナケレバナラスト云フ此議論ハ既ニ間違ッテ居ル、殊ニ行政  
權ニ國民ノ代表者ガ參與シテ居ルト云フ説明ハ、全然事實デナイノデアリマ  
ス、是ガ事實デアルト仰シヤルナラバ、證據ヲ擧ゲテ貰ヒタイ、自治制ニ於  
テ自治ニ干與シテ居ル以外ニ於テハ國ノ行政ニ國民ノ代表ガ參與シテ居ルト  
云フコトハ今日無イノデアリマス、或ハ所得稅調査委員カ、營業稅調査委員  
カ、ソシナコトヲ仰シヤルカモ知レヌ、ソレハ兎ニ角行政權ニ付テ國民ノ代  
表者ガ參與シテ居ルト云フコトハ全然別モノデアアルノデアリマス、ソレデア  
リマスカラ是ガアツタ所ガ其結論トシテ陪審員ヲ認メナケレバナラスト云フ  
コトハ生ジマセヌガ、事實ニ於テ行政權ニ國民ノ參與ガアルト云フ事實ハ  
無イノデアリマス、若シ國民ヲシテ司法權ニ參與セシメナケレバ立憲的デナ  
イト云フ政府ノ論法ヲ假リニ是認スルトスレバ、サウスレバ裁判權ト云フノ  
ハ事實ノ認定ト法律ノ適用ト二ツノモノヲ併セテ裁判ト云フノデアリマス、  
ソレデアリマスカラ裁可ニ國民ノ代表ヲ參與セシメナケレバナラスト云フ筆  
法ナレバ、獨リ事實ノ認定ノミニ之ヲ參與セシメタ所ガ、マダ裁判ニ關係セ  
シメルト云フコトハ言ヘナイ、法律ノ適用ニ付テマデ國民ノ代表者ヲ參與セ  
シメナケレバ司法權ニ國民ノ代表ヲ參與セシメタト云フコトハ言ヘヌノデア  
ル、所ガマサカ、政府ト雖モ法律ノ適用マデ國民ノ代表ヲシテ參與セシメヤ  
ウトハシテ居ラスノデアリマス、ソレダト云フト政府ガ國民ヲシテ司法權ニ  
參與セシメルト云フノガ立憲的デアルト言ハレルノガ、些下モ政府自身ガ之  
ヲ行ッテ居ラレナイト言ハナケレバナラスト、又司法權ニ國民ヲシテ參與セシ  
メルノガ精神デ、陪審法案ナルモノヲ御出シシナッタナラバ、總テノ刑事事  
件ニ付テ陪審員ヲ用ヒナケレバナラストデアリマス、然ルニ此度ノ法律ニ依  
リマスト云フト、死刑ニ處セラルル者、或ハ無期徒刑ニ處セラレル……無期懲  
役ニ處セラレルヤウナ罪ヲ犯シタ者ニ限ッテ陪審員ヲ用ヒルノデアリマス、若  
シ國民ノ代表ヲシテ司法權ノ執行ニ參與セシメナケレバナラスト云フノナラ  
バ、強盜殺人トカ、放火トカ云フモノトカノ事件ニ付テ參與セシメテ置イ  
テ、而シテ或ハ政治上ノ犯罪トカ、國事犯トカ、或ハ其他ノ場合ニ因ルト云  
フト本人ハ格別惡意ハナイケレドモ、法律ノ制裁ニ偶然不案内ノ爲ニ觸レテ

居ルト云フヤウナ事件ニ、陪審員ヲ參與サセスト云フノハドウ云フ譯デアリ  
マスカ、若シ國民ノ代表者ヲシテ裁判ニ參與セシメルノガ立憲的ダト言フナ  
ラバ、寧ろ唯今申上ルヤウナ政治犯トカ、或ハ寔ニ意思ハ惡クナイケレドモ、  
法律不案内ノ爲ニ、知ラズ識ラズニ刑辟ニ觸レタト云フヤウナ人間ニ付ケテ  
コソ、陪審員ヲ以テ其事件ヲ審理セシメルト云フ必要ガ最モ有ルノデアアル、  
然ルニ此度ハ政治犯ハ陪審員ヲ用ヒスト云フコトニナッテ居ル、輕イ罪ニハ陪  
審員ヲ用ヒスト云コトニナッテ居ル、唯死刑ニ當ルヤウナ罪ヲ犯シタ者、無  
期懲役ニ當ルヤウナ罪ヲ犯シタ者、ソレニノミ陪審ヲ付スルト云フ法律デア  
リマス、其他ハ被告人ガ自ら求メテ陪審ヲ附ケテ貰ヒタイト云ッタ者ニノミ、  
陪審ヲ附ケルト云フ法案ノ規定デアリマス、ソレダト云フト、國民ヲシテ司法  
權ニ參與セシメル、司法權ヲ國民ノ力ニ依ッテ之ヲ執行セシメルノデアルト云  
フ政府ノ説明ナルモノハ、何處ニ其事蹟ガアリマス、必要ナル時ニハ行ハシメ  
ズシテ置イテ、格別左様ナ最モ國民ノ代表ヲ要スルヤウナモノデナイ事件ニ  
付テノミ之ヲ參與セシメテ置イテ、國民ヲシテ司法權ニ參與セシメテ居ルト  
云フノハ、ドコカラ出テ來ル議論デアリマス、畢竟政府ノ唱ヘラルル立憲論  
ナルモノハ、爲ニスル所アツテ製造セラレタ理由デアリマス、原前々總理大臣  
ガ政略上カラ爲ニスル所ガアツテ拵ヘテ、陪審法案ヲ提出スル十分ナル理由  
ガナイ、已ムヲ得ズ國民ノ頭ヲ引付ルヤウナ言葉ヲ捉マヘテ來テ、是ガ立憲  
的デアアル、ト言ッテ、立憲的ナラバ賛成シナケレバナラスト言ハシメムト試  
ミタノガ、此製造セラレタル理由デアアルノデアリマス、世界ノ何處ニ行ッテ、  
斯様ナ議論ヲ唱ヘテ居ル者ガアリマスカ、日本ヲ除イテ何處ノ國ニ到ッテ、陪  
審制ハ國民ヲシテ司法權ニ參與セシムル制度デアルト言ッテ居ル所ガアリマ  
スカ、英吉利ニ行ッテ御覽ニナッテモ、佛蘭西ニ行ッテ御覽ニナッテモ、學者デ  
モ素人デモ左様ナ議論ヲシテ居ル者ハナイ、是アルモノハ唯原總理大臣カラ  
始ッタンデアリマス、今日ノ政府者ハ原總理大臣ノ説明ヲ受ケテ、唯之ヲ言ッ  
テ居ラレルノデアアル、昔、死セル孔明生ケル仲達ヲ走ラスト云フ言葉ガアリ  
マスガ、今日ハ死セル原總理大臣ガ生ケル加藤内閣ヲシテ唯無意識ニ、是ハ前  
々總理大臣ノ發案セラレタモノデアアルカラ、之ヲ出サスト云フト御機嫌ガ惡  
イト云ウテ、唯出サレタダケデ、何等其他ニ大ナル理由モ無イノデアリマス、  
政府ノ提案ノ理由ノ今一ツハ、國民ヲシテ裁判ニ心服セシメルガ爲デアルト  
言ッテ居ッレル、今マデハ國民ハ裁判ニ心服シテ居ラナイノデアリマスカ、私

ハ日本ガ歐羅巴風ノ刑事手續法ヲ採用シ歐羅巴ノ法制ニ依ッテ刑法ヲ定メテ以來、今日マデ日本ノ刑法ヲ執行シテ、日本ノ國民ハ我ガ裁判官ノ裁判ニ心服シテ居ナイトハ思ハヌノデアリマス、何萬人ト云フ裁判官ガ何百萬何十萬ト云フ事件ヲ取扱フノデアリマスカラ、其中ニ何カ間違ッタコトヲ求メタナラバ、ソレハアルデアリマセウ、併ナガラソレハ英吉利ヘ行ッテ見テモ、佛蘭西ヘ行ッテ見テモ、獨逸ヘ行ッテ見テモ、陪審制度ノ行ハレテ居ル國デモ、人間ノスル仕事ノ中ニハ間違ハ幾ラカアリマス、神ニアラザル限り過ノナイト云フコトハ出來ヌノデアリマス、非常ナ澤山ナ事件ノ中デ、何カ凌ヒ出シテ洗ヒ出シテ見タラバ、若干ノ誤判ガアルカモ知ラヌ、ソレアルガ爲ニ日本ノ國民ガ今日ノ裁判ニ心服シテ居ナイト云フ人ガアルナラバ、私ハ今日ノ司法官ヲ侮辱スルモノデアルト思フ、私共ハ今日ノ司法官ニ向ッテハ、十分ナ信頼ヲ置イテ居ルノデアリマス、而シテ其信頼ヲ置クニ足ルダケノ立派ナ公平ナル裁判ヲシテ居ルト、固ク信ジテ居ルノデアリマス、ソレヲ政府ハ國民ヲシテ裁判ニ心服セシメル爲ニ、此度ノ陪審法ヲ出シタト斯ウ言ハレルト云フコトハ、政府ハ今日ハ、國民ハ裁判官ノ裁判ニ心服シテ居ナイ事實ガアルト云フコトヲ認メテ居ラレルヤウデアリマス、此點ハ我々ト政府トハ大變ニ見解ヲ異ニシテ居ル、私共ハ今日ノ裁判官……檢事トハ言ヒマセヌ、警察官トハ言ヒマセヌ、豫審判事トハ言ヒマセヌ、併ナガラ公判ニ於ケル裁判官ニハ、十二分ノ信頼ヲ置イテ居ルノデアリマス

〔ヒヤ〜ト呼フ者アリ〕

此裁判ヲ受ケテ決シテ私共ハ遺憾ナイト思ウテ居ルノデアリマス、之ニ心服シナイナント言ハレルト云フコトハ、我々ハドコカラ左様ナル結論ヲ得ラレタカ、若シ政府ガ左様ニ考ヘラレルナラバ、事實ヲ擧ゲテ御説明ヲナサヌケレバナラス、ソレデアアルカラ私ハ此度ノ法案提出ノ初メニ當ッテ、政府ガ左様ニ御考ヘニナル事實ガアリマスカ、有ルナラバ實例ヲ御示シテ願ヒタイト言ウタケレドモ、政府ハ之ヲ示スコトガ出來ナカッタノデアリマス、實例ヲ示スコトガ出來ズシテ、唯口ノ先デ今日ノ裁判ハ國民ガ心服シテ居ナイカラ、陪審制度ヲ設ケテ心服セシメル、左様ナコトハ私共ニハ頭ニ這入ラヌノデアリマス、歐羅巴ニ於テ陪審制度ノ始マッタコトハ、私ハ餘リ深く研究シテ居リマセヌカラ、サウ詳シイコトヲ申上ゲル譯ニ行キマセヌケレドモ、聞ク所ニ據レバ、英吉利ナドノ陪審制度ノ始マッタノハ、國民ノ代表ヲ司法權ニ參與

セシムルナドト云フ考ハ一ツモアリマセヌ、裁判ヲスルニ付テハ多數ノ人ニ問ウテ、色々ナ人ニ事實ヲ聞イテ、サウシテ色々ナ説ヲ聞イテ見テ、結局是ダナト云フ其處ニ事實ノ真相ヲ得テカラ裁判シヤウト云フノガ元デ、ソレヲスルニ付テハ、ソコヲノ犯罪事實ノ起ッタ近傍ニ居ッタ者ヲ集メテ、ソレニ宣誓ヲセシメテ、サウシテ御前ハドウ見タカト云フコトヲ十分ニ聞イテ、サウシテ彼等ノ言フコトヲ聞イテ、ソレナラバ斯ウダト云フ判斷ヲスルガ爲ニ、陪審ト云フモノガ起ッタ、ソレガ英吉利ノ陪審ノ起リデアルト私ハ承ッテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ陪審員ノ英吉利ニ於テ出來タ當初ニ於テハ、全ク證人ヲ集メテ證人ノ目撃シタル所ヲ聞クト云フコトデアリマス、今日ノ裁判所ニ於テ證人ヲ召喚シテ、證人ノ事實ヲ聞クト云フノガ、英吉利ノ陪審員ノ起ッタ本ト稍似寄ッテ居ルノデアリマス、サウ云フ關係デ、決シテ國民ノ代表ヲ入レテ、ソレデ裁判ニ心服セシメルナント云フヤウナコトカラ起ッタノデモ何デモナイ、大陸諸國ニ於テ……歐羅巴大陸諸國ニ於テ、陪審制度ヲ採用シタノハ佛蘭西ガ初メテノヤウデアリマス、佛蘭西ガ千七百八十九年ニ大革命ガアッタ、其革命ノ後ニ佛蘭西ハ陪審制ト云フモノヲ採用シタノデアアル、是ハ佛蘭西ニ於テハ「ルイ」十四世、十五世、アノ頃ニ於テハ隨分君主專制ヲ以テ國民ニ臨ンデ、罪ノ無イ人デモ、政治上ニ反對スル者ハドンドン牢獄ノ中ヘ投込シテ仕舞ッタト云フヤウナ、司法權ノ濫用デアッタノデアリマス、革命ノ時ニ於テ、革命ニ依ッテ起ッタ人間ガ、第一ニ何處ヘ進ンデ行ッタノデアリマスカ、「バスチーユ」ト云フ監獄ヘ向ッテ進ンデ行ッタ、監獄ヲ破ッテ、監獄ニ囚ハレテ居ル所ノ政治犯人ヲ引出シテ、政治犯人ト云フノハ、專制君主カラ言ヘバ政治犯人ダケレドモ、革命ヲ起ス人間カラ言ヘバ同志者デアリマス、憂國ノ志士デアリマス、憂國ノ志士ガ專制君主ノ爲ニ無實ノ罪ヲ被セラレテ、牢獄ノ中ニ投セラレテ居ッタノヲ、第一ニ行ッテ救出シタノハ、佛蘭西ノ千八百七十九年ノ革命ノ起リデアリマス、ソレ位ニ司法權ガ濫用セラレテ居ッタ、其後ヲ受ケタカラ此司法權ノ濫用ハ如何ニシテ之ヲ再ビセヌヤウニヤッタナラバ宜カラウ、斯ウ言ッテ見渡シテ見ルト云フト、英吉利ニハ陪審制度ガアル、陪審制度ニ依ッテ英吉利ノ方ハ兎ニ角惡イコトヲシヤウトシテモ、此所ヘ人民ノ中カラ抽籤デモ何デモ、茲ニ別ナ人間ガ出テ居ルノデアアルカラ、是ガ見テ是デハイケスト云フヤウニ、或ハ其人間ヲ置ケバ、司法權ノ濫用ナルモノガ防ゲルト考ヘタノガ、佛蘭西ガ此陪審制度ヲ採用シ

タ本デアリマス、然ル後獨逸ガ之ヲ採用シタノモ、チヨット年代ハ存ジマセヌガ、御承知ノ通り獨逸ニ革命ガ起ッタコトガアル、其頃カラ之ヲ採用シタ、皆原因ハ專制政治ニ對スル裁判權ノ保障ヲ得ムガ爲ニ是ハヤッタモノデアリマス、今日日本ニ於テ、何カ政治家ガ專制ノ壓制ナルコトヲヤツテ、反對黨ヲ強ヒテ牢獄ニ投ズルヤウナ司法權ノ濫用デモシテ居ルト云フコトガアリマスナラバ、私ハ如何ニ陪審制度ニ弊害ガアツテモ、之ヲ採用スルコト、恰モ佛蘭西ノ之ヲ採用シタ如クシテ行ク必要ガ、場合ニ依ツテハアツタカモ知ラヌト存ジマス、併シ今日ハ左様デハナイ、日本ニ於テハ立派ナル立憲政治、立法權司法權行政權ハ誠ニ能ク各々獨立シテ行ハレテ居ッテ、殊ニ其中司法權ハ獨立シテ、決シテ他ノ干犯ヲ許サヌト云フ位ニ行レテ居ッテ、何カ陪審員デモ入レナケレバ、我々國民ノ自由ノ保障ガナイト云フヤウナ事實ガ、今日ハ一ツモ無イデアリマス、ソレニ今更陪審制ヲ持ツテ來ナケレバナラヌト云フノハ、何處ニ其必要ガアルノデアリマス、法律ニ暗ク、經驗ハ有タナイ、唯十二人ノ凡人ガ其中ニ介在シタカラト云フ、被告人ガ裁判ニ對スル心理状態ノ上ニ大ナル變化ヲ生ズルト云フコトハ、何處カラモ思ハレヌノデアリマス、今ノ裁判ヲ受ケテ居ッテハ、國民ガ心服セナイ、茲ニ素人デ法律ノコトハ何モ分ラヌ、刑事事件ナドヲ調べタコトハ一向經驗ノナイト云フ、十二人ノ人間ヲ連レテ來テ聞カセテ置イテ、サウシテソレニ物ヲ言ハセタ、ソレガ爲ニ被告人ハ此裁判ハ實ニ結構デアルト云フテ心カラ心服スル、何處カラサウ云フコトガ出マス、私共ハ殆ド左様ナ心理状態ノ變化ヲ生ズルト云フコトヲ想像スルコトモ出來ヌノデアリマス、ソレモ其十二人ノ言ウタコトガ決定的デアツテ、其言ウタ通りニナルナラバ國民ハ或ハ心服スルカモ知ラヌ、此度提出セラレタ法案ニ依ツテ見マスと云フト、陪審員ノ評決ハ決定的デヤナイノデアリマス、裁判官ハ之ヲ惡イト思ヘバ、何處モ代ヘルコトガ出來ル、自分ノ思フ所マデ來ナケレバ、幾遍デモ代ヘルト云フノデアリマス、ソレナラバ其裁判ナルモノハ、陪審員ノ意見ニ依テ決定マツタノデハナクシテ、判事ノ意見ニ依ツテ決定マツタト云フコトヲ、被告人ハ能ク知ッテ居ルノデアリマス、ソレダト云フト陪審ニカケタ爲ニ、何處ニ被告人ガ是ナラバ結構デアッタト云ウテ、心服スルト云フ事實ガ生ズルノデアリマスカ、殊ニ私ハ質問ノ際ニ政府ニ向ッテ質問ヲシタケレドモ、政府ハ答辯ヲセラレナカッタ、答辯ヲセラレナカッタケレドモ、私ハ強ヒテ答辯ヲ求メナカッタノデアリマスガ、ソ

レハ何デアアルカト云フト、外國デハ陪審ハ最終的デアリマス、陪審員ヲ代ヘルト云フコトハナイノデアアル、然ルニ日本デハ陪審員ヲ何遍モ代ヘルコトガ出來ルヤウニ法律案ガ出來テ居ル、ソレデアリマスカラ此事件ニ付テ此陪審員ニ掛ケタ、被告人ハ陪審ニ掛ケラレテ調べタノデ、アレデ決マルカト思ッテ居ルト、今度モウ一遍陪審員ガアルト云フコトニナツテ、陪審員ガ代ハラレタサウダ、斯ウ被告人ハ思フ、ソレデ被告ノ頭ニハ、是ハ判事ノ意見ト陪審員ノ意見ト違フカラ代ハラレタサウダト云フ想像ガ起ルノデアリマス、ソレハ何人デモサウ想像スルニ相違ナイ、意見ガ同ジケレバ代ハル譯ハナイ、代ハル時ハ必ズ判事ノ意見ト陪審員ノ意見ト變ッテ居ルカラ、陪審員ヲ代ヘルノデアリマス、直グ被告人ハドンナ意見デアアルカト云フコトハ分ラヌケレドモ、兎ニ角、判事ト陪審員ノ意見ガ違フト云フコトハ、ソレガ分ルノデアリマス、ソコデ裁判ガ下ッタ假ニ致シマス、被告人ハ裁判ニ心服スルト云ハレマスガ、心服スルデアリマセウカ、ドウモ是ハ陪審員ガ代ツタ、代ツタノヲ見レバ前ノ陪審員ハ自分ヲ無罪ニスルヤウナ決定ヲシテ居ッタラシイ、然ルニ判事ノ御氣ニ入ラナカッタ爲ニ、外ノ陪審員ニ移サレタ、今度自分ハ有罪ニナレバ、判事ニ御氣ニ入ッタト見エテ有罪ニナツタ、サウスルト云フト、自分ノ事件ニ付テハ無罪デアルト云フ十二人ノ人ガ此處ニアル、有罪デアルト云フ十人ガ此處ニアル、サウスルト云フト、ドチラニデモナル事件デアッタラシイガ、到頭俺ヲ有罪トシテ罰シテ仕舞ッタナト、斯ウ思ウタ時ニ、被告人ガ心服スルデアリマセウカ、裁判ニ心服セシメル爲ニ此陪審法案ヲ出シタト云ハレルガ、私ハ却テ被告人ハ裁判ニ心服セナイノデアアル、今日ハ合議制デアルケレドモ、合議制ノ各判事ノ意見ト云フモノハ、被告ニハ言フテ聞カセヌノデアリマス、合議制ニ依ツテ出來タ裁判ハ、是ハモウチャント三人ナリ五人ノ判事ガ一致シタ意見デアルト被告人ハ思フテ居ル、然ルニ此度ハ陪審員ヲ明カニ目ノ前デ代ヘテ見セルノデアリマスカラ、アノ陪審員ハ自分ニハ有利ナルモノハ或人ハ無罪ト見テ居ル、或人ハ有罪ト見テ居ル、其事件ヲ結局有罪トシテ判決シタ、怪シカラヌ裁判ヲシタト云フ考ガ起ラヌト云フコトガ、ドウシテ保證ガ出來ルノデアアル、國民ヲシテ心服セシムルドコロノ話デハナイ、被告人ヲシテ却テ裁判ニ付テ疑ヲ懷カシメル方法デアリマス、加之三遍以上陪審員ヲ移シタ場合ニハドウナリマス、初メノ陪審員十二人ニ掛ケタ、判事

ノ意見ト一致シナイ、ソコデ之ヲ不當ト認メテ次ノ十二人ニ掛ケタ、其評決モマダ判事ノ意見ニ一致セス、ソコデ判事ハ不當ト見テ第三ノ者ニ掛ケタ、モットモット幾ラデモ參リマスケレドモ、假ニ第三ノモノガ偶然判事ノ意見ト一致シタト云フノ決ツタト假定シマス、サウシテ判決ガ下ツタト斯ウ假定イタシマス、被告人ハドウ考ヘルノデアリマス、初メノ十二人ト次ノ十二人合セテ二十四人ト云フ者ハ、自分ノ事件ヲ無罪ト見テ居ツタ、然ルニ後ノ十二人ノ人間ガ自分ノ事件ヲ有罪ト認メタ、ソレニ裁判官ノ三人ヲ加ヘテ十五人ノ人間ガ自分ヲ有罪ニシタ、二十四人ハ無罪ト見テ居ルノニ、十五人ダケデ自分ヲ有罪ト見テ死刑ニ處スルト云フコトヲヤツタ、是ハドウモ怪シカラヌ……人情トシテ起ルデアリマセヌカ、二十四人が既ニ有利ナ決定ヲシテ居ルノニ、ソレヲ棄テテ置イテ、十五人ノ頭ダケデ之ヲ死刑ニ處シテ仕舞フ、死ニ切レナイト私ハ思フノデアリマス、決シテ裁判ニ心服スルドコロノ話デナイ、是ハ實際ノ場合ガ起リマシタナラバ、死刑囚ハ非常ナ未練ヲ殘シテ、絞首臺ノ上デ生命ヲ奪ハレルコトニ相成ルト思ヒマス、之ヲ考ヘタナラバ、此度ノ陪審員ヲ何遍モ變ヘルヤウナ此法制ナルモノハ、實ニ國民ヲシテ裁判ニ對シテ不平ヲ懷カシメル因ニナルノデアルト私ハ思フノデアリマス、此度ノ法案ニ依リマスと云フト、一タビ陪審ニ付シタ事件ハ控訴ヲ許サヌト云フコトニナル、是マデハ死刑ニ處セラレタヤウナ人間ハ、モウ自分ノ罪ハ免レル所ナシト思ウテ居ツテモ、尙ホ控訴シテ居ル、控訴ニ依ツテ尙ホ免レル所ナシト思フテモ上告シテ居ル、一日デモ命ガ延ビタイノガ人情デアリマス、然ルニ今度ハ死刑ニ處セラレルヤウナ、無期懲役ニ處セラレルヤウナ事件ハ、必ず陪審ニ付スルノデアリマス、而シテ陪審ニ付シテ判決シタ事件ハ、控訴ヲ許サヌト云フコトニナル、是ハ控訴ヲ許サヌノガ理論上ハ當然デアリマス、理論ハ當然デアリマセヌガ、ソレデ被告人ガ心カラ裁判ニ服スルノデアリマスカ、今マデハ何遍モ何遍モ裁判ヲ變ヘテ、モウ助カル所ガナイト云フ所デ納得シテ絞首臺ニ上ボルノデアリマス、然ルニ今マデノ人間ハ控訴シテ、尙ホ自分ノ主張ヲ裁判所デ言フコトガ出來タノニ……今マデト言ヒマスノハ、從前死刑ニ處セラレタ者ハ、ソレガ出來タノニ、自分ダケハ陪審デ決ツタカラト言ツテ控訴ヲ許サレナイデ、其儘絞首臺ニ上ボラナケレバナラヌト云フ時ニナツテ來テ、其被告人ハ其裁判ニ心カラ心服スルノデアリマセウカ、是モ亦此度ノ陪審制度ハ被

告人ヲシテ裁判ニ心服セシメル爲デアルト言ハレル事柄ハ、人情ニ訴ヘタラバ決シテサウデナイト思ヒマス、併ナガラ私ノ申上ゲルノハ、是ハ道理上カラ言フノデアリマス、場合ニ依ルト被告人ハ陪審ノアルコトヲ喜ブカモ知レマセヌ、控訴ガナクテモ陪審ノアルコトヲ喜ブカモ知レヌ、何故喜ブカ、喜ブノハ陪審ニ依ツテ有利ナ決定ヲ受ケルカラデアリマス、惡イコトヲシテ居テモ、陪審ガ付クト云フト、惡イコトニ對スル全責任ヲ負ハセラレナイデ、一部ハ陪審ノアル爲ニ曲ゲテ輕クシテ貰フコトガ出來ルカラ、ソコデ喜ブノデアリマス、被告人ガ陪審ニ依ツテ有利ノ判決ヲ受ケタ時ニ、被害者ノ心ニナツテ見タナラバドウデアリマス、例ヘバ茲ニ親ヲ殺サレタ子供ガアル、是ハ實ニ心ノ中デハ非常ニ自分ノ親ヲ殺サレタノ恨ンデ居ルノデアリマス、其殺シタ人間ガ人ヲ殺シタト云フコトニ對スル責任ヲ負ハセラレテ、ソレダケノ刑罰ニ處セラレ、バ、被害者ノ遺族タル者モマダ心ニ幾ラカノ満足ヲ感ズンデアリマスカ、其被告人ガ陪審ニ依ツテ庇護セラレテ、有利ナ決定ヲ受ケタト云フ時ニ、被害者ノ遺族ニナツタラバドウ云フ者ガ起ルデアリマセウ、之ヲ餘程考ヘナケレバナラヌ、私直接ニ調べタノデアリマセヌガ、或人ノ調べタ物ニ依ツテ聞イテ見マスと云フト、英吉利ニ於テ殺人事件ヲ犯シタ被告人ガ、陪審員ガ有利ナ決定ヲナシタ爲ニ、無罪ノ判決ヲ受ケテ裁判所カラ出タサウデアリマス、出ルト云フト門前デ其息子ガ待ツテ居ツテ、「ビストル」デソレヲ殺シテ仕舞ツタト云フ話デアリマス、國ノ裁判ガ公平ナル判決ヲ與ヘナケレバ仕方ガナイ、直接行動ニ於テ自己ノ心情ヲ満足セシメルノ外ナイト云フ考ガ起ルト云フコトハ、此一例ニ於テ確デアルト思フノデアリマス、裁判ニ付テ國民ヲ満足セシメルト言ハレル、裁判ニ付テ被告人ハ満足スルカ知レマセヌ、併ナガラ國民ハ満足スルデアリマセウカ、裁判ハ固ヨリ被告人ニ關係シマス、ソレト同時ニ一般ノ國民ニモ、重大ナル關係ガアルノデアアル、被告人ガ陪審ニ依ツテ有利ナ決定ヲ受ケテ、本人ハ非常ニ満足デアリマセウガ、被告人ガ満足スル時ニ、一般ノ國民ハ如何相成ルノデアリマス、實ニ我々ノ生命、財産、自由ハ堪ラヌト云フ考ガ起ラザルヲ得ヌノデアリマス、裁判ニ付テ國民ヲ心服セシメル、被告人デストラモ前申上ゲタ通り、陪審制度ニ依ツテ決シテ心服シナイノデアアル、況ヤ法ヲ曲ゲタルヤウナ……法ヲ曲ゲルト云ウテハ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、事實ヲ有利ニ決定シテ、自ラ法ヲ曲ゲザルヲ得ヌヤウニスル所ノ此陪審制度ガ行ハレタ時ニ、國民ガ果シテ心カラ裁判ニ心

服スルモノデアリマセウカ、私ハ少ナクトモ國民ノ一人トシテ、左様ナ裁判ニハ決シテ心服イタサスノデアリマス、唯今申上ゲル通り政府ノ提案ノ理由ハ誠ニ薄弱デアリマス、二ツノ理由デアアル、立憲的ト國民ノ心服、斯ウ言ハレル、此二ツノ理由ナルモノハ、唯今申上ゲタ所デ、共ニ皆理由薄弱ニシテ取ルニ足ラナイノデアアル、元來此度ノ提案ナルモノハ、政府ハ前申上ゲル通り、何モ實際ニ何等ノ必要ナクシテ、立憲的トカ國民ノ心服トカ云フヤウナ理論ニ驅ラレテ、此提案ヲセラレタヤウデアリマス、其實ハ行懸リニ依ッテ提案セラレタノデアアル、併シ行懸リテ出シマシタトハ言ヘナイカラ、立憲的デアアル、國民ノ心服ヲ買フノデアアル、斯ウ言ッテ出シテ居ラレル、此二ツノ理由ガ唯今申上ゲル通り、根據モナケレバ頗ル薄弱デアアル、我々ハ法律ヲ提出セラレルナラ、法律案ヲ提出セラレルナラバ、現實ニ立脚シテ居ラナケレバナラヌト思フ、然ルニ此度ノ提案ハ實際ニ立脚セズシテ理論カラ出發シテ居ル、人權ヲ尊重スルトカ、裁判ヲ改善スルトカ云フヤウナ、左様ナ現實カラ出テ居ナイデ、立憲ノ精神ダトカ、國民ノ感情ダトカ云フヤウナ、誠ニ理論ニ四ハレタル是ハ閑事業デアリマス、前申上ゲル通り今ノ政府ハ、或ハ政府デナク此法案ニ賛成セラレタ委員ノ諸君ノ中ニハ、世ノ中ガ普通選舉ヲ唱ヘルヤウニナツテ居ルノニ、陪審制度ニ反對スルノハ立憲ノ精神ニ合ハヌト言ハレルガ、前ニ詳シク申上ゲタ通り、立憲制度ト云フモノハ決シテ左様ナモノデハナイト云フコトヲ申上ゲマシタガ、併ナガラ今ノ政府ハ普通選舉ニハ言葉ヲ設ケテ反對シテ居ラレル、色々ナ言葉ヲ設ケテ普通選舉ヲ實行ニ反對シテ居ラレル、賛成ダト言ハレルケレドモ、現實ニ之ヲ實行シヤウトハ努メラレナイ、言葉ヲ設ケテ普通選舉ヲ阻止シテ居ル現内閣ガ、立憲ノ精神ノ爲ニ斯ウ云フ法案ヲ提出シマシタト云フ説明ハ、是程ノ矛盾ガドコニアリマスカ、併ナガラ私ハ理論ノ實行ニ決シテ反對スルモノデアリマセス、理論ハ成ルベク實現シヤウト云フコトニ努メルノハ、ソレハ惡イコトデアリマセヌ、害サヘナケレバ惡イコトデアナイ、益ガナクテモ害ノナイト云フコトデアアルナラバ、政府ガ理論ノ爲ニ閑事業ヲ弄バレテモ、私ハ決シテ之ニ反對スルモノデアリマセヌ、併ナガラ机上ノ理論ニ基イテ、机上ノ理論ニ基イテ百年ノ害ヲ貽スヤウナ法律ヲ出サレルニ至ッテハ、私共ハ理論ノ實行ハ好キダトハ言ヒマスケレドモ、決シテ政府ノ爲サル所ニ賛成スルコトハ出來ナイノデアリマス、是ガ私ノ陪審法案ニ反對スル第一ノ理由デアリマス、第

二ノ理由ハ陪審法案ニハ甚シキ弊害ガアル、歐羅巴諸國ニ於テ、亞米利加ニ於テモ亦之ヲ實驗シテ居ル、其弊害ノ大キイモノヲ、何ノ必要モナクシテ日本ニ輸入スルト云フ、ソレ位間違ッタコトハナイト存ジマスル故ニ、其事ヲ申上ゲタイノデアリマス、犯罪事實ナルモノハ簡單ナルモノモアリマスケレドモ、事柄ニ依リマシテハナカナカ錯綜シタ事件ガ多イノデアリマス、殊ニ世ノ中ガ段々複雑ニナツテ參リマスト總テノ人間ノ爲スコトガ複雑シテ來ル、從テ犯罪事件モ餘程錯雜シタモノニ相成ルノデアリマスガ、左様ナ錯雜シタ事件ノ真相ヲ捉ヘルト云フコトハ、是ハ容易ナコトデアリマセヌ、法律ノ素養モナク、又裁判事件ナドニ携ハッタト云フ經驗モ何モナイヤウナ素人、全くノ素人デアッテ、而カモ大工ニ從事シテ居ルトカ、左官ヲヤツテ居ルトカ、吳服ヲ賣ッテ居ルトカ云フヤウナ、是等ノコトヲヤツテ居ルヤウナ、種々ノ仕事ニ忙殺セラレテ居ッテ、社會的ノ一般ノ知識ノナイ陪審員ヲシテ、犯罪事實ヲ調査セシメテ、其中カラ真相ヲ捉ヘテ事實ノ認定ヲサセルト云フ事柄ハ、是ハ非常ナ難事デアッテ、私ハ決シテ正鵠ヲ得ルコトハ出來ヌト思フ、此點ニ於テハ何ト云ハレテモ裁判官ノ方ガ長所ガアルノデゴザイマス、裁判官ハ元來學識ガアリ、社會的ノ知識ガアル、其上ニ屢ニ犯罪事件ニ遭ッテ、大體色色ナ事件ニ遭ッテ居ル其爲ニ、其人間ノ爲ス所ノ行爲ノ行キ道ニ對シテ、凡ソノ判斷ガ付クノデアリマス、ソコデ其次其次ト調べテ行ケバ、事實ノ判斷ヲ得ルト云フコトガ出來ルノデアリマスカ、此點ニ付テハ、裁判官ナラバ十分ニ出來ルノデアリマスガ、唯今申上ゲマシヤウナ、マルデ經驗ノナイ、職業ニ追ハレテ而シテ一方ニハ法律ノ取扱モ知ラナイ素人ガ出テ來タ所ガ、今日ノ如ク複雑シタル事件ヲ調べ、其中カラ真相ヲ捉ヘ出スト云フコトハ、是ハ私ハ決シテ出來ルモノデアナイト思フノデアリマス、其上ニ陪審員ガ眞面目ニ陪審ニ從事スルナラバマダシモデアリマス、私ハ陪審員ハ不眞面目ニ陪審ニ從事スルトハ思ヒマセヌケレドモ、是ガ人間デアリマス、生キテ居ル人間デアアルカラ、眞面目ニヤツテ居レバマダ良イ、眞面目ニヤツテモ唯今申上ゲル通り、裁判官ニハ逆モ及ビマセヌ、素人ハ逆モ及ビマセヌ、然ルニ是ガ人間デアリマスカ、ナカナカ眞面目ニヤレナイノデアリマス、昨日マデハ大工ヲヤツテ居ッタ、左官ヲヤツテ居ッタト云フ人ヲ喚ンデ來テ、裁判所ノ法廷ニ坐ラセテ、五時間モ六時間モ判事ガ訊問スル、辯護士ガ横カラ質問スル、ソレヲチヤント眞面目ニ聽イテ居ナケレバナラヌ、一時間カ二時間ハソレハ眞面目ニ

聽クノデアリマセウ、三時間經テ四時間經ツト、ナカナカソレデ聽イテ居ラレヌノデアリマス、ドウシテモ其間ニ倦怠ヲ生ズル、ツヒ上ノ空デ聽クト云フヤウニナル、是ハ人間デアレバサウナル、其上ニ是ガ自由ニシテ居ッテヤルナラマダシモデアリマス、連レテ來ルト云フト一定ノ場所ニ人レテ、便所ヘ行クニモ人ガ蹤イテ行ッテ、ナカナカ容易ニ自由ニナレナイ、殆ド囚人ノヤウナ扱ヲスル、ソレデ一日デ事件ガ濟メバ宜イガ、サモナケレバチヤント一定ノ宿屋ヘ入レテ、ソレカラ外ヘ出ルコトハナラストシテ拘束スル、而カモ三日モ續イテ御覽ナサイ、ソレダケデモ厭ニナッテ仕舞フ、ドウカ早ク家ヘ歸リタイ、裁判所カラ放免セラレテ家ヘ歸リタイト云フ考ガ起リマス、サウシテ法廷デハ一向自分等ガ聞カヌヤウナ、ドコデ人ヲ殺シタトカ、ドウシテ殺シタトカ、刀ヲ用ヒテドコヲ斬ッタトカ云ヤウナコトバカリ聽カサレテ居ル、ソレガ五時間モ六時間モ續クノデハ連モソレハ素人デハ堪ルモノデハアリマセス、其間ニ段々疲レテ來ル、モウ上ノ空ニナッテ仕舞フ、其上ノ空ニナッタ人間ガ退イテ評決ヲスル、事件ハ何デアッタラウ、モウ分リハセヌ、マア早ク歸シテ貰フニハ、斯ウ云フヤウニヤレバ宜カラウデハナイカ、ドウシテモ裁判官ノ意ヲ迎ヘテ來ル、サウナルノデアリマス、實際ハ……ソレハ決シテ私ハ不真面目ト言ハヌ、人間ハサウ云フモノデアリマス、人間ヲシテ色々ナコトヲヤラシメルノニハ各、適所ガアル、其適所カラ去ッテ今ノヤウナ事件ヲヤラシメレバ、ドウシタッテモ其人間ハ何トナク事件ニフサハヌカラシテ、注意ガ周到ニナラス、集中セヌ、目ハ此處ニ注イデ居ッテモ心ハ這入ラス、自分ノ家ニアルノデアリマス、一時間モ早ク家ニ歸リタイト云フコトニナッテ仕舞ウ、サウ云フ者ニ調ベラレテ、ソレデ事實ノ認定ヲセラレ、是ハ私ハ誠ニ困ッタコトガ生ズララウト思ヒマス、ソレデモマダ宜イ、マダソレクラキナラマダ宜イノデ、疲レテ上ノ空ニナル位ナラマダ宜イ、感情ニ驅ラレ、事情ニ動かサレテ有罪ノ事實ヲモ否認シテ、被告人ヲ庇フヤウニナル弊害ハ、歐羅巴亞米利加諸國、陪審制度ノ行ハレテ居ル諸國ニ於テハ是ハ實ニ頻々タルモノデ、又是ガ常例デアリマス、陪審ニカケタラ皆情實裁判、公平ナル裁判ハ一ツモ行ハレハセヌノデアアル、此點ニ付テモウ一遍井上子爵ノ論文ヲ讀ミタイノデアリマス、井上子爵ハ斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、「人情ハ聞ク所ニ泛ニシテ見ル所ニ切ナリ、其目撃ノ間罪人殺滅哀ミヲ乞フノ色アッテ而シテ惻怛ノ心ハ胸臆ニ感シ稍、義理ヲ知ル者ト雖モ亦或ハ婦女

ノ仁ニ倣フヲ免レズ、況ンヤ無知ノ常人、怨讐ノ餘殃ヲ懼ル……怨讐ハ敵打チセラレルコト……「既往ノ罪惡ヲ忘レテ而シテ現在ノ顔情ニ拘フ……」ガソウト云フノハ顔ノ情ト云フ……顔情ニ拘フ、「其荷モ宥スヲ以テ得ト爲ス者蓋シ十ノ七八ナリ、佛國重罪ヲ判シテ解放スル者多シ、酌減スル者寔モ多シ、以テ巨姦」キヨカンハ大ナル惡ル者……「巨姦網ニ漏ル、ヲ致シテ而シテ輕罪ハ之ニ反ス其重罪ハ陪審ヲ用ヒテ而シテ輕罪ハ之ヲ用ヒサルノ致ス所」誠ニ外國ニ於ケル情實ニ四ハレタル判斷デ裁判ガ公平ヲ失フニ至ル所ノ弊害ヲ井上子爵ナドガ述ベラレタ以上ハ、私ガ申述ベヤウトシテモドウシテモ出來マセヌ、ソレデアリマスカラ其弊害ヲ井上子爵ノ此論文ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマスノミナラズ、陪審制ガ最モ能ク行ハレテ居ルト云ハレテ居ル所ノ英吉利……其英吉利人ガ治罪法ヲ日本ニ制定セラレル頃ニ、法律顧問ニ爲ッテ日本ニ來テ居ッタ者ニ、ソコヲ井上子爵ハ陪審制ヲスルノガ善イカ惡イカト云フコトヲ十分ニ研究セラレテ自分デ良クナイト思ハレルケレドモ一人ニ聞イタノデハイケヌト思ハレテ、「ボアソナード」ニ聞イテ居ル、英吉利カラ來テ居ル法律顧問ニモ聞イテ居ル、アッチモコッチモ皆聞イテ、サウシテ自分デ判斷スレバ、是ハ用フベカラザルモノデアルト、斯ウ結局判斷セラレタノデアリマス、其英吉利人デ法律顧問ニナッテ居リマシタ所ノ「ロバート、ブレイダー」ト云フ人ガ井上子爵ニ陪審法ニ付テ答ヘタ、是ガ私ガ申上ゲルヨリモ現實之ヲ實行シテ居ル其國ノ人デ、而カモ法律顧問ニナル位ナ總テニ精通シテ居ル人ノ意見ヲ申上ゲル方ガ能ク御參考ニナルト思ヒマスノデ、是ハ稍、長ウゴザイマスケレドモ、此人ノ意見ノ大部分ヲ申上ゲタイト思フ「世人ハ常ニ過當ノ價ヲ陪審法ニ附スト雖モ余ヲシテ之ヲ評ゼシメバ其利益ハ多クハ理論上ニノミ望ムベキモノニシテ實際上ニ見ルコト能ハザルモノ其多キニ居ルト云ハムトス、何トナレバ理論ニ於テハ種々ノ利益アルガ如ク見ユレドモ經驗上現ニ其反對ノ實跡ヲ現出スレバナリ、縱令理論上ニノミ依ルモ綯纏タル事實ノ判別、證據物ノ對比互ニ相矛盾シ、若クハ混雜ナル事實及ビ申述等ノ取纏ヲ爲スコト、又ハ證據人ノ意思及ビ動作ノ如何ヲ識別スルコト等要スルニ一般陪審員ノ爲スベキ右等ノ種々困難ナル事柄ヲ尋常教育ナキ人民ノ聚合體ニ委スルハ最モ道理ニ背馳スルモノト言ハザルベカラス、陪審員ニシテ、正當ニ其職掌ヲ遂ゲシムルニハ先ヅソレヲシテ事物ヲ觀察スルニ論理ニ依ラシメ、若クハ猶ホ一步ヲ進メテ法理思想ヲ以テスベキコトヲ

黨陶セザルベカラズ、然ルヲ唯理論ニノミ依リ、至難ノ事件ヲ不學ノ徒ニ委ネテ良結果ヲ得ムト欲スルモ豈得ベケンヤ、右ニ述ブルガ如キ論理思想一般國民ノ胸裏ニナキコトヨリ生ズル所ノ弊害ヲシテ尙ホ一層其度ヲ増加セシムル者ハ則チ同輩心……「クラスフキーリング」仲間ノ心、「クラスフキーリング」……「若クハ政黨思想ナリ、其故ハ縱令誠實ノ人ト雖モ黨友心ノ爲ニ阻絶セラレテ其處斷ヲ誤ルハ自然ノ勢ナレバナリ」黨友心ト云フノハ「バーチザンシツブ」ト書イテアリマス……黨派心ノ爲ニ驅ラレテ其處斷ヲ誤ルハ自然ノ勢ナリ、「ロバート、ブレード」ト云フ英吉利人ガ日本ノ法律顧問官ニナツテ、自分ノ國デ行ッテ居ル實際ヲ明カニシテ、此通リノモノデアル、理論上ハ宜イヤウニ見エルノデアリマスガ、實際ハ此通リ惡イモノダト云フ忠告ヲシタ、井上子爵ハ此忠告ヲセラレテ、之ニ付テ餘程鑑ミラレタト見エルノデアリマス、ソレ位ナモノデアリマス、御承知ノ通り歐米ノ人、殊ニ英吉利人ハ職務上ノ責任心ト云フモノガ大變強イノデアリマシテ、一旦職務ニ當ルト云フト、情實ヲ排斥シテ良心ノ命ズル所ニ依ッテ働クト云フノガ英吉利人ノ特性デアルト申シテモ宜イ位デアリマス、ソレデアルノニ拘ラズ、尙ホ英吉利ノ陪審ノ實際ヲ見マスト云フト、情實ノ爲ニ左右セラレテ陪審員ガ心ヲ動かスト云フ事柄ハ、唯今井上子爵ノ議論ニ依ッテモ、又「ロバート、ブレード」ノ意見ニ依テモ、諸君ノ御承知ニナツタ通りデアリマス、感情ニ驅ラレ、情實ニ動かサレ、而カモ場合ニ依テハ復讐ヲセラレハセヌカト云フ恐怖ニモ動かサレル所ノ事情ノ、英米人ニ比ベテ一層甚ダシキ日本人ヲシテ、陪審員ノ役目ニ當ラシメタ時ニ、我々國民ハドウナルデアラウカト云フコトヲ考ヘマシテ、私共ハ頗ル危ブンデ居ル者デアリマス、殊ニ唯今申上ゲタ「ロバート、ブレード」ノ申シタ一番御仕舞ヒノ所、縱令誠實ノ人ト雖モ黨友心ノ爲ニ阻絶セラレテ其處斷ヲ誤ルハ自然ノ勢ナレバナリト云フ一點ニ至テハ、私共之ヲ讀ンデ、實ニ心ニ戰慄ヲ覺エタノデアリマス、我國今日都鄙至ル所黨派ノ弊害ノ甚ダシイコトハ、先達テ私ガ此法律案ノ提案セラレタ場合ニ於テ、質問ヲ致シマシタ時詳細述べタノデアアル、今日ハ實際ノ弊害ノ如何ナルモノデアルト云フコトハ申上ゲマセヌ、先達テ大分委シク申上ゲマシタカラ、是ハ申上ゲマセヌガ、先達テ申上ゲタ通り、今日都鄙ノ弊害……都鄙至ル所ニアル、上ハ政府ノ施設ニ於テ、中間ハ府縣ノ施設ニ於テ、下ハ市町村ノ施設ニ於テ、場合ニ依テハ個人ノ間ニマデ此黨派心ガ行渡ッテ、誠ニ弊害ヲ逞ウ

シテ居ルノデアリマス、此誠ニ弊害ノ甚シイ時ニ、抽籤ニ依ルトハ雖モ、被告ノ陪審員トノ間ニ於ケル黨派ノ異同、同ジ人間ガ居ルト云フノト、異ツタ人間ガ居ルト云フコト、此異同ガ認定ノ上ニ如何ナル影響ヲ與ヘルカト云フコトヲ想像シテ見マスルト、私共ハ實ニ戰慄ニ堪ヘナイノデアリマス、裁判ニマデモ黨派ノ弊害ガ及ブノハ、ドウモ目ニ見ル如クデアリマス、現内閣成立ノ初メニ唱ヘラレタ綱紀肅正ナルモノハ、聲バカリデ一向實ノ擧ラヌコトハ、現ニ屢、此議場ニ於テモ唱ヘラレタノミナラズ、我々ガ目前ニ見テ居ル通りデアリマス、今日ノ如キ黨派ノ弊害甚ダシク、今日ノ如ク綱紀ノ紊亂シテ居ッテ、政府ハ之ヲ正ス力ガナイ、斯ウ云フ場合ニ於テ、我々ノ頼ム所ノモトハ唯公平ナル裁判官アルノミデアリマス、幸ニ今日ハ裁判官ダケハ公平デアリマスカラ、我々ハ信賴シテ斯ウヤッテ居ルコトガ出來マス、裁判官ヲ除イタナラバ我々ハ今日ハ殆ド黨派ノ壓迫ヲ受ケテ、ドウモ安シク居ルコトハ出來ヌノデアアル、ソレガ陪審制度ノ實現ニ依テ、僅ニ殘レル司法權マデガ其權威ガ晦マサレテ仕舞フト云フコトニナリマシタナラバ、國民ハ如何相成リマスカ、殊ニ政府ノ反對ノ立場ニ居ルモノハ、ドウシテ正義ノ主張ヲナスコトガ出來ルノデアリマス、既ニ今日裁判所ガ此黨派ノ弊ニ感染スルヤウニナツタラ、政府ノ反對黨タルモノハ逆モ正義ノ主張ヲナスコトガ出來ヌコトニナルノデアリマス、私ハ此問題ニ付テ貴族院諸公ノ熟慮ヲ求ムルノハ、外ニモ澤山アリマスガ、此點ハ外ニ訴ヘルニモ訴ヘル所ハアリマセヌ、貴族院諸公ニ訴ヘル外ハ他ニ訴ヘル所ハアリマセヌカラ、私ハ茲ニ申上ゲルノデアリマス、之ヲ御考ヘナサラズシテ、輕卒ニ陪審法案ナドヲ作ッテ、國民ノ中ニ思フコトヲ言フコトガ出來ヌヤウニナリ、正義ノ主張ガ出來ヌヤウニナル、其結果ハ如何デアアル、唯爆發アルノミデアリマス、ソコマデ國民ヲ驅ラレルナラバ別論デアリマス、此點ハ諸公ニ向ッテ私ハ十分ナル御熟考ヲ願ヒタイ點デアリマス

〔ヒヤ〕「ト呼フ者アリ」

第三ニ私ガ陪審法ニ反對スルノハ、政府ハ陪審制度ノ施設ハ輿論ノ要求ニ基イタモノデアルト言ハレマスケレドモ、決シテ輿論デナイト云フ、此事ヲ申上ゲタイノデアリマス、衆議院デハ會テ陪審制度ヲ實施セラレタイト云フ建議案ヲ可決シタコトガアリマス、是ハ事實デアリマス、政府ハ或ハ之ヲ以テ輿論デアルト言ハレヤウカモ知レマセヌ、ソレナラバ

昨今ノ衆議院ヲ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、衆議院ニ於テハ近頃ハ毎日二十三十ト云フ建議案ガドンドン通過シテ居ルノデアアル、アノ建議案ノ通過ヲ以テ、是ハ輿論ノ要求デアアルト云フ人ガアツタナラバ、建議案ヲ出シタ人ハ心ニ恥カシクテ、能ウ人ノ顔ヲ見ルコトガ出來ヌデアラウト思ヒマス、陪審法案ハ第四十五議會ニ於テ、衆議院ヲ通過シテ居リマス、司法大臣ハ衆議院ヲ通過シタラ、此位國論ヲ見ルニ足ルモノハナイデハナイカト云フコトヲ言ハレテ居ル、是ハ輿論デアアルト、斯ウ言ツテ居ラレル、衆議院ヲ通過シタモノハ私ハ輿論デアアルト言ヒタイノデアリマス、ドウカサウ言ハシテ貰ヒタイト思ヒマス、併ナガラ今日ハ衆議院ニ於テハ政府カラ提案セラレタモノハ何ンデモカンデモ之ヲ通スト云フ、茲ニ政府ヲ支持スル黨派ガアルノデアアル、世ノ中ニ男子ヲ女子ニスルコトダケハ、出來ヌケレドモ、其他ノ事柄ハ衆議院ト云フモノハ出來ヌモノハナイト云フコトヲ言フ者ガゴザイマスガ、今日ノ衆議院ハ男子ヲ女子ニスルコトハ出來マセヌガ、其他ノ事柄ナラバ、此政府ヲ助ケテ居ル黨派ノ側カラ出ルカ、或ハ此黨派ノ主張ニ適スルモノヲ政府ガ出サレタナラバ、何デモ通ルノデアアル、之ヲ輿論デアアルト言ヒタイノデアリマスガ、衆議院ノ此多數ノ出來タコトヲ能ウ私ハ承知シテ居リマスガ爲ニ、此衆議院ノ政府與黨ガ議案ヲ通過シタカラト言フテ、之ヲ以テ輿論デアアルト云フマデニハ、私ハ能ウサウ言フダケノ勇氣ハナイノデアリマス、委員會ニ於テハ政府ニ對シテ、陪審制度ガマダ國民ニ諒解シテ居ナイヤウダガ、ドウシテ國民ニ陪審制度ヲ了解スルヤウニナサラウカト云フ質問ガアツタサウデアリマス、此點ハ委員長ガ報告セラレタカセラレヌカ、私ハチヨット聞キ漏シマシタ、私ハ誠ニ無精者デアリマシテ、委員會ノ速記録ヲ讀マスノデアリマス、ソレデアリマスカラ、或ハ間違ッテ居ルカモ知レマセヌガ、新聞ニ依ルトサウ書イテアリマス、ドウシテ國民ニ陪審制度ヲ了解サセルコトヲナサレルカト云フ質問ガアツタサウデアリマス、サウスルト云フト、政府ノ答辯ハ、ソレハ講演ヲシタリ、或ハ文書デ以テ國民ニ能ク分ルヤウニスル考デアルト言ハレタト云フコトデアリマス、新聞ニハサウ書イテアツタ、今日ノ貴族院ノ委員會ノ議事ノコトデ新聞ニ出テ居ルモノハ十中八九ハ間違ッテ居リマス、是ハ誠ニ遺憾千萬ナトデアリマスガ、間違ッテ居ルノデアリマス、新聞ニ出テ居ルノハ、ソレデアリマスカラ、是ハ新聞ガ惡イノデハアリマセヌ、ドウ云フ譯カ知ラヌガ、ドノ特別委員會ノ議事デモ新聞ニ出テ居ルコトハ十

中七八ハ間違ッテ居ル、二三間違フテソレデ濟ンデ居ルノハ誠ニ能ク出來テ居ル位デアリマス、ソレ位デアリマスカラ新聞ニ出テ居ル事柄ガ必ズ確カデアアルカドウカ存ジマセヌガ、新聞ニハサウ出テ居ツタ、ソレヲ見タ時ニ私ハチヨット噴キ出シタノデアリマス、私ハソレデ委員會ノ諸君ガ満足サレタコトヲ非常ニ可笑シク思ツタ、若シ私ガ特別委員デアツタナラバ、ソレデハ足りマセヌ、活動寫眞ヲ以テ國民ニ了解ヲ求メタ方ガモット宜イデゴザイマセウト云フ方ガモット適切デアツタカト思ヒマス、一方ニハ罪人ガ人ヲ殺シタ所ヲ出シ、一方ニハソレガ裁判ニ來テ居ル、ソレガ如何ニモ憐ミヲ請フヤウナ状態ヲ出シテ置ク、陪審員ガ之ヲ如何ニモ情實ヲ酌量シテ有利ノ決定ヲ與ヘテ居ルヤウナ活動寫眞ヲ以テ全國ニ見セラレタナラバ一層此陪審ノコトヲ國民ガ能ク了解スルデアラウト思ヒマス、ソコマデ委員デ徹底セシメナカッタノハ誠ニ私ハ遺憾ナコトデアツタト思フ、文書ヲ以テ説明シ、或ハ講演ヲ以テ色々國民ヲ教育シナケレバ、國民ハ陪審制度ヲ容易ニ解釋シナイ、了解シナイ、サウ云フ事柄ハ委員會ノ此間答ヲ唯今御紹介申上ゲタコトニ付テ能ク分ルノデアリマスガ、ソレデ陪審制度ガ輿論デアアルト云フコトハ何處カラ出テ來ル、講演ヲシタリ文書ヲ以テ言ツテ聞カセナケレバ國民ガ今日マダ分ラヌノデアアル、私ハ活動寫眞ノ方ガモット適切ナル方法ダト思ヒマス、ソレ位國民ガ了解シテ居ナイノニ、ソレデ國民ノ輿論デアアル、何處カラ出テ來ルノデアアルカ、此度追加豫算ヲ以テ政府ハ九萬何千圓ヲ以テ役人ヲ歐羅巴ニ派遣シテ歐羅巴ノ陪審制度ノ實況ヲ見サセルト云フコトデアリマス、之ニ付テ私質問シタ所ガ政府ノ言ハレルノニハ、陪審制度ノ良イト云フコトハ決ッテ居ルカラ、ソレヲ見ルノデハナイ、唯實際ドウ行ッテ居ルカト云フコトヲ見ニヤルノダ、斯ウ云フ譯ダ、實際ドウ行ッテ居ルカト云フコトヲ知ラズニ居テ、陪審制度ガ良イト云フコトハ何處カラ出テ來ル、然ルニ陪審制度ガ良イト云フ御考ノ起ルノハ、議論ノ上ニ於テモ實際ノ上ニ於テモ十分研究ヲシテ、能ク分ツタ上ニ於テ始メテ陪審制ヲ立テルト言ハナケレバナラヌ、是ガ冗談ゴトデモ何デアリマセヌ、何百萬圓ノ金ヲ使ッテ國家ノ司法權ノ實行ニ向ッテハ大ナル變化ヲ與ヘル始メニ當ツテ、マダ歐羅巴ノ實際ノ狀況モ調ベズニ置イテ、法律ヲ通過サセテ議會デモノヲ言ハセヌヤウニシテ置イテ然ル後、役人ヲ歐羅巴ニヤツテソロソロ調ベニ掛ル、何ト云フ不深切ナコトデアリマセウ、何ト云フ不取調ベナコトデアリマセウ、斯ウ云フコトニ依テ此陪審制度ナルモノハ今日提出

サレテ居ルノデアリマス、衆議院ニ於テハ是モ間違ッテ居ルカドウカ存ジマセヌガ、新聞ノ傳フル所ニ依レバ、委員會ニ於テ政府ニ對シテ、政府ハ役人ヲ歐米ニ派遣シテ陪審制度ヲ調べサセルラシイガ、辯護士モ歐米派遣ヲシテ調査サセルヤウニシテ貫ヒタイト云フ希望が出タサウデアリマス、之ニ對シテ司法大臣ハ同感デアアルカドウカサウ致シタイト思フト云フ答辯ヲセラレタト云フ話デアアル、陪審制度ニ付テハ是カラ裁判官ヲ教育シテカラデナケレバナラス、辯護士ヲ教練シテ掛ラナケレバナラス、ソレカラ講演ト文書ヲ以テ國民ニ了解セシメナケレバナラス、是ガ何處ニ輿論ノ要求ト云フコトが出テ居ルノデアリマス、コンナコトヲ以テ陪審制度ガ輿論ノ要求デアルト云フ事柄ハ私ハ何處カラ出テ來ル、議論ガ殆ド理解ガ出來ヌノデアリマス、是カラ述ベマス所ノモノハ同ジク反對ノ理由デアリマスケレドモ、私ノ反對スル最モ有力ナル反對論デアリマス、ソレハ何デアアルカト云フト、陪審制度ハ帝國憲法ニ牴觸スルト云フデアリマス、憲法第二十四條ニ「日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルコトナシ」ト云フ規定ガアルノデアリマス、又同ジク憲法第五十七條ニハ「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム」ト規定シテアルノデアリマス、裁判ト云フノハドウ云フコトデアリマス、事實ヲ認定シテ之ニ法律ヲ適用スルコトデアリマス、日本臣民ハ裁判官ニ依テ事實ノ認定ト法律ノ適用ヲシテ費フコトノ權利ヲ奪ハルルコトナシト云フノガ憲法ノ規定デアリマス、又司法權、陪審員ハ何デアリマス、陪審員ハ一ノ司法權ノ一部分デアアルト言ハナケレバナラス、一ノ司法權ノ一部デアアルナラバ、司法權ナルモノハ左様ナモノヲシテ行ハシメルコトハ出來ヌコトニナッテ居ル、司法權ハ裁判所之ヲ行フト云フコトニナッテ居ル、ソレデアリマスカラ陪審制度ヲ設ケテ事實ノ認定ヲ與ヘシメルト云フ事柄ハ、我が憲法ノ規定ニ正シク違反シテ居ルト言ハナケレバナリマセヌ、世間ニハ裁判トハ法律ヲ適用スルコトデアッテ、事實ノ認定ハ裁判デナイト云フ見解ヲ有ッテ居ル人ガアリマス、委員會ニ於テモ斯ウ云フ說ヲ唱ヘラレタ人ガアルト云フコトデアリマス、私ハ是ハ大イナル誤リデアルト思フ、裁判ト云フノハ事實ヲ認定スルコトモ一ツノ裁判デアアル、之ニ法規ヲ適用スルコトモ裁判デアアル、兩者共ニ是ハ裁判デアリマス、其一ツガ裁判デ、其他ノモノハ裁判デナイト云フコトハ決シテ是ハ言フコトガ出來ヌノデアリマス、一例ヲ舉ゲテ申シマ

スルト、民事ノ事件ニ付テ土地ノ境ノ争ガアツタ、境界ノ争ガアツタ、コチラノ地主ハ此處マデデアアル、コチラノ地主ハ此處マデデアアルト云フ争ガアルト云フコトヲ茲ニ想像シテ見マス、此場合ニ於ケル裁判ナルモノハ、法律ノ適用デモ何デモナイ、事實ノ認定デアアル、證據ヲ調べテ境ガ此處デナクシテ、此處ダト云フノガ即チ裁判デアアル、是ガ事實ノ認定デアリマス、若シ事實ノ認定ハ裁判ニアラズト云フナラバ、境界ニ對スル裁判ナルモノハ裁判ニアラズト云ハナケレバナラス、ソナコトヲ世ノ中ニ唱ヘル人ガ何處ニアリマス、事實ノ認定ト法律ノ適用ヲ區別シテ、事實ノ認定ハ裁判ニ非ズナント云フ左様ナ議論ト云フモノハ是ハ全ク取ルニ足ラナイデアリマス、此點ニ於テハ井上子爵ノ議論ハ尙ホ一段進ンデ居ル、事實ト法律トハ離レテ居ルコトハ殆ド出來ヌトマデ言ッテ居ラレル、今日ノ法理論ハソレトハ違ヒマスカラ、私ハ此井上子爵ノ議論ヲ直チニ茲ニ是認スルノデアリマセヌケレドモ、是モ亦御判斷ナサル、ニ付テハ、非常ナ材料デアアルト思ヒマスカラ讀上ゲテ見タイノデアリマスガ「陪審ヲ設クルノ義謂フニ陪審ハ事ヲ判ジ、法官ハ法ヲ判ズ、夫レ事ト法トハ豈判ツテ而シテ二ト爲スベキモノナランヤ、事ノ有無ハ猶ホ法ト分ツベシ、其事ノ有罪ト無罪トニ至ッテハ、法ヲ外ニシテ而シテ之ヲ論ゼント欲スルモ將タ何ノ權度ヲ取ル所アララン、故悞輕重ノ間、情狀ノ區ニシテ別ナル、上服下就、出入ノ差毫釐千里、是皆事ニ屬ス仍ホ法ニ非ザルナリ、即チ事ト法ト細繆相入ル者ナリ、彼ノ正當防衛ト挑撥闘毆後手ヲ下ストノ別ノ若キハ、法ニ至精ナル者ト雖モ、亦往々ニシテ依違判ズル能ハズ、今是事ナリ法ニ非ズト謂ウテ、而シテ之ヲ法理ニ階キノ人ニ委ス、是猶ホ木ニ縁ッテ魚ヲ求ムルガ如シ」ト斯ウ井上子爵ハ判斷シテ居ラレルノデアリマス、是ハ事ト法トヲ區別スルト云フ、區別ハ出來ルガ、又兩者錯綜シテナカナカ區別ノ出來ヌモノダト云フ議論デアリマス、併シ私ハ是ハ區別ハ出來タト假リニ定メテ、區別ガ出來テ、事實ノ認定ナルモノガ、ソレナラバ裁判デナイカト云フト、事實ノ認定モ亦裁判デアアルコト、唯今境界ノ裁判ニ付テ誠ニ明カナンデアアル、境界ハ民事ナリトハ云ハレルケレドモ、民事デアッテモ既ニ認定ガ裁判デアアル以上ハ、之ヲ刑事ニ敷衍シテ考ヘテ見テ決シテ誤ル所ハナイノデアリマス、既ニ事實ノ認定ガ裁判デアアルト云フコトヲ認メマスル以上ハ、陪審員ヲシテ事實ノ認定ヲ爲サシメルコトハ、是ハ正シク憲法ニ違反シテ居ルモノデアリマス、併ナガラ政府ハ過日私ガ質問ヲ致シタ時ニ、事實ノ認定

モ亦裁判ノ中デアルト思フテ居ルト答辯セラレタ、ソレデアリマスカラ、此點ニ付テハ政府モ私共ト同論デアルヤウニ思ヒマスガ、之ニ付テモ亦新聞ノ記事ヲ見マスト云フト、私ハ甚ダ驚イタノデアリマス、委員會ニ於テ事實ノ認定ハ裁判ニ非ズト思フガ、ドウダト云フヤウナ意味ノ質問ガ有ッタラシイノデアル、ソレニ對シテ政府ハ事實ノ認定ハ裁判ニ非ズト云フ論モアリ、又事實ノ認定モ亦裁判デアルト云フ論モアル、自分ガ本議場ニ於テ事實ノ認定モ亦裁判ノ一部デアルト云ッタノハ、アレハ自分ノ一家言デアアル、自分個人ノ意見デアルト答辯セラレタト云フコトヲ聞イテ居ル、サウデナケラニヤ結構デアリマス、前申上ゲマス通り、委員會ノ記事ヲ新聞ニ出シテ居ルモノハ往々ニシテ間違ガアリマスカラシテ、私ノ唯今申上ゲル所ガ間違ッテ居レバ別問題デアアル、新聞ニサハウ云フヤウニ傳ヘラレテ居ル、是ハ驚カザルヲ得ヌノデアリマス、貴族院ノ議場ニ於テ議員ガ政府ニ質問スル時ニ、政府ノ意見ヲ答辯セズシテ一家言ヲ答辯セラレルト云フコトハドウ云ウ譯デアリマス、現内閣ハ左様ナコトヲ爲サレルト云フナラバ、私共ハ是カラ後質問ヲ致スノニハ、一々駄目ヲ押サナケレバナラス、ソレハ貴方ノ一家言デアアルカ、加藤内閣ノ意見デアアルカト、斯ウ一々質サナケレバナラス、私ハ反對ト思フ、默ッテ居レバ政府ノ意見ヲ述べラレルノデアッテ、自分ノ一家ノ意見ナラバ是ハ自分一個ノ意見ナリト斷ラナケレバナラス、又左様ナ岡野博士個人ノ意見ナドハ貴族院ノ議場ニ於テ承ル必要ハチットモアリマセヌ

〔「ヒヤ」ト呼フ者アリ〕

議員ガ政府ニ向ッテ質問スルノハ政府ノ意見ガ何處ニアルカト云フコトヲ尋ネルノデアアル、ソレヲ玆デハ默ッテ答辯ヲシテ置キナガラ、委員會ニ至ッテハアレハ自分一個ノ説デアルト云フヤウニ述べラレタト傳ヘラレテ居ル、是ハ岡野博士ノ名譽ノ爲ニ其事實デナカッタコトヲ私ハ祈リマス、併シ事實デアッタナラバ誠ニ不都合千萬ナコトデアアル、元來昨今ノ司法省ノ態度ハ私ハ甚ダ面白クナイト思フ、過日辯護士會法案ガ議場ニ提出ニナッタ時ニハ、之ニ對シテ政府ハ賛成シテ居ラルルカト、斯ウ云フト、一向賛成デナイ、何ダカ曖昧ナコトヲ云ッテ居ル、併シ議會ガ通セバ賛成ダト云ッタヤウナ……此儘デヤ反對ダクレドモ、議會ガ通セバ賛成ダト云ッタヤウナ、何ト云フカ分ラヌ答辯ヲセラレタ、辯護士ノ一部ニモ秋波ヲ送ッテ居ル、他ノ一部ニモ秋波ヲ送ッテ居ル、アッチヲ見タリコッチヲ見タリシテ男ラシイ答辯ヲシテ居ラレヌノデア

ル

〔「其通り」ト呼フ者アリ〕

此度ノ此問題ニ付テモ議場ニ於テ言ハレタコトハ、今度委員會ニ行ッテ司法省ニ親シイ委員ノ澤山アル所デハ今度ハアレハ自分一個ノ意見デアルト云フヤウナコトヲ言ハレタト云フ話デアアル、私ハ甚ダ不都合ナル態度デアルト思フ、議會ニ於テ答辯セラレ、以上ハ、如何ナル所ニ於テモ政府ノ意見ヲ言ハレナケレバナラス、一個ノ意見ナドヲ述べラレルト云フコトハ甚ダ不都合デアルト思フ、是ハ稍、横道ニ這入りマシタケレドモ、私共將來議員トシテ政府ト意見ヲ交換スル場合ニ於テノ大イナル心得ニナルコトデアリマスカラ、ドウシテモ是ハ申上ゲナクテハナラナイ、併シ本體ニ於テハ政府モ、事實ノ認定モ亦法律ノ適用ト同ジク裁判ノ一部デアルト、斯ウ云ッテ居ラレマスカラ、此點ニ於テ私ハ政府モ我ト意見ヲ異ニシテ居ラレヌト思ヒマス、然ルニ事實ノ認定ガ裁判ノ一部デアリマスルナラバ、事實ノ認定ヲスルコトハ司法權ヲ行使スルコトデアリマス、憲法ガ立法權、行政權、司法權ニ付テ規定ヲシテ、司法權行使ノコトヲ規定スル場合ニ、事實ノ認定ヲ陪審員ニ讓ル考デアルナラバ、憲法ノ上ニ於テ此事ヲ明カニ規定シナケレバナリマセヌ、司法權ノ行使ニ關スル規定ヲ設ケナガラ、司法權ノ行使ノ一部タル事實ノ認定ヲスル權能ノコトヲ規定セヌト云フコトデハ、憲法ノ規定ガソレハ不備ニナル、左様ナコトノアルベキモノデアリマセヌ、歐米諸國苟モ陪審制度ヲ認メテ居ル國ニ於テハ、如何ナル國ニ於テモ皆憲法ニ於テ陪審ノコトガ規定シテアル、ソレガ當然デアアル、司法權ノ行使ノコトヲ規定シタ憲法ガ司法權ノ行使ノ一部ヲ陪審員ヲシテ行ハシメムトスルナラバ、其事ヲ憲法ニ書イテ置カナケレバナラス、是ハ當然ナコトデアアル、ソレデアリマスカラ何レノ國ノ憲法デモ、陪審制ヲ行ッテ居ル國デハ、憲法ニ於テ此規定ガアルノデアリマス、唯英吉利ニ於テハ憲法ニ於テ此規定ガナイト言ハレルカモ知レヌ、併ナガラ英吉利ハ御承知ノ通り、大部分不文ノ國デアリマス、成文ノ憲法デハナイ、英吉利ノ憲法ハ不文ノ憲法デアアル、ノミナラズ英吉利ニ於テハ憲法ヲ改正スルノモ、法律ヲ改正スルノモ、同ジ手續デ出來ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ英吉利ニ於テハ明文ガナイト云フコトガアルカモ知レマセヌガ、其他ノ國ニ於テ、苟モ陪審制度ヲ實行シテ居ル國ニ於テハ、悉ク憲法ニ於テ陪審ノコトヲ規定シテ居ルノデアアル、然ルニ我ガ憲法ニハ御承知ノ通り、

陪審ノ規定ハ何所ニモナイノデアリマス、是ハナイ筈デアリマス、憲法ハ陪審制度ヲ認めナイカラ之ヲ規定シナイノデアアル、認めルナラバ規定シナケレバナラヌケレドモ、陪審制度ヲ憲法ガ認めナイカラ、憲法ノ中ニ陪審制度ヲ規定シテナイノデアリマス、是ハ私ダケガ斷言シテモ、其解釋ハ若槻個人ノ解釋デアルト云ツテ、否認セラルルカモ知レマセヌカラ、ソコデ私ハ再ビ復井上子爵ノ意見ヲ參照シテ見ナケレバナラヌト思フ、前ニ申上ゲタ時ハ總テ治罪法ヲ定メラレル時ノコトヲ申上ゲタ、所ガ井上子爵ハ日本ノ刑法治罪法ノ制定ニ非常ニ與ツテ功勞アリシノミナラズ、憲法ノ起草ニ取ツテハ第一人ノ功勞者デアリマス、憲法ノ起草ノコトヲ言フタナラバ、井上子爵ガ最も貢獻セラレタト言ハヌケレバナリマセヌカラ、井上子爵ノ意見ナルモノハ、憲法ノ條文ヲ解釋スル上ニ最も是ハ重キヲ置イテ見ナケレバナラヌノデアリマス、憲法ナルモノハ誰ガ主モニ起草シタカト云フト、井上子爵デアアル、然ルニ「ボアソナー」ガ治罪法ニ於テ陪審制度ヲ認めルコトヲ熱心ニ主張シタノニ對シテ、色々研究セラレタ結果、日本ノ刑事訴訟法ニ於テハ、陪審制ヲ認めヌト云フコトニセラレタ、其井上子爵ガ憲法ノ起草ニ當ツテ居ラレルノデアアル、而シテ若シ憲法ニ於テ陪審制度ヲ認めル考ナラバ、陪審ノコトヲ最も能ク承知シテ居ラレテ、此事ハ司法權行使ノ一部デアアル、殊ニ井上子爵ニ依テ見レバ、事實ト法律ノ適用ヲ別ケルコトモ困難ダトマデ見テ居ラレル、其井上子爵ガ若シ陪審制度ヲ憲法ガ認めル考有ツテ居ラレルナラバ、ドウシテモ憲法ニ之ヲ書カレナケレバナラヌ筈デアアル、起草ノ上ニ於テ之ヲ現サナケレバナラヌ筈デアリマス、ソレガ子爵ノ手ニ成ツタ憲法ニ於テ、陪審制ノ陪ノ字モ書イテナイ所ヲ以テ見レバ、日本ノ憲法ニ於テハ陪審制度ヲ認めテ居ナイト云フコトガ、是デ最も明瞭ニ解ル次第デアリマス、憲法ガ既ニ陪審制度ヲ認めテ居ナイ、而シテ政府ハ敢テ陪審法案ヲ制定シヤウト云フテ、茲ニ法案ヲ提出セラレタ、即チ憲法ニ於テ認めテナイ陪審制度ヲ行ハウト云フテ、政府ガ茲ニ提案ヲセラレタノデアリマス、事ハ極メテ重大ト申サナケレバナリマセヌ、法律案ノ第八十五條ニ依テ見マスト云フト……八十五條チヤアリマセヌ、九十五條ニ依テ見ルト、「裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得」、裁判官ガ陪審員ノ決定ヲ以テ是ハ不當デアルト認めタトキニハ、他ノ陪審員ニ移シテ評決サセルコトガ出來ルト云フ規定ガアルノデアリマ

ス、此規定ガアルカラ陪審制度ハ憲法ニ違反セヌト云フノガ、政府ノ辯解デアリ、又本案ニ賛成シテ居ラルル方ノ通路デアルト存ジマス、何故ニ陪審制度ヲ認めルノデアアルカ、何故ニ陪審制度ヲ作ルノデアアルカ、陪審制度ナルモノハ、裁判官ハ常ニ罪人ヲ取扱ヒ付ケテ居ル、場合ニ依ルト云フト、被告人ヲ罪人視シテ調べる虞レガアルカラ、茲ニ全ク先入主トナラザル、何等四ハレタル所ノナイ素人ヲシテ、其人ノ常識ノ判斷ニ依テ、事實ノ認定ヲサセヤウト云フノガ、陪審制度ヲ設ケル趣意デアリマス、果シテサウデアラナラバ、陪審員ノ決定シタモノヲ最終ノモノニセナケレバナラヌ、ソレデ極メナケレバナラヌ、常識ノ認定ヲ土臺ニスルコトガ必要ダト云フテ陪審制度ヲ認めルナラバ、常識ノ判斷ナルモノヲ最終ニセナケレバナラヌ、陪審員ノ評決ヲ最終ノモノニセナケレバナラヌ、サウセナケレバ陪審制度ヲ設ケタ目的ヲ達スルコトハ出來ヌノデアリマス、陪審制度ノ妙用ヲ發揮スルコトハ出來ヌノデアリマス、茲ニ提出セラレタ法案ノ如ク、裁判官ガ陪審員ノ評決ガ不當デアルト認めタラ他ニ移シテモ宜イト云フコトニナツテ、裁判官ノ考ヘ次第デ、陪審員ノ意見ヲ左右スルコトガ出來ルナラバ、陪審制度ヲ設ケル妙用ト云フモノハ、全ク無クナツテ仕舞フノデアリマス、然ルニ陪審制度ノ妙用ヲ失フニモ拘ラズ、尙ホ且ツ政府ガ陪審員ノ決定ヲ最終ノモノニセナカッタノハ、最終ノモノニスルト憲法ニ違反スルカラデアリマス、憲法ヲ遁ゲヤウト思フテ、陪審制度ノ妙用ヲ失フコトヲ敢テシテ居ルト云フノガ、此法案ノ趣意デアリマス、陪審ノ妙用ヲ發揮セムトスルカ憲法ニ違反スルヲ如何セム、憲法ニ違反セザラムトスルカ、陪審ノ妙用ヲ失フヲ如何セム、此「チレムマ」ノ間ニ政府ハ這入ツテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ「チレムマ」ニ陥ッタノハ何カト云フト、出來ナイコトヲ無理ニシヤウト云フカラデアリマス、憲法ニ違反スルコトヲ敢テセムトスル過ガ、即チ茲ニ出タノデアリマス、而カモノレナラバ政府ハ巧ニ憲法ヲ濶ツタノデアアルカ、巧ニ憲法ヲ濶ツテ憲法ニ牴觸シナイヤウニナツテ居ルノデアアルカ、私ハサウハナツテ居ナイ、結局政府ハ憲法違反ノ罪ヲ免レナイ事柄ヲ、今茲ニ目前ニ提供シテ居ルモノト云ハナケレバナラヌト思ヒマス、第九十五條ハ如何ニモ裁判所ガ陪審ノ答申ヲ不當ト認めタナラバ、外ノ陪審ニ移スコトガ出來ルコトハアリマスケレドモ、結局不當トシタナラバ、裁判所ガ決定シテ仕舞ツテ宜イト云フ規定ハ、此法案ノ何處ニモナイノデアリマス、何遍移シテモ自分ノ意見ト合致セヌマデハ移スコトガ出來ルケレドモ、不當ダカラ裁判所デ之ヲ

決定シテ仕舞フト云フコトが出来ヌ、何處マデ行ッテモ結局評決ガナケレバ  
 裁判ガ出来ヌノデアリマス、ソコデ二回移シテモ三回移シテモ、五回移シテ  
 モ陪審員ハ同ジ答申ヲシタラドウナリマス、結局政府ハ之ニ從フコトニナラ  
 ザルヲ得ヌ、サウナッタラドウナリマス、陪審員ノ事實ノ認定ハ裁判官ヲ拘  
 束スルノデアアル、事實ノ認定ハ陪審員ガ之ヲナスノデアアル、即チ憲法ニ違反  
 スルノデアリマス、方々ニ移スカラ差支ナイト云ッテ居ルガ、ソレハ頭置シ  
 テ尻置サズデアリマス、結局ノ所ニ於テハ陪審員ノ意見ニ從ハナケレバ裁  
 判ガ出来ヌノデアアル、先程委員長ノ報告ヲ聞イテ居ルト、段々何遍モ移シテ  
 結局裁判官ガ陪審員ノ意見ニ從ッタ時ニハ、ソレデ拘束セラレルノデヤナイ、  
 裁判官ト陪審員ノ意見ガ一致シタノデアアルカラ、事實ノ認定ヲ裁判官ガナス  
 ト云フコトヲ妨ゲヌト云フ意見ダッタト云フコトヲ言ハレル、是ハドウ云フ  
 コトデアリマス、議論ヲシテ結局言ヒ伏セラレテ閉口シマシタト、斯ウ云フ  
 ト、其閉口シタ人ハチットモ自分ノ意思ハ拘束セラレテ居ナイ、自由ノ意思ヲ  
 發揮シテ閉口シタノデアアルト、斯ウ言ハレル、サウ云フ議論ガ何處カラ出テ來  
 ルノデアリマスカ、何遍代ヘテモ結局陪審員ノ意見ガ法官ノ意見ト合致セヌ  
 時ニハ、サウシテ陪審員ガ何遍代ヘテモ事實ノ認定ヲ其裁判官ト異ニシタ時  
 ニハ、最後ハ結局事實ノ認定ハ陪審員ノ意思ニ依ッテ定マルノデアアル、裁判  
 官ノ意思ガ拘束セラレルノデアアル、裁判官ノ意思ガ拘束セラレル以上ハ、陪  
 審員ガ事實ヲ認定シタト言ハヌケレバナラス、陪審員ガ事實ヲ認定スル、即  
 チ陪審員ガ裁判ヲスル、ソレガ憲法ニ違反スルノデアリマス、斯様な關係ニ  
 相成ルノデアアル、今ヤ諸公ノ机ノ上ニ上ッテ居リマス所ノ陪審法案ナルモノ  
 ハ、而シテ諸公ノ御協賛ヲ受ケムトシテ居ル所ノ法案ハ、憲法違反ノ法案デ  
 アル、議員ハ憲法違反ノ法案ニ協賛スルコトが出来ヌノデアリマス、諸君ノ  
 机ノ上ニ上ッテ居ル其法案ハ憲法違反ノ法案デアリマス、是ハドウゾ一ツ能  
 ク御考ニナッテ、表決ノ際ニ於テハ憲法違反ノ法案ニ賛成スルヤ否ヤト云フコ  
 トヲ餘程能ク御考ニナッテ表決アラムコトヲ希望イタスノデアリマス、第五  
 ノ理由ハ近頃段々政府ガ採用セラレタ新刑事政策ハ今日ニ於テハ最早陪審制  
 度ヲ何等必要トスルコトノナイ所ニマデ相成ッテ居ルト申上ゲタイノデアリ  
 マス、初メカラ陪審制度ニハ反對デアリマス、併ナガラ若シ舊刑法ノ如クデ  
 アッテ、而シテ執行猶豫トカ、起訴猶豫トカ云フ制度ノナイ時デアリマスナ  
 ラバ、弊害ハ有ルコトハアルケレドモ、陪審制度ヲ實行スレバ陪審制度ニ伴ッ

テ若干ノ利益ハアッタニ相違ナイ、然ルニ今日ハ刑法ガ改正セラレテ、新ラ  
 シイ刑事政策ガ採用セラレテ、又執行猶豫トカ起訴猶豫トカ云フヤウナ法律  
 ノ制定モ出来テ參リマシタ以上ハ、陪審ニ依ッテ幾ラカ法律ノ冷カナルコ  
 トカラ生ズル所ノ弱點ヲ救済スルト云フ、其點マデモ今日ハモウ消滅シテ仕  
 舞ッテ、一向左様ナ必要ノナイコトニ相成ッタノデアリマス、歐洲諸國ガ陪  
 審制度ヲ採用シタノハ前申上ゲル通り、殊ニ大陸諸國ガ陪審制度ヲ採用シタ  
 ノハ、前申上ゲル通り專制政治ニ對シテ司法權ノ濫用ヲ防ガウト云フ趣意デ  
 モアリマスケレドモ、併ナガラソレト共ニ又法律ヲバ其儘適用スルト云フト  
 如何ニモ冷カナル取扱デアッテ、人情ニ適セヌト云フコトガアル、ソレ故ニ陪  
 審制度ヲマダ置クガ宜イト云フ意味ガ餘程アルノデアリマス、歐羅巴諸國デ  
 モ陪審ノ弊ニハ堪ヘヌデ居ル、堪ヘヌデ居ルケレドモ、今日マデマダ存シテ  
 居ル、此點ニ付テモ過日質問ノ際ニ司法大臣ハ陪審制弊ハ害ハアルト云フケ  
 レドモ、止メタラ宜イト云フ議論ハ一ツモナイデヤナイカ、山脇君ガ「ロム  
 ブロゾー」ノ意見ヲ紹介サレタニ對シテ、「ロムブロゾー」ノ説ト云フモノハ  
 今日ハ稍古臭イト言ハレテ居ルト云フヤウナ語氣ヲ以テ、陪審制度ヲ止メテ  
 宜イト云フ議論ハナイト云フコトヲ言ハレタ、止メルト云フ議論ハナイノデ  
 アリマス、餘計ニ學者ノ中ニハアリマスケレドモ、世間ニ唱ヘテ陪審制度  
 ヲ止メヤウト云ッテ居ル者ハナイ、ソレハ一遍一ツノ制度ヲ拵ヘル、其制度モ  
 何デモナイモノナラバ、ソレヲ止メルトカ置クトカ云フコトハ自由ニ行キマ  
 スガ、陪審制度ト云フヤウナ司法權執行ニ付テ非常ニ關係ノアルモノヲ一遍  
 設ケテ置イテ、之ヲ止メルト云フコトハ是ハ容易ナコトデアリマセヌ、ノ  
 ミナラズ初メ設ケタ動機ガ、大陸諸國ニ於テハ專制政治ニ對スル自由ノ保障  
 ヲ得ヤウト云フノデアリマス、今日ハ必要ハナイケレドモ、之ヲ止メルト何  
 トナク國民ノ自由ノ保障ヲ失ッテモ宜イト云フヤウニ思ハレテナラヌト云フ  
 一ツノ感情ガアルノデアリマス、既ニ歴史ニ現ハレテ居ル、サウシテ一ツノ  
 制度ニナッテ居ル、サウシテ一ツノ感情ヲ拵ヘテ居ル、ソコニ至ッテ歐羅巴諸  
 國ハ容易ニ止メナイ、弊害ハ十分ニ認メテ居ル、止メナイ、止メナイガ、ソ  
 レニ加ヘテモウ一ツアルノハ、唯今申上ゲタ今ノ冷カナル法規ヲ適用ヲシタ  
 時ニアッテハ、裁判ヲシテ誠ニ人情ニ適セヌモノニナス虞ガアル、陪審ガア  
 ルト是ガ調節セラルル、茲ニ陪審制度ヲ止メルト云フ議論ノ起ラヌ一點モア  
 ル、親ガ殺サレタ、ソレガ爲ニ息子ガ親ノ仇ヲ取ル、サウシテ親ヲ殺シタ者

ヲ又行ッテ殺シタ、殺人罪デアリマスガ、殺人罪デアルカラト云フテ之ヲ首  
ヲ絞メテ殺シテ仕舞フト云フノハ、是ハ随分人情忍ビナイ所デアアル、名譽ヲ  
毀損セラレタ、堪ラヌカラシテ決闘ヲシタ、決闘ヲシテ相手方ヲ殺シタ、矢  
張り殺人罪デアアル、併ナガラ名譽ヲ毀損セラレタ場合ニハ昔カラ決闘ヲシテ  
名譽ヲ維持スルコトヲ圖ルト云フ習慣ガ歐羅巴ニアアル、其慣例ニ基イテヤッ  
タ、ソレヲヤラヌケレバ名譽ヲ毀損セラレタ者ハ即チ其毀損セラレタヤウナ  
事實ガアルト、斯ウ認メラレル虞ガアル、ソレデモウ已ムヲ得ズ決闘ヲシテ  
人ヲ殺シタ、ソレデモ殺人罪ダト云フテ之ヲ首斬ラレテ仕舞フ、首ヲ絞メラ  
レテ仕舞フ、ソレデハドウモ餘リニ不人情デアアル、其他サウ云フヤウナ事件  
ヲ擧ゲタラ幾ラモアリマス、其時ニ陪審員ガ事實ノ認定ト云フテ然ルベキ事  
實ノ認定方ヲヤツテ、サウ云フコトハナイト云フカ、或ハ其時ニハ精神ガ錯  
亂シテ居ッタト云フカ、何トカ言ッテ被告ニ有利ナ決定ヲスルト云フコトデ、  
冷カナル法律ノ適用ガ温イ人情ヲ加味セラレタル裁判ニ變ッテ來ル、ソレガ  
今日ノ歐羅巴ニ於ケル陪審ノ制度ノ私ハ殆ド唯一ノ利益ダト思フ、ソレヲ  
除イテハ何ニモ利益ガアリヤセスト思フ、然ルニ日本ニ於テハ前申シ上ゲタ  
通り刑法ガ改正セラレテ、從來ハ刑期ノ範圍ガ極メテ狭カッタモノガ、今日  
ハ非常ニ廣クナツテ、人ヲ殺シテモ死刑カラ三年以上ノ懲役ト云フ位ニ、非常  
ニ刑期ガ廣クナツタ、其上ニマダ酌量減輕ヲスレバ、モットモット一年カ一年半  
デ濟ム位ニマデナリ得ル程、新刑法ト云フモノハ裁判官ニ量定ノ自由ヲ與ヘ  
タノデアリマス、其範圍内ニ於テ判斷スレバ、唯今申上ゲタヤウナ人情ニ違  
フヤウナ裁判ヲセスデモ濟ムノデアリマス、ソコマデ刑法ノ改正ニ依テ餘程  
宜クナツタ、其上ニ起訴猶豫、執行猶豫ト云フコトヲヤツテ、此事件ハ罪デア  
ラシイケレドモ、ドウモ動機ガ如何ニモ斟酌スベキ動機デアルト云フ時ニハ  
起訴ヲセナイ、檢事ガ起訴ヲセナイト云フコトガ出來ル、起訴ガナケレバ裁  
判ヲスルト云フコトハ出來マセヌカラ、罪人ニスルコトハ出來ヌ、又一旦起  
訴セラレタ事件デモ、如何ニモ事情動機ガ酌量スベキデアルト思ヒマスト云  
フト、刑ノ量定ヲ低クシタ以上ニ、更ニ二年ナリ三年ノ間、刑ノ執行ノ猶豫  
ヲシテ、其間再ビ罪ヲ犯サヌケレバ、罪ハ問ハナイト云フコトニスルコトガ  
出來ル位ニマデナツタノデアリマス、ソレデアリマスカラ、前ニ申上ゲタ人情  
忍ビナイト云フヤウナ裁判ヲシナケレバナラヌヤウナコトハ、今日ノ我が現  
制ノ上ニ於テハナイノデアアル、陪審制度ニ殘ッテ居ル殆ド唯一ノ利益デア  
ル所

ノ、人情温キ裁判ヲスルト云フ點モ、今日ノ日本ノ制度ニ於テハ、陪審ヲ要セ  
ズシテ十分行ハレル所ニマデ相成ッテ居ルノデアリマス、此處マデ來ッテ居ル  
時ニ、憲法ニ違反シテマデ陪審制度ヲ設ケル、而カモ弊害ノ伴ッテ居ル陪審制  
度ヲ設ケルト云フ必要ハ、私共ハ全然之ヲ認メルコトハ出來ヌノデアリマス、  
第六ハ陪審制度ヲ認メルト云フト、裁判ガ滯滞スル原因ニナルト考ヘマス、  
此點ニ付テモ陪審制度ナルモノハ決シテ認ムベキモノデハナイト思ヒマス、  
昨今裁判事件ガ遅レテ困ルト云フコトハ、到ル處ニ之ヲ聞クノデアリマス、  
民事ノ事件ニ於テモアル、行政訴訟ニ於テモアル、刑事ノ事件ニ於テモアル、  
事件ニ付テ争ヒガアツテ、國家ノ判斷ヲ求メテ居ル場合ニ、速ニ之ヲ決定シテ  
ヤラズシテ、何時デモ之ヲ未了ノ間ニ置クト云フ事柄ハ、是ハ實ニ人民ノ非常  
ナ迷惑デアリマス、是ハ刑事ニ限ラズ、民事ニ限ラズ、行政事件ニ限ラズ、裁判  
事件ノ遅レルト云フ事柄ハ、誠ニ是ハ困ッタ事柄デアリマス、ソレデアリマス  
カラ裁判事件ガ滯滞シナイヤウニ努メルト云フ事柄ハ、政府トシテハ餘程注  
意ナサラナケレバナラヌノデアリマス、殊ニ刑事事件ガ滯滞スルト云フコト  
ハ、是ハ最モ國民ニ迷惑ヲ與ヘルモノデアアル、刑事ノ事件ガ滯滞スル、縦令監  
獄ニ繋ガレテ居ラナイデモ、アノ人ハ被告人ニナツテ居ルト云フ状態デ、長イ  
間事件ガ遅レルト云フコトハ、ソレハ其人ニ取ッテ非常ナ迷惑デアアルノデア  
リマス、況ヤソレガ監獄ニ繋ガレテ居ッテ刑事ノ事件ガ滯滞シタ日ニハ、長イ間  
獄中ニ呻吟シテ居ラナケレバナラヌ、是位人ノ權利ヲ損スルコトハナイノデ  
アリマス、未決拘留ノ期間ハ或場合ニハ裁判ノ刑期ノ中ニ算入ヲスルコトガ  
出來マス、併ナガラ是ハ裁判官ガ算入スルコト云フ時ニハ算入スルケレドモ、  
判決ニ於テサウシナケレバ算入シナイノデアリマス、未決ノ間ダケ長イ間牢  
屋ノ中ニ抛リ込マレタト云フ、其損害ヲ受ケナケレバナラヌ、裁判ガ遅レル  
ト云フコトハ、ソレ位人民ノ權利ト云フモノハ害セラレルモノデアリマス、  
所ガ陪審制度ヲ實施スルトドウナリマス、今マデナカッタ陪審制度ト云フモ  
ノヲ此處ニ挾ムガ爲ニ、非常ニ裁判ガ遅レルノデアアル、先ヅ第一之ヲ御覽ニ  
ナルト、是マデハ檢事ガ起訴スル、公判ガ開ケル、事件ニ依テハ豫審ニ付シ  
テカラ公判ニ掛ケル、然ルニ此度ハ起訴ガアツテモ直グ公判ニ掛ケルコトハ  
出來ヌ、公判準備ト云フモノヲヤラナケレバナラヌ、公判準備ト云フモノヲ  
ヤツテ公判ノ下拵ヘヤル、愈々陪審ニ掛ケル前ニ、陪審官ヲシテ餘リ錯雜サ  
セナイヤウニ、幾ラカ準備シテ置クト云フコトデアアルカモ知レマセヌ、場合

ニ依テハ此點ニ於テ陪審員ニ破ラレヌヤウニ、チャント支度シテ置クト云フ意味モ合マレテ居ルカモ知レマセヌ、何デアルカ知レマセヌガ、公判準備ト云フモノガアル、ソレヲヤル爲ニ時ガ長クナル、ソレカラ陪審員ニ事件ヲ聞カセテ、陪審員ノ評議ヲサセル、其評議ヲシニ出タ其陪審員ニ付テ、質問應答ヲシナケレバナラス、事件ガ非常ニ長引クノデアアル、ソレダケデ止マレバ宜シイ、裁判所ガ陪審員ノ答申ヲ不當ト見タ時ニハ、他ノ陪審員ニ之ヲ移スコトヲ得ル、裁判官ノ氣ニ入ラナケレバ外ノ陪審員ニ掛ケル、又復長イ期間ヲ要スル、ソレデ濟メバ宜イガ、復タ不當ノ答申ヲシタカラ又外へ移ル、是ガ五度モ六度モ移ッタラ大變デアリマス、三年モ四年モ事件ハ終了シナイト云フコトニナル、結審ヲ告ゲナイト云フコトニナル、サウ云フヤウナ裁判事件ヲ澁滞セシムルト云フコトハ、今日何ノ必要ガアルノデアリマスカ、ソレヲヤッテ何カ裁判ノ改善デモアレバ宜イ、何等改善モ何モアリハシナイ、然ルニ裁判事件ヲ左様ニ澁滞セシメル、私ハ裁判事件ヲ澁滞セシメルト申上ゲマシタガ、陪審ニ付セラレタ事件ダケガ遅レルヂヤアリマセヌ、陪審ニ付スルガ爲ニ裁判ノ事件ガ遅レルト云フト、其遅レルガ爲ニ陪審ニ付セナイ事件マデ皆遅レルノデアリマス、今後ハ總テノ刑事事件ガ非常ニ皆長イ時ヲ懸ケルヤウニナル、ソレダケ國民ハ不安定ノ間ニ被告人ハ置カレナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、此點カラ考ヘマシテモ、陪審制度ヲ實施スルト云フコトガ、裁判ノ上ノ改善ニナラズシテ、却テ改惡ニナルト私ハ思フノデアリマスカラ、之ニ反對セザルヲ得ヌノデアリマス、第七ニハ陪審ハ良民ノ迷惑ニナル、刑事ノ被告人ニハ都合ガ宜イカ知ラヌガ、一般良民ハ陪審ノ爲ニ迷惑ニ迷惑ヲスル、ソレ故ニ陪審制度ナルモノハ制定セナイ方ガ宜イト云フノガ、又私ガ此處ニ反對スル一ツノ理由デアリマス、陪審ニ付スベキ刑事ノ事件ガ起リマスと云フト、二十四人ノ陪審員ガ裁判所へ呼出サレルノデアリマス、籤引ヲシテ當ッタ二十四人ノ者ガ裁判所へ呼出サレル、其二十四人ノ中カラ又十二人、色々振落シテ陪審員ヲ定メル、斯ウ云フコトニナル、ソコデ世ノ中ニハ色々ノ職業ヲ勤メテ居ル者ガアリマス、大工モ、左官モ、呉服屋モ、酒屋モ、色々ナ者ガ色々ノ職務ヲヤッテ居ル者ガアル、誰ガ當ルカ分リマセヌ、二十四人籤ガ當ッタラ裁判所ニ呼出サレル、其中ニハ一日數十圓ト云フヤウナ儲ヲスル業務ニ當ッテ居ル人ガアルカモ知レヌ、其人モサウ云フヤウナ場合ニハ裁判所へ呼出サレナケレバナラヌ、自分ノ儲ケハ犠牲ニシテ、サ

ウシテ裁判所へ出テ行カナケレバナラヌ、サウシテ愈々十二人ノ陪審員ガ決マルト云フト、今度ハドウナリマスカ、今度ハ前ニモチヨット申上ゲマシタガ、裁判所ノ言フ場所カラ離レルコトガ出来ナイ、此處ニ斯ウシテ居ラナケレバナラヌト言ハレタ通りニシナケレバナラヌ、自分ノ自由ヲ全然束縛セラレルノデアリマス、サウシテ場所ヲ離レルコトガ出来ヌバカリデハナイ、其事件ガ一日ニ濟ンデ仕舞ヘバ宜ウゴザイマスケレドモ、二日モ三日モ事件ガ長引クト云フト、其間ハ裁判所ノ定メタ宿屋……何レ裁判所ノ前ニアル宿屋ノヤウナ所デアリマセウ、或ハソレデナケレバ裁判所ノ構内ニ陪審員ノ下宿所ト云フモノヲ造ラレルダラウト思フ、ソコノ中ニ閉籠メラレテ仕舞ウデ、事件ノ濟ムマデハ出サナイ、番人ガ附イテ居ッテ外へ出サナイ、凡テ囚人ト同ジヤウナ扱ヲ受ケル、サウ云フ苦痛ヲ陪審員ニナッタ者ハ感ゼナケレバナラヌ、私ガ質問シタ時ニ司法大臣ハ、法律ヲ制定シテ國民ノ義務ニナッタ以上ハ、如何ニ苦痛ガアツテモ仕舞ガ無い、法律ガ租稅ヲ納メヨト云ヘバ、租稅ヲ納メタクナクテモ租稅ヲ納メナクテハナラヌ、法律ガ兵隊ニ出ヨト命ズレバ、兵役ニ就クコトハ好マヌ人間デモ兵役ニ就カナケレバナラヌ、ソレト同ジコトデ、法律ガ陪審制度ヲ定メレバ、國民ガ陪審員ニナッテ身體ノ拘束ヲ受ケル、已ムヲ得ナイ、斯ウ云フ答辯ヲセラレタ、ソレハ其通りデアリマス、法律ガサウ云フ制度ヲ拵ヘレバ、其制度ノ結果、即チ法律ノ結果、國民ハサウ云フ義務ヲ負フノデアリマスカ、是ハ已ムヲ得ナイノデアアル、今ノ制度ハ無いノデアアル、是カラサウ云フ制度ヲ作ルカ作ラヌカト云フトデアリマス、出來テ仕舞ッテカラナラバ、是ハ別問題デアリマス、私共ハ今ソレヲヤルカヤラヌカト云フ問題ヲ議シテ居ル、ヤッテ仕舞ッテカラ後、ソレハ法律ノ命ズル所デアルカラ宜イトカイケヌトカ、ソナコトヲ論ズルノデアアリマセヌ、出來タナラバ法律ガ命ズルカラ已ムヲ得マセヌ、今將ニソレヲ拵ヘルカ拵ヘヌカ、我々ハ拵ヘルニハ及バヌ、拵ヘサヘシナケレバサウ云フ苦痛ハ無い、拵ヘレバ今申上ゲタヤウナ苦痛ヲセナケレバナラヌ、ソレモ如何ニ苦痛ガアツテモ、誠ニ結構ナコトナラバ幾ラカ國民ニ義務ヲ負ハシテモ制度ヲ拵ヘナケレバナラヌノデアリマスガ、何回モ繰返シテ申上ゲテ居ル通り、弊害百出ノ此陪審制度ヲ作ル爲ニ、人民ニ唯今申上ゲルヤウナ迷惑ヲ受ケサセルト云フノハ何ト云フトデアリマスカ、誠ニ謂レ無イコトデアルト言ハナケレバナラヌト思ヒマス、併ナガラ私ガ陪審制度ハ良民ノ迷惑ニナルト申上ゲル

ノハ、陪審員ニ指定セラレタ者ガ、裁判所ニ呼出サレテ如何ニモ煩雜ナル取扱ヲ受ケルト云フ、其事柄ノミヲ指スノデアリマセヌ、寧ロ私ハソレダケナラバ國民ノ迷惑ハ割合ニ少イ、小サイト言ハナケレバナラヌト思ウテ居ルノデアリマス、私ガ陪審制度ハ國民ノ迷惑ニナルト云フノハサウ云フ點デナクシテ、寧ロ陪審制度ヲ設ケルト云フト、犯罪者ガ法律ノ權威ヲ蔑視スルト云フ虞ガアル、其結果國民ガ非常ニ迷惑ヲ受ケルト云フ點ニ於テアルノデアリマス、陪審員ナルモノハ前ニ申上ゲタ通り、或ハ感情ニ動カサレ、或ハ情實ニ拘束セラレ、或ハ又被告人ニ仕返シヲセラレテハ恐ロシト云フテ心ニモナイコトヲヤルト云フヤウニ、復讐ヲ恐レルト云フヤウナコトガアツテ、自然ニ被告ニ有利ナ決定ヲ與ヘルノ傾ノアルモノデアリマス、即チ強盜殺人トカ、強姦殺人トカ、或ハ放火犯トカ云フヤウナ、極惡非道ノ者ハ……

〔副議長侯爵黒田長成君議長席ニ著ク〕

陪審制度ノ爲ニ重イ刑ヲ……極刑ヲ免レル傾向ガアリマスカラ、放火ヲシテモ人殺シヲシテモ、是カラハ陪審制度ガ出來タカラ、死刑ナドニハ處セラレヤセナイト云フ考ガアルト云フト、自ラ彼等ハ法律ノ權威ヲ蔑視スルヤウニナルノデアリマス、暴漢惡徒ガ法律ノ權威ヲ蔑視シタ時ニ、良民ハ如何相成ルノデアリマスカ、我々國民ノ生命身體財產ハドウナルノデアリマスカ、ドウシテ我々ノ身體財產ノ安全ヲ保障スルコトガ出來ルノデアリマセウカ、私ガ此案ニ賛成セラレル諸君ニ向ツテ、切ニ御考ヲ願ヒタイノハ、外ノ點モ固ヨリデアリマスガ、此點ハ最モ切ニ御考ヲ願ヒタイノデアリマス、千考萬慮ヲナシテ戴キタイノデアリマス、或ハ放火犯罪者デモ、殺人犯罪者デモ、誤ッテ捕マヘラレルト云フト、其人ノミヂヤナイ、國民全體ガ誤ッテ人殺シト見ラレテ、首デモ絞メラレレチャ大變ダト云フ考ヲ起ス、陪審ガアルト云フト、サウ云フコトガナイト云フ考ヲ、若シ御持チニナル御方ガアルナラバ、ソレナラ前ニ申上ゲタ通り、今ノ裁判ノ認定デ左様ナ事實ガアリマシタカト政府ヘ尋ネルト云フト、政府デハ、左様ナコトハ無イト、斯ウ言ツテ居ラレル、左様ナコトガ無イト、斯ウ言ツテ政府ガ言ハレルノデ見レバ、其保障ニハ一ツモナラス、而シテ保障ニナルノハ、放火ヲヤッタリ、殺人ヲヤッタリシタ者ガ、輕ク事實ヲ認定シテ貰フト云フ保障ニノミナルノデアリマス、サウナルト云フト、左様ナ者ガ刑法ノ權威ヲ侮ッテ來ル、法律ノ權威ヲ侮ッテ來タ時ニハ良民ハ堪マセヌ、法律ノ權威ガ十分發揮シテ居ルカラ、我々國民ハ安心シテ生命

身體自由財產ノ保護ヲ受ケルトコトガ出來ルノデアリマスガ、茲ニ極惡無道ノ徒ガアツテ、法律ノ權威ヲ蔑視シテ掛カル者ガ出來テ來ルト云フコトニナリマシタラバ、是ハ實ニ國民ハ堪タタモノデハナイノデアリマス、私ガ陪審制度ガ國民ノ迷惑ニナルト云フノハ、此點ニ就テ最モ重キヲ置クノデアリマス、固ヨリ極惡無道ノ被告人ト雖モ人間デアリマス、其人ノ權利モ尊重シテヤラナケレバナラス、併ナガラ其人ノ權利ヲ尊重シテヤルノニハ自ラ道ガアル、何モ弊害ノ多イ陪審制度ヲ認メテマデ、サウ云フ被告人ノ權利ヲ擁護シテヤルト云フ必要ハ無イ、其他ニ幾ラモ方法ガアル、斯ウ私ハ考ヘルノデアリマス、第八ハ、唯今提案セラレテ居ル此陪審法案ハ、貧富ノ差別待遇ヲ爲スモノデアリマス、刑事事件ニ對シテ富ンダ者ニ便宜ヲ與ヘテ、貧シイ者ニ不便ヲ與ヘル法案デアアル、如何ナル事柄ニ於テモ國民ノ間ニ差別待遇ヲ爲スコトハ宜シクナイノデアリマスガ、刑事事件ニ付テ差別的待遇ヲ爲スト云フ事柄ハ是ハ最モ宜シクナイ事柄デアリマス、而シテ最モ國民ノ惡感情ヲ買フモノデアルト思フノデアリマス、此法案ニ依テ見マスト云フト、死刑ニ處セラレル者、無期懲役ニ處セラレルヤウナ者ニモ、黙ッテ居ッテ陪審ヲ付ケルノデアリマス、其他ノ者ハ請求アル時ニ陪審ニ付スル、被告人ガ陪審ニ付シテ貰ヒタイト云ツテ請求シタ時ニ陪審ニ付スルト云フコトニナツテ居ル、其請求ニ依テ陪審ニ付シタ時ニハ刑ノ言渡ノアツタ時ニ、被告人ハ陪審ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ賠償シナケレバナラスコトニナル、負擔シナケレバナラスコトニナツテ居リマス、前ニ申上ゲル通り陪審ハ被告人ニ、ドツチカト云フト有利ノ決定ヲ與ヘル傾向ガアルノデアリマス、ソレデアリマスカラドウシテモ被告人ハ陪審ヲ喜ブモノト見ナケレバナラス、ソレデアリマスカラ先ヅ被告人ノ請求アツタ時ニ付スルコトガ出來ルト云ヘバ、多クハ被告人ハ請求シテ陪審ニ付シテ貰ヒタイノデアリマセウ、併シ金持ナラバ費用ヲ負擔スル力ガアルカラ、容易ニ之ヲ請求シマスケレドモ、貧乏人ハ費用ヲ負擔スル力ガナイカラ、陪審ニ付シテ貰ヒタイケレドモ、能ウ之ヲ請求スルコトガ出來ヌ、之ヲ請求シテ他日費用ヲ負擔セシメラレタ時ニハソレヲ拂フコトガ出來ヌ、ソレデハイケヌカラ、ドウモ陪審ヲ求メタイケレドモ、陪審ヲ請求シナイト云フ者ガ世ノ中ニ出來テ來ルト思ハレル、サウナリマスト、刑事事件ニ付テ貧富ノ間ニ於テ差別ノ取扱ヲスルコトニナル、不公平是ヨリ甚ダシキモノハナイト思ヒマス、第百七條ニ依テ見マスト、此事ノ規定ガアルノデアリマスガ、

過日私ガ政府ニ質問イタシマシタ時ニ、司法大臣ガ答辯シテ言ハレルニハ、第七百七條ニハ「陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス」トハアルケレドモ、ドウシテ之ヲ取ルカト云フコトハ規定シテナイ、所謂強徴ノ方法ガ拵ヘテナイ、ソレダカラ負擔セイト云ツテモ本人ガ厭ヤダト言ツテ納メヌケレバ其儘デアルカラ、貧富ノ間ニ差別待遇ハナイト言ハレタ、此御答辯ヲ伺ツタ時ニハ私ハ實ニ意外ノ感ニ打タレタノデアリマス、法律ガ費用ヲ負擔シナケレバナラヌト、斯ウ言ツテ居ル、ソレダノニ納メヌデ居レバ、ソレデ濟ムト云フ法律ガ作ツテアルト云フコトヲ司法大臣ガ議會ニ於テ公言セラレル、ソレナラバ何ノ必要ガアツテ、コンナ百七條ナドヲ設ケラレタノデアアルカ、百七條ニ依テ納メタ者ハソレデ取ラレテ仕舞フ、黙ツテ納メヌ者ハ取ラレヌデ濟ム、馬鹿正直ナ者ダケガ此費用ヲ取ラレ、不正直ナ者ハ取ラレヌト云フコトデアリマス、法律ガ規定ヲ拵ヘテ不正直ナ者ハ此負擔ヲ免レルコトガ出來ルト云フ法規ヲ作ル位、不都合ナコトハナイデハアリマセヌカ、ソレガアツテモ是ハ司法大臣ハ缺點デハナイト答辯ナサル位デアラウト思フノニ、麗々ト茲デ是ハ納メサヘシナケレバ取ルコトガ出來ヌカラト云フコトヲ仰シヤル、私ハ是ハドウ云フコトデアアルカ殆ド理解ガ出來ヌガ、事實ハサウデアリマス、サウデアアルケレドモ、之ヲ見タ時ニハ負擔ヲシロト書イテアルカラ、正直ナ貧乏人ト云フ者ハ此法條ニ恐レテ請求シナイノデアリマス、此法條アル爲ニ法律ガ不正直ヲ教ヘルカ、然ラザレバ貧富ノ間ニ差別待遇ヲ設ケルカ、二ツニ一ツデアリマス、刑事事件ニ付テ被告人ノ取扱ヲ二様ニスルト云フ事柄位不公平ナコトハナイ、曾テ刑事事件ニ付テハ控訴ヲシヤウト思ヘバ、豫納金ヲ納メナケレバナラヌト云フ法律ガアツタ、治罪法ニ於テサウ云フヤウニ定メテアツタ、二十圓ノ豫納金ヲセヌト、此裁判ハ間違テ居ルト思フモ、控訴スルコトハ出來ナカッタノデアリマス、ソレハ金持ニハ自由ニ出來ルケレドモ、貧乏人ニハミスミス間違ト思ヒナガラ、控訴ガ出來ヌト云フ規定デアツタ、是ハ甚ダ不都合ナ規定デアルト云フノデ、到頭議會ガヤカマシク言ツタ爲ニ、豫納金ト云フモノハ廢スルコトニナツタノデアリマス、刑事事件ニ付テ貧富ノ間ニ取扱ヲ異ニシテイケヌト云フコトハ其當時大イニ論ゼラレタ、ソレガ此度再ビ茲ニ貧富ニ依テ取扱ヲ異ニスルヤウナ方法ヲ設ケテ、陪審制度ヲ實行セラレル、是ハ場合ニ依テハ事ハ小サイカモ知レス、小サイカモ知レヌガ、私ハ此理由ニ依テモ反對セザルヲ得

スノデアリマス、第九ハ陪審制度ヲ實行スルコトハ今度ノ政府ノ財政整理ノ方針ト矛盾スルト思フノデアリマス、過日政府ニ向ツテ如何程費用ガ掛リマスカト質問ヲ致シマシタ所ガ、政府ガ答辯シテ言ハレルニハ、準備ノ爲ニ八百萬圓ハ掛ル、然ル後經常費トシテ年々四百萬圓ヲ要スルト言ハレタ、是ハ少カラザル、大イナル金額デアリマス、斯様ナ大イナル金額ヲ今日ノ如キ財政ノ逼迫シタ場合ニ、支出スルヤウナ計算ヲ定メルト云フ事柄ハ、今日ノ政府ノ方針トハ非常ナ矛盾デアルト言ハナケレバナラヌト思フ、今日ハ甚ダ本員ハ議院ニ列シテ居ラレル方ノ前ニ申スコトハ遺憾千萬デアリマスケレドモ……

〔議長公爵徳川家達君議長席ニ復ス〕

前内閣竝ニ前々内閣ノ放漫ナル財政政策ノ結果、我帝國ノ財政ハ行詰ツテ仕舞ツタノデアリマス、財源ガ足りナクシテ計畫セラレタル仕事ヲスルコトガ出來ナイ、此儘デハ豫算ノ執行ガ不能ニナツタ爲ニ、行政整理財政整理ヲシテ歳出ヲ減ジテ、歳入トノ均衡ヲ得ル所マデ經費ヲ節減シナケレバ、何トモイケヌト云フ窮境ニ相成ツテ居タノデアリマス、此點ハ大藏大臣ガ豫算ノ提出ノ場合ニ、政府目ヲ説明ヲシテ居ラレマスカラ、能ク御承知ノ通りノコトデアリマス、政府ハ此度ノ計畫デ是デ財政ハ整理サレタト言ツテ居ラレル、私共ノ見ル所ニ依レバマダマダ整理ハ付イテ居ナイノデアアル、御承知ノ通り何時モ政府ガ豫算ヲ出サレルト、將來ノ歳入歳出概計表ト云フモノヲ議員ニ參考トシテ廻ハサレル、即チ此計畫ハ斯ウ立ッテ行ツテモ、將來ニ於テハ斯ウ云フ勘定ニナルカラ、歳入歳出ハ不足ヲスルト云フコトハナイ、財源ハ不足ハナイ、突合ツテ居ルカラト云フコトヲ議員ノ參考ニ供シテ、安心シテ豫算ヲ協賛スルヤウニスルガ爲ニ、將來ノ概計表ト云フモノヲ示サレルノデアリマス、此度モ政府ハ大正十二年度以降ノ概計表ナルモノヲ示シテ居ラレル、之ヲ御覽ニナルト云フト、大正十二年度、十三年度、十四年度、十五年度此四箇年ハ財源ガ足りナイデ、剩餘金ヲ以テ漸ク突合セテ居ル、二億圓程剩餘金ガアルノデ、ソレデ漸ク突合セテアル、是ガナカッタナラバ、今ノ計畫ナルモノハ財源ガ突合ハナイ計畫デアルト言ハナケレバナラヌ、唯剩餘金ガアルカラ、之ヲ以テ埋メ合セルト云フコトデ、二億圓程ノ剩餘金ヲ數箇年ニ割ツテ、ソレヘ振り當テテ、漸ク表ノ上デダケ歳入歳出ノ突合セラシテ居ラレルノデアリマス、所ガ剩餘金ノ一部ハ臨時軍事費トシテ、西比利亞ノ出征軍ノ爲ニ使ハレ

モ……

テ居ルノデアリマス、御承知ノ通り臨時軍事費ハ公債募集ト云フコトニ當テ  
ルト云フ大體ノ計畫ニナツテ居ル、所ガ公債政策ヲ誤ツテ、多額ノ公債ヲ募集  
セラレタルノミナラズ、期限ノ短イ公債ヲ募集シテ年々償還期限ガ到來ス  
ルガ爲ニ、今日ハ政府ハ公債募集ニハ餘程困難ヲ感ジテ居ラル、ソレガ爲  
ニ容易ニ公債ガ募ラレナイ、臨時軍事費ノ公債ガ今思フヤウニ募ラレテ居ナイ、  
公債ハ募ラレテ居ナイカラ金ガナイ、然ルニ戰ヲシタカラ金ガ要ルノデアアル、  
其金ガ無イカラ募ラナケレバナラス、已ムヲ得ズ其剩餘金ヲ持ツテ來テ、軍事  
費ニ充テ、振替ヘテ支辨シテ居ラル、私共ハ疾カラ西比利亞カラ兵ヲ撤ス  
ル方ガ宜イト思ヒマシタガ、其事ハ是ハ別トシテ、既ニ西比利亞カラ撤兵セ  
ラレタ以上ハ、今日尙ホ臨時軍事費ノ特別會計ト云フモノヲ存シテ置ク必  
要ハドコニモアリハセヌ、一日モ速ニ是ハ締切ツテ決算ヲスルノガ當然デア  
ルト思フ、ソレガ出來ナイノデアリマス、何故出來ナイカト云フト、公債ノ  
募集ヲシテ之ニ入レテ、サウシテ剩餘金カラ振替ヘテアル其金ヲココカラ本  
ヘ戻ス、戻シテナイト茲ニ概計表ニ剩餘金ガアルト云ツテ居ツテモ、斯ウ云  
フ剩餘金ガ出テ來ナイカラ、ソコデ公債ノ募集ノ出來ルマデハ戰ガ濟ンデ  
居ツテモ、今日ハ臨時軍事費ノ締切リガ出來ナイト云フ位マデノ境遇ニ相成ッ  
テ居ル、之ヲ言ヒ換ヘテ申上ゲマスルト云フト、今ノ財政計畫ハ財源ガ足り  
ナイデ、借金ヲシテ漸ク辻褄ヲ合セテ居ルト云ツテ宜イ、直接ニハ剩餘金ダ  
ト云ツテ居ルケレドモ、其剩餘ナルモノハ今ハナイ、使ツテ仕舞ツテ無イ、臨時  
軍事費ノ方デ公債ヲ募集シテカラ、ソレカラ初メテ殘ツテ來ル剩餘金デア  
カラ、取モ直サズ今日ノ剩餘金ト稱スルモノハ、公債募集金ノ一部ヲ當テニシ  
テ居ルノデアリマス、即チ今日ノ財政ハ財源ガ足りナイガ爲ニ、借金ヲ當テ  
ニシテ居ルト云フマデニ窮シテ居ル財源デアアル、ソレノミデハナイ、今朝當議  
場ヲ通過イタシマシタ恩給法ノ改正案ニ依テ、政府ハ新ニ三千萬圓ノ年々支  
出ヲセナケレバナラス、ドコニソノ財源ガアリマスカ、初メ政府ガ衆議院ノ  
修正ニ賛成セラレテ六年間ニ割ツテ改正案ヲ實施スルト言ハレタ時デスラモ、  
財源ハナイノデアアル、唯將來何レ自然增收ガ生ズルダラウト云ツテ、マダ手  
許ニモナイ先ノ金ヲ當ニシテ、アレガ出來タラバ、……六年位經ツタラ出來ル  
ダラウト云フ、空ノモノヲ當ニシテ、衆議院ニ於テハ、六年間ニ之ヲ實施ス  
ルト言ハレテ居ラレル、所ガ昨日政府ハ此席上ニ於テ、恩給法ハ六年ニ割ツテ  
實施セズシテ、今年ノ十月カラ實施スル、即チ本年ハ四分ノ一増加シテ、來

年カラ全額ヲ増加スルト言ハレタ、六年ニ割付ケタ所デ財源ガナイ、是ハ年  
々三千萬圓ヅツ金ガ要ル、其財源ハドコニモアリマセヌノデアアル、サウ云  
フ状態ニ今我ガ財政ノ状態ハ相成ツテ居ルノデアリマス、産業組合ノ中央金  
庫法案ト云フモノハ、マダ本院ニ繼續シテ居ル、之ニ對シテハ私ハ固ヨリ賛  
成デアリマス、併ナガラ其中ノ資本金ノ千五百萬圓ト云フモノハ、政府ガ出  
資シナケレバナラス、其中ノ五百萬圓ダケハ追加豫算ニ於テ既ニ提出サレテ  
居ラレマスケレドモ、アト兩年ニ亙ツテ五百萬圓ヅツ出サナケレバナラス、是  
モ何等財源ハナイ、唯何トカ出來ヤウト云フノデ、見當テナイ事柄デア  
ル、モット甚ダシキハ臨時國庫證券特別會計法ト云フモノニ大穴ガ開イテ居  
ルノデアリマシテ、此事ニ付テハ何レ豫算ガ本會議ニ上リマシタ時ニ、豫算  
委員長カラ御話ニナルト思ヒマスカラ、詳シク私ハ申上ゲマセヌガ、臨時國  
庫證券特別會計法ト云フモノニ、今マデニ取ルベキ利子ガ取レナイデ、未收  
入ニナツテ居ルモノガ九千四百萬圓アルノデアリマス、九千四百萬圓穴ガ開  
イテ居ルノデアリマス、來年度ノ特別會計ニ於テハ、三千萬圓程一方ニ歳入  
ガアル、ソレデソレヲ見當テニシテ、一方ニハ又三千萬圓程使フト云フ豫算  
ヲ提出セシメテ居ル、併シ此三千萬圓モ取レル見込ハナイノデアアル、是ハ何  
レ衆議院カラ豫算外國庫ノ負擔ヲ爲スヲ要スルノ件ト云フ件、例ノ支那借款  
ニ關係シタ問題ガ廻ツテ來ル管ト存ジマスカラ、其時ニ私ハ少シク論ジテ見タ  
イト思ヒマスガ、兎ニ角サウ云フモノニ關聯シテ居リマスカラ、帳面ノ上デ  
ハ取レルト出テ居ルノデアアルケレドモ、是ハ取レハセヌ、又大正十二年度ニ、  
三千萬圓ノ穴ガ開キ、今九千四百萬圓ノ穴ガ開イテ居ル所ニ更ニ又三千萬圓  
ノ穴ガ開クト云フノデ、臨時國庫證券特別會計法ハ、大正十二年度ニ於テ約  
一億二千萬圓ノ穴ヲ持ツコトニナルノデアリマス、特別會計ダカラ宜シイト  
言ツテ居ラレマセヌ、是ガ穴ガ明イタラドウスルノデアアルカ、結局ハ是ハ一  
般會計カラ何トカシナケレバナラスダラウト思ヒマス、即チ矢張り一般會計  
ノ御厄介ニナルモノデアアル、斯ウ云フヤウニ財政ガ誠ニ窮境ニ居ルヤウナ今  
日ニ於テ、而シテ政府モ亦整理ヲシナケレバ行詰ルナドト云ツテ居ラル、今  
日ノ場合ニ於テ、準備費ニ八百萬圓ヲ要シ、年々ノ經常費ニ四百萬圓ヲ要スル  
ト云フヤウナ陪審制度ヲ實行スルト云フ事柄ハ、何ト云フ御考カラ出テ居ル  
ノデアリマスカ、勿論陪審制度ナルモノガ、刻下一日モ棄テ置クコトノ出來  
ヌヤウナ喫緊ノ急務デアリマスナラバ、ソレナラバ如何ニ金ガ掛ツテモ之ヲ

實行セシケレバナリマセヌ、然ルニ日本ニ於テ、歐羅巴風ノ治罪法ヲ行ッテカラ、續イテ刑事訴訟法ヲ行ッテカラ、今日マデ四十有餘年ニナリマス、又憲法ヲ施行セラレテ三十有餘年ニナルノデアリマス、其間陪審制度ナンカナクシテ何等差支ナカッタ、其間ニ陪審ガナクシテ悪カッタコトガアッタカト云フテ政府ニ尋ネテモ、何等是ガアルト云フ答辯ガ出來ヌ程、何等差支ナカッタノデアアル、ソレ位ナモノガ今日此窮迫シタル財政ノ下ニ、俄ニ之ヲ實行セナケレバナラヌト云フ必要ガドコカラ生ジテ來ルノデアリマス、殊ニ況ヤ此制度ニハ私是マデ何遍モ繰返シテ申上ゲタ通り、弊害百出、歐羅巴諸國ガ實驗シテ困ッテ居ル制度デアリマス、國情ガ違ッタ歐羅巴ニ適シテモ、尙ホ日本ニ適セヌ位デアアル、況ヤ歐羅巴人ニデモ適セヌ位ナ其惡イ制度ハ、歐羅巴人ヨリモ一層此制度ニハ適セナイ日本人ニ向ッテ之ヲ行ハムトスルニ至ッテハ、何ノ譯合デアアルカ殆ド私ハ之ヲ諒解スルコトガ出來ヌノデアリマス、最後ニ申上ゲタイノハ、陪審制度ナルモノヲ實行スレバ、司法權ノ改善ニナルト思フテ居ル人ガアルナラバ、ソレハ大間違デアアル、決シテ司法權ノ改善ニナルモノデナイト云フコトヲ申上ゲタイ、陪審制度ノ創設ハ、司法權改善ノ核心ニ觸レテ居ナイ、マルデ見當違ヒノモノデアアル、ソレハ當初申上ゲマシタ通り、今日司法權行使ニ於テ、私ハ裁判ハ公平ニ行ハレテ居ルト思ヒマスガ、若シ何處カニ不完全ナル所ガアリ、稍弊害ト見ルベキモノガアルトスルナラバ、ソレハ公判廷デハナイノデ、公判以前ニ於テデアアル、豫審、檢事局、警察署、此處ニ於テ行ハレル事柄ニ於テ、誠ニ遺憾トスベキコトガアルヤウデアリマス、是ハ決シテ陪審制度ニ於テ矯正セラルベキモノデアリマセヌ、之ヲ矯正セムトスルナラバ、人デアリマス、人ノ頭ヲ改メルト云フコトガ出來サヘスレバ、司法權ノ行使ノ改善ハ誠ニ立派ニ出來ルノデアリマス、陪審制度ト何等ノ關係ガナイ、人ノ頭ヲ變ヘズシテ置イテ、而シテ陪審制度ヲ設ケタ所ガ、司法權行使ニ向ッテ何等改善スルモノデモ何デモアリマセヌ、今日ハ私ハ過日モ申上ゲタ通り、世間ニ於テハ司法權ノ一部ニ於テ、政黨ノ何レカニ同情シテ居ル分子ガ伏在シテ居ルト云フ疑ヲ有ッテ居ル者ガアリマス、是ハ事實デナイコトヲ望ミマス、併シ世間ノ一部ニハサウ云フ疑ヲ有ッテ居ル者ガアル、此疑ハ是ハ最モ憂フベキコトデアリマス、英吉利ナドデハ例ヘバ「ロードチャンセラ」デモ「アットニーゼネラル」デモ政黨員ガ出テ行ッテヤッテ居ルノデアリマス、是ハ事情ノ違フ國、歴史ノ違フ國、又

ハ國民ノ思想ノ違フ所デアリマスカラ、英吉利デサウデアアルカラト云ッテ、日本ニ於テ眞似ヲスルト云フコトハ決シテ出來ヌト思ヒマスガ、而カモ英吉利ニ於テ「ロードチャンセラ」デモ「アットニーゼネラル」デモ、皆内閣ト共ニ更迭スルノデアリマス、内閣員デアアルノデアリマス、ソレデアアルカラマダマダ宜シイ、間違ハ決シテアリマセヌ、英吉利ノ裁判所ニハ、英吉利ノ裁判官ハ、自由黨ニ屬シテ居ル「ロードチャンセラ」デモ、保守黨ニ屬シテ居ル「ロードチャンセラ」デモ、或ハドレニ屬スル「アットニーゼネラル」デモ、決シテ自分ノ黨派ノ爲ニ曲ゲルコトヲヤラヌコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、ソレデアリマスカラ弊害ハ一ツモアリマセヌガ、若シアッタラバ直グソレハ政治上ノ問題ニナルノデアアル、内閣ガ直グ轉覆シテ仕舞フノデアリマス、ノミナラズ何等過チガナクテモ、他ノ事件ニ依テ内閣ノ更迭スル時ニハ、矢張り大法官モ檢事總長モ、共ニ一緒ニナッテ退職シテ仕舞フノデアリマス、若シ是ガ内閣トチットモ進退ヲ共ニセヌ所ノ部分ニ於テ、黨派ノ一ツノモノニ對シテ同情スルト云フヤウナコトガ聊カタリトモアリマシタナラバ、私ハ是非非常ナ國ノ深憂デアアルト存ジマス、私ハ無イコトヲ望ミマス、併シ世間ノ一部ニハ之ヲ望ンデ居ル、此點ハ……政府殊ニ司法大臣ニ對シテ、御考ヘニナルベキ點ハサウ云フ方面ニアル、決シテ陪審制度ナドニアルノデハナイ、陪審制度ハ核心ニ觸レテ居ナイ、核心ニ觸レテ居ル部分ニ於テ、モットモット御努メニナルベキ所ガアルト云フコトヲ、切ニ申上ゲテ置キタイノデアリマス、ソレト共ニドウモ私ハ是ダケハ聊カ弊デナイカト思フ、ソレハ一度或人間ガ被告人トナッタナラバ、是ハ罪人ダト云フヤウナ頭デ是ニ對スルト云フヤウナコトガ、ドウモ日本ノ警察署、檢事局デハ固ヨリデアリマス、場合ニ依ッテ裁判所ノ一部デモサウ云フ頭ガアリハセヌカト思フ、無ケレバ結構デアリマス、是ガアッタナラバ大變デアリマス、ソレガアルガ爲ニ一遍捕ヘタ被告人ヲナカナカ逃ガサナイ、モウ罪人ダ、何かシテ居ルニ相違ナイト云フコトデ、是ニ向ッテ壓迫ガ加ハル、而シテ人權蹂躪ヲ生ジテ來ルノデアリマス、被告人ヲ罪人視シテ掛ルト云フコトガ、是ガ憲法ノ精神ニ反スルコトデアリマス、憲法論ヲセラルナラバ、一番是ニ重キヲ置カナケレバナラヌ、臣民ノ身體、自由、財産、皆是ハ憲法ガ完全ヲ保障シテ居ルノデアリマス、ソレヲ被告人ニナッタカラト云フテ罪人視セラル、ト云フコトハ、其憲法ノ保障シテ居ル其保護ヲ裏切ルコトニ相成ルノデアリマス、政府ニシテ若

シ司法權ニ付テモ、何處マデモ立憲的ニ行カヌケレバナラヌト云フ御考ガアルナラバ、陪審制度ナドノコトヲ考ヘズシテ、被告人ハ罪人ナシト云フヤウナ考ヲ、一日モ速ニ總テノ役人ノ頭カラ去ラシメルト云フコトニ、努力ヲナサラナケレバナラヌノデアリマス、努力ナサルベキ方面ガ違ッテ居ルノデアリマス、而シテ新聞等デ見テ、誠ニ私共ガ是デハ困ルト思フコトハ、一遍被告人ニナッダ者ハ色々調ベテモ結局犯罪ガナイト云フコトニナル場合、此犯罪デアラウト思フテモ、ソレデナイト云フコトガ分ル、ソレナラバ速ニ其人ヲ自由ノ國民トシテ其人ノ拘束ヲ解イテ、立派ナ罪ノナイ人デアッタト云フコトヲ明カニセヌケレバナラヌ、所ガ一遍法廷ヘ呼出スト云フト、何ダカ之ヲ無罪デ歸スト云フコトハ職務上ノ過デモアッタカノ如キ考ヲ以テ、一遍捕ヘタナラバ何カ之ヲ處罰センケレバ、罪ノナイモノヲ捕ヘタト云フノハ怪シカラヌト云フヤウナ非難ヲ受ケテハイカヌト云フヤウナコトガアルト見エテ、目的トシタコトガ捕マラナイト、爬羅剔抉シテ、サウシテ誠ニ思ヒモ寄ラヌヤウナ小事件ヲ捕ヘテ、即チ此處ニ犯罪ガアッタ、斯ウ言ッテ處罰スルヤウナコトガアルト云フヤウニ新聞ニ傳ヘテ居ル、アルカドウカ存ジマゼヌ、無ケレバ結構ダガ、是ガアッタ大變デアリマス、ソナコトヲセラレテハ國民ハ一日モ安ンジテ居ルコトハ出來ヌ、斯ウ云フコトノナイヤウニセラレ

民ニ害毒ヲ流シ、而シテ我が司法權ノ改善ニハ何等中心ニ觸レテ居ナイ案デアリマスル、故ニ私ハ諸公ガ能ク御熟慮ヲ下サレテ、他日ニ悔ヲ貽サナイヤウニドウゾ斯様ナ法案ハ可決ニナラザルヤウニナサラムコトヲ切ニ望ム次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 花井卓藏君

〔花井卓藏君演壇ニ登ル〕

○花井卓藏君 陪審法案ニ賛成ノ意見ヲ述ベマス、第一ニハ沿革上ノ理由ヲ述ベタイト思ヒマス、第二ニハ憲法違反ニアラザル所以ヲ論ジタイト思ヒマス、終リニ聊カ卑見ヲ添ヘタイト思ヒマス、先帝ハ明治元年十二月七日或ル人ヲ寬典ニ處スルノ詔ヲ垂レサセ給ヒマシテ、其一節ニ「賞罰ハ天下ノ大典朕一人ノ私スヘキニ非ス宜ク天下ノ衆議ヲ集メ至正公平毫釐モ誤リナキニ決スヘシ」云々トアリマス、罰即チ刑事ノ裁判ニ對シマシテ、寛大慈仁ヲ旨トシ給ヒ、民意ヲ司法ニ酌ムコトヲ喜バセ給フ所ノ大御心ハ、拜察スルダニ恐懼ノ至リニ堪ヘヌノデアリマス、御製ニモ「罪アラハ我ヲ答メヨ天津神民ハ我身ノ生ミシ子ナレハ」ト申スノガアリマス、斯ノ如クニ民ヲ慈ミ給フ御聖旨ニハ、司法ニ民衆ノ意思ヲ容ルルコトヲ欲セサセ給フ所ノ御叡慮ガ籠ッテ居ルモノト、恐レナガラ私共ハ拜察ヲ致スノデアリマス、我等臣民ハ此聖旨ヲ奉戴シテ陪審制度ノ確立ニ貢獻セネバナラヌト存ジマス、陪審ハ民意ヲ司法ニ酌ムノ制度デアアル、敢テ司法參與ナドト云フ言葉ヲ用ヒマセヌ、民意ヲ司法ニ酌ムノ制度デアアル、又之ヲ名付ケテ司法參與ト申シマシタカト云ッテ毫モ不可ナシデアリマス、左右皆殺スベシト云フモ殺ス勿レ、聽ク勿レ、諸大夫皆殺スベシト云フモ聽ク勿レ、國人皆殺スベシト云フテ然ル後之ヲ察シ、其殺スベキヲ見テ之ヲ殺スベシ、陪審ノ精神ハ是デアリマス、若槻君ハ媿々數萬言、陪審ノ歴史ヲ説キ、陪審ノ弊害ヲ述ベラレタノデアリマスガ、別ニ歐羅巴ニ歴史ヲ求メズトモ、事例ヲ歐羅巴ニ徵セズトモ、司法ニ民意ヲ酌ムノ觀念ハ東洋ニ於テ古ヨリ存在イタシテ居ルノデアリマス、現實ニ立脚シナイモノデアアル、斯様ニ申サレタ、又歐羅巴ニアル所ノ陪審ハ革命ノ後現レ出テタル所ノモノデアアルト斯様ニ申サレル、現實ニ立脚スルカ、革命ニ立脚シナケレバ陪審制度ノ樹立ノ出來ナイト云フ思召デアアルカ知レマセヌ、意外ナル御言葉デアアルト私ハ感ズルノデアアル、我々ガ陪審制度ニ賛成スル所以ノモノハ明治元年先帝ノ詔ヲセ給ヒタル所ノ大御心ニ胚胎ヲ致スノデアリマス、陪審制

度ハ先帝御偉業ノ司法的事業ノ一ツト私ハ考ヘテ居リマス、明治七年五月二日議院憲法頒布ノ御詔勅ガ下リマシタ、其中ニ「朕踐祚ノ初神明ニ誓ヒシ旨意ニ基キ漸次ニ之ヲ擴充シ全國民ノ代議人ヲ召集シ公議輿論ヲ以テ律法ヲ定メ上下協和民情暢達ノ路ヲ開キ全國民人民ヲシテ各其業ニ安シ以テ國家ノ重ヲ擔任スヘキノ義務アルヲ知ラシメシコトヲ期望ス」斯様ニアリマス、即チ立法ハ民意、即チ公議輿論ニ依ルベキモノタルヲ詔ラセ給フタル所ノモノデアリマス、其民意ニ依リテ作ラレタル法律ヲ民意ニ依リテ行フ、是ハ當然ノ歸結、御聖旨モ此處ニ存スルコトデアラウト私ハ確信イタシマス、法ヲ作ル、即チ法ヲ立テルコトノソレヲ國民ニ授ケサセ給フ大御心ニ、其法律ヲ行フ司法ノ權ヲ國民ニ授ケサセ給フ大御心ガ併セテ存シテ居ルト云フコトハ申スモ畏キコトデアラウト思フノデアリマス、申スマデモナキコトデアラウト思フノデアリマス、法律ニ對スル國民ノ權利、所謂法の國民權、立法スルニ於テ司法ニ於テ始メテ完全スルモノデアリマス、民意立法及ビ民意司法ノ觀念ハ法の國民權トシテ私ハ分ツベカラザルモノデアラウト信ジマス、我々臣民ハ先帝ノ法律ニ對スル國民權ヲ軫念シ給ヒタル所ノ大御心ヲ奉體シテ、之ヲ大成スルニ於テ心身ヲ捧ゲネバナラヌコトト存ジマス、而シテ國家司法ニ關スル根本義ハ此御聖旨ヲ奉體シテ定メネバナラヌコト勿論デアリマス、立法ニ民意ヲ重シサセ給フ大御心ハ、併セテ司法ニ民意ヲ重シサセ給フ所ノ大御心デアリマス、而シテ明治十四年、明治二十二年ノ御詔勅ハ、是ハ諸君ノ記憶ニ新タナルコト、茲ニ捧讀スルコトハ致シマセヌ、果セル哉、之ヲ沿革ニ徴シテ見マスト、此御聖旨ヲ奉體シテ、明治六年及ビ明治八年ニハ陪審制度ガ行ハレタノデアリマス、即チ今ヨリ約五十年前ニ行ハレテ居リマシタ、參座ノ制度ト名ヅクル所ノモノハ、即チ陪審ノ制度デアリマス、參座規則ノ一節ニ「罪ノ輕重ヲ決スルハ判事ノ任ト雖モ罪アルト否トヲ定ムルハ參座ノ權トス」罪ノ有無ヲ認定スル、即チ事實ヲ認定スル、是ハ參座即チ陪審ノ任デアルト規定サレテアルノデアリマス、此制度ノ行ハレマシタノハ、當時直チニ陪審制度ヲ立テテ、民意ヲ司法ニ酌ムト云フコトハ望ム所デアアルケレドモ、何分ニモ草創ノ際デアリマシテ、人文ハ未ダ發達イタシテ居リマセヌ、俄ニ行ヒ難キ事情モ實際上アルノデアリマスガ故ニ、暫ク元老院其他各省ヨリ官吏ヲ出シテ、參座即チ陪審ト致シマシテ、之ヲシテ罪ノ有無ヲ決セシメ、裁判官ハ法律ノ宣言以外、事實ノ認定ヲナサシメナカッタノデアリマス、國

運ノ進歩ニ伴ヒ、人文ノ發達ニ從ヒ、漸次國民ノ陪審ヲ作ラムトスル御聖旨デアルト云フコトハ、此沿革ガ證明シテ餘リアルト云ツテ宜イノデアリマス、參座ハ不完全ナガラ一種ノ陪審デアリマス、當時之ヲ名付ケテ官員陪審、各省ノ官員ガ陪審シテ居ルノデ、官員陪審ト申シタノデアリマス、今日ノ言葉デ言ヒマスレバ、官僚の陪審トデモ申スベキモノデアリマセウ、明治六年九月十五日陪審ニ關シマシテ、司法大輔ヨリ太政大臣ニ伺ヲ出シマシタ、其中ニ「各國ニ於テモ裁判所ニ陪審ヲ備ヘ裁判ノ公ナルヲ證シ候儀有之向後凡人民ヨリ官ニ係ル詞訟且官ト官トノ間ニ於ケル爭訟等ヨリ刑法裁判ニ及ヒ候節ハ正院左院或ハ大藏省等ヨリ其官員ヲ出シ陪審ノ任ニ備ヘ司法裁判ノ不公ナキヲ示シ度義ニ候」云々ト斯ウアリマス、參座ノ制度ト陪審制度トハ毫モ異ル所ハアリマセヌ、裁判官ハ裁判ヲスルケレドモ、法律ヲ適用スルダケデアツテ、罪アリヤ否ヤト云フ事實ノ認定ハ裁判官ニハサセナイ、太政官、元老院、陸軍、海軍、大藏、其他各省ヨリ陪審員ヲ出シマシテ、ソレ等ノ人々ノ見ル所ニ依リマシテ、ソコニ罪ノ有無ヲ定メシメルト云フコトニ相成ツテ居ッタノデアリマス、明治六七年ノ頃ノ時代ト致シマシテハ、成ル程民衆の陪審ハマダ早イノデアリマス、今ヤ人文ハ發達シ、國運ハ進歩シ、政府ガ此沿革ニ重キヲ置イテ、先帝ノ御聖旨ヲ奉體シテ、人文ハ發達セリ、國運ハ進歩セリト云フ理由ヲ具シテ、國民の陪審制度ヲ施イテ、司法ノ完備ヲ圖ラムガ爲ニ本案ヲ提出イタシタト云フコトハ、是ハ事宜ニ適シタルノミナラズ、迦ッテ沿革ニ考フレバ、其遲キコトヲ私共ハ感ズル次第デアリマス、參座ノ實例ヲ少シク申述ベテ見タイ、第一ニ參座ノ設ケラレマシタノハ明治六年デアリマス、是ハ京都府知事、及ビ京都府參事ニ對スル被告事件デアリマス、參座規則ガ發布ニナリマシテ、土方久元、小松彰、日下部東作、細川潤次郎、西岡逾明、三浦安、淺井晴文、渡邊清、竹内綱、岸良兼養、鶴田皓、是等ノ人ガ陪審ヲ仰付ケラレテ、事實ノ認定ヲ致シタノデアリマス、是ハ何レモ各省ノ代表者デアリマス、司法權外ニ獨立シテ事實ノ認定ノ爲ニ是等ノ人々ガ選定サレ、參座トシテ選定サレマシタ、而シテ裁判官ハ事實ノ認定ヲスルコトヲ認メラレナカッタノデアリマス、此事件ニ於キマシテ、陪審即チ參座ハ、府知事、府參事ニ對シテ何レモ有罪ノ認定ヲ致シマシタ、依テ知事參事ガ何レモ刑ノ宣告ヲ受ケタノデアリマス、明治六年ノ頃ニ於キマシテハ、ナカナカ官員ト云フモノノ權力ハ盛ンナモノデアリマシテ、罪ガアツテモ成ベク之ヲ罰シタ

ナイ、之ヲ罰スレバ官憲ノ威信ニ關スルト云フヤウナコトデ、庇護シタイト云フヤウナ疑ヲ受ケ易キ時代デアッタノデアリマス、然ルニ陪審席ニ列シテ居リマシタ所ノ參座ノ人々ハ、同ジク官吏デアアルニ拘ラズ、公平ナル認定ヲ致シマシテ、被告ナル知事參事、何レモ有罪ノ事實ヲ確定サレ、裁判官ヲシテ法ヲ適用サセ、刑ノ宣告ヲセシムルニ至ッタト云フ次第デアリマス、第二ノ參座ノ適用ノアリマシタノハ、明治八年廣澤參議暗殺事件、此事件ハ明治初年ノ大疑獄デ、糾問數年ニ亙リマシテ證據全ク擧ラズ、茲ニ於テ參座ヲシテ罪ノ有無ノ事實認定ヲナサシムルコトニ相成ッタノデアリマス、而シテ十二名ノ參座ヲ投票ニ依テ決スルト云フ新ナル規則ガ出タノデアリマス、參座ニナリマシタ人々ハ、高崎正風、得能良介、生田精、野村靖、大江卓、關義臣、藤澤次謙、津田眞道、林清康、船越男爵ノ先大人タル船越衛、野村素介、鈴木魯、ト云フヤウナ人々デアッタノデアリマス、其後津田、藤澤ノ兩人免ゼラレテ、池内重華、久米邦武ノ兩人ガ仰付ラレタノデアリマスガ、是亦參座ノ投票ノ結果無罪ノ事實ガ認定ニ相成リマシテ、被告五名ハ裁判官ヨリ無罪ノ言渡ヲ受ケタノデアリマス、即日釋放セラレタノデアリマス、長イ間牢獄ニ繋ガレテ、此參座ノ認定ノ爲ニ裁判官ヲシテ無罪ノ判決ヲナサシムルニ至ッテ、始メテ青天白日ヲ拜スルト云フニ至ッタノデアリマス、此事件ハ前ノ事件トハ違ヒマシテ、被害者ガ參議デアリマス、當時ニ於キマシテ威望ノ高キ人デアアル、苟クモ嫌疑ヲ受ケタル所ノ者ハ危ウカラザルヲ得ナイ、同ジク官吏デアアル陪審員ハ此威權堂々タル參議暗殺事件ノ被告人ニ對シテ如何ナル認定ヲナスカ、當時ノ情勢トシテ危ブマザルヲ得ナイノデアリマス、然ルニモ拘ラズ此陪審員ノ人々ハ被告ニ對シテ罪ナキモノト認定ヲ致シタノデ、彼等ハ悉ク無罪ノ判決ヲ受ケルニ至ッタノデアリマス、官僚陪審トモ稱スベキ參座ノ制度ハ今ヲ距ル五十年前、即チ明治六年明治八年ノ昔ニ於テ斯ノ如キ效果ヲ奏シテ居ルノデアリマス、之ヲ裁判官ノ獨斷ニ委セタナラバ、此二事件ノ如キハ如何ナル結果ヲ生ジタノデアラウカト云フコトヲ考ヘネバナラヌノデアアル、此官僚陪審ヨリ更ニ進ミタル眞ノ陪審、即チ民衆陪審ノ制度ヲ立テムトスルニ當リマシテ、有ラユル感情論ヲ悉クヲ自己ニ獨斷ヲシテ、己レノ意見ニ反對スル者ハ憲法違反ノ亂臣賊子デモアルカノ如キ態度ヲ執リテ、而シテ此陪審法ヲ遮ラムトスル如キ御意見ハ餘リ遲レテハ居リマセヌカ、少クトモ五十年遲レテ居ルト云フコトヲ私ハ確信スルノデアアル、明治元年ニ

ハ先程讀上ゲタル御詔勅ガ下リ、明治六年八年ニハ官僚陪審トモ申スベキ陪審ノ制度ガ現ニ行ハレ、之ニ依リテ斯ノ如ク國民ノ疑懼ノ念ニ驅ラレタル大事件ガ、公明ナル陪審ノ認定ノ爲ニ始メテ裁判ノ公平ヲ期シ得ラレタト云フコトハ、是ハ沿革上尤モ御考慮ヲ給ハリタイコトデアアルノデアリマス、五十年モ前ニ、官僚ナリト雖モ、陪審ノ制度ガ行ハレ居リタルニ拘ラズ、五十年後ノ今日ニ於テハ此歴史此沿革ヲ有スル我國ニ於キマシテ、陪審ハ憲法ニ違反スル、陪審ハ民情ニ適セナイ、何事デアリマス、大正十二年ノ今日、是ハ明治六年八年ノ昔日ニ比シテ、人文ニ於テモ國運ニ於テモ比較スベクモアラヌコトデアリマス、抑、明治元年ノ御詔勅下リ、六年八年ニ陪審制度行ハレタルニ拘ラズ、何ガ故ニ進ンデ民衆陪審ガ出來ナカッタカト申セバ、單ニ國運進歩セズ、人文發達セズト云フダケノ理由ニ外ナラヌノデアリマス、治罪法編纂ノ事業ハ明治十年七月ニ始マリマシテ、十一年ノ十二月ニ至リマシテ完成ヲ致シマシタ、此法典ハ「ボアソナード」氏ガ起草イタルトコロノモノデアリマシテ、陪審ノ規定ハアッタノデアリマス、然ルニ審議ニ當リマシテ削ラレタノデアリマス、誠ニ遺憾デアリマス、當時之ニ反對ヲシタル人ノ中ニ、故井上子爵ガアリマス、梧陰存稿ニアル陪審論ハ此時ノ作ト見エマス、其譯ハ井上子爵ヨリ柳原前光伯ニ宛テラレタル治罪法意見、明治十年十月二十七日附、及ビ「ボアソナード」氏ガ子爵ニ與ヘラレタル書面、是ハ刑事陪審論答議ト題セラレテアリマス所ト、梧陰存稿ニアル陪審論ト文章ノ結構並ニ引例全ク同一デアアル、子爵ハ純然タル訴訟法、即チ治罪法問題トシテ陪審削除ノ意見ヲ立テラレタノデアリマス、他日憲法制定ノ曉ニ於テハ若シ之ヲ認ムベシトセバ、憲法ニ規定スベキモノデアルト云フノデアリマス、反對ノ意見ヲ立テラレ、治罪法ノ規定中ヨリ削ラレタ譯デハナイノデアアル、ソレ故ニ後年憲法制定ノ際、陪審制度ガ子爵ノ意見トシテ、憲法上ノ問題トシテ提出セラレルベキ筈ハナイノデアアル、提出セラレタル事實ハナイノデアアル、此點ニ關スル山脇博士ノ御演說ヲ過日承リマシタガ、何か御間違デハアルマイカト考ヘマス、而シテ當時政府ノ顧問タリシ「ロバートブレダー」即チ若槻君ノ先程御引用ニナッタトコロノ人デアリマス、此人ハ井上子爵ヨリ陪審ノ利弊ニ付テ意見ヲ徵セラレタルトコロノ人デアリマス、此人ノ意見ニ依リマスト云フト、陪審法ハ英吉利ノ如キ憲法アリテ國民ノ自由ヲ確定スル國ニアリテハ、固ヨリ以テ國民ノ自由ヲ保障スルニ足ルノミナラズ、其自由ヲ得セシメタル原因ノ一トナリ

得ルト雖モ、專制政府ヲ戴ク所ノ國ニ於テハ陪審法ハ一個ノ虛飾物タルニ過ギズ云々、行政官ノ獨斷ヲ以テ裁判官ヲ任免シ得ルノ國ニ於テハ決シテ審判ノ自由ヲ鞏固ナラシムルコトヲ望ミ得ベカラズ云々トアリマシテ、訴訟手續ハ訴訟手續デアリマススケレドモ、專制時代ノ日本ニ於テハ之ヲ行フノ必要ハナイ、立憲政治ニナツテ行フガ宜シト云フ一個ノ尙早論デアリマス、是ハ千八百七十九年十二月十日附デアリマスカラ、明治十二年ニ當リマス、是等ノ文書ハ何レモ當院議員井上子爵ヨリ借覽シタ所ノモノデアリマシテ、多分若槻君ト私トニ公平ニ分タレタモノデアラウト存ジマス、故井上子爵ハ陪審制度ヲ以テ純然タル訴訟法問題トセラレタト云フコトハ、訴訟法即チ治罪法ニ陪審制度ノ規定セラレタコトヲ非ナリトシテ削ラレタルニ依リテ、何ヨリモ證據ハ明瞭デアアルノデアアル、梧陰存稿ハ明治二十八年九月ノ版行ニ成ツテ居リマスルカラ、或ハ明治二十二年憲法制定セラレ、明治二十三年憲法實施セラレ、帝國議會開カル、梧陰存稿ハ明治二十八年ニ出版セラレタリ、恐ラクハ憲法制定ノ際ニ削除セラレタル所ノ論文ナルベシ、斯ウ云フ考デ類ニ梧陰存稿ノ御引用、諄キ程ノ御引用、サウシテ之ヲ其憲法違反ノ材料ニシヤウトセラレタ若槻君モ、山脇君モドウ云フ御調査ニ依テ、子爵ガ憲法問題トシテ陪審ヲ違憲ナリト云フコトヲ論ジタルコトヲ御證明ニナルノデアリマスカ、追ニ財政家デアアルダケニ、類ニ證據證據ト云フコトヲ仰シヤルカラ、私モ矢張り其證據ヲ示シテ戴キタイト云フコトヲ申シテモ、敢テ不穩當ノ言葉デアアルマイカト考ヘル、マア實ニ迷惑ナノハ井上子爵、明治二十八年ニ薨去セラレタノデアリマス、而カモ子爵ガ四十五六年前ニ作爲セラレタル所ノ論文、之ヲ捉ヘ來ツテ憲法違反ノ材料ニ供スル、井上子爵地下ニ於テ嘸迷惑ヲ感セラレテ居ルコトダラウト思フ、篤ト御調査ヲ願ヒタイノデアリマス、治罪法ハ明治十五年一月ヨリ施行サレマシタ、後明治二十三年十一月現行ノ刑事訴訟法ト變リマシテ、昨年又之ヲ改メマシテ新刑事訴訟法ガ公布セラレタノデアリマス、舊訴訟法時代ニ於キマシテハ、陪審ハ尙早ノ故ヲ以テ、尙早シトノ理由デ規定セラレナカッタノデアアル、又新訴訟法審議ノ際ニハ、尙早ト云フ理由ニハアラズシテ、之ヲ採用スル曉ニ於テハ、陪審法ナル獨立ノ立法トシテ、特別法トシテ制定セラルルト云フコトニ決定シタノガ事實デアリマス、是ヨリ前明治二十九年ノ頃、日本辯護士協會設立セラレ、陪審法ノ制定ヲ決議シ、案ヲ公ニシタコトモアリマス、當時ノ貴族院議員三好退藏、菊池武夫ノ兩君

ノ如キハ、最モ熱心ナル主唱者デアッタノデアリマス、後磯部四郎君之ニ加ハルアリ、完全ナル案ヲ立テテ世ノ中公ニシタ事モアルノデアリマス、爾來陪審ノ論ハ民間ノ共鳴スル所ト相成リマシテ、明治四十三年ノ衆議院ニハ建議案ガ出デマシテ、大多數ヲ以テ可決シタル事實ガアル、而シテ是マデ人權蹂躪問題トシテ法廷ニ爭ハレルコトアル毎ニ、若シ陪審法ニシテアリシナラムニハト云フ嘆聲ハ、之ヲ聞カザルハナシト云フ状態デアアルノデアアル、大正八年七月法制審議會設置セラレ、陪審制度ノ可否ニ付キマシテ諮問ガアリマシタ、審議會ハ全會一致ヲ以テ之ヲ可決イタシマシタ、時ニ大正九年六月二十八日、男爵阪谷芳郎君ガ此全會一致中ノ有力ナル委員デアッタト云フコトハ、陪審法制史ニ特筆スベキ所ノコトデアラウト信ジテ居リマス、次デ陪審法制定ニ關スル委員會ガ設置ニナリマシテ、案成リテ樞密院ノ議ニ付セラレ、同院亦之ヲ可決シ、昨年衆議院之ヲ可決シ、本院ニ廻付相成リマシタケレドモ、可決ニ至ラズシラ會期ガ盡キマシテ、本年再ビ新タニ樞密院衆議院ノ議決ヲ經テ本院ニ廻付セラレ、今日委員會ノ結果ヲ報告セラレ、第一讀會ノ續トシテ進行セラレツツアルノデアリマス、以上ハ陪審ニ關スル所ノ法制的小歴史デアリマス、其源ヲ明治元年ノ御詔勅ニ發シタト云フコトヲ記憶シテ戴キタイノデアリマス、而シテ此御詔勅ノ趣旨ニ於テ、不完全ナガラモ明治六年八年ニ陪審制度ガアッタト云フコトヲ御記憶ヲ願ヒタイノデアリマス、而シテ井上子爵ノ陪審論ハ訴訟法即チ治罪法ニ關スル事項トシテ意見ヲ立テラレタノデアッテ、毫モ憲法問題ニ觸ルベキモノデナカッタト云フコトノ御諒解ヲ得テ置キタイト思フノデアリマス、訴訟法ノ規定事項トシテ取扱ハレタト云フコトハ、治罪法ニ陪審ノ規定ガアルノヲ削ルベシト云フコトヲ言ハレテ、此論文ヲ公ニセラレタト云フ一事ガ證明ガ出來ルノデアリマス、「ボアンナード」氏曰ク井上子爵誤マレリ「ロバート、ブレイダー」氏ハ曰ク尙早シ、陪審制度ハ憲法政治ト兩立スベキモノデアルカラ、專制國ノ日本ニ於テ今行フハ尙早シ、憲法制定セラレ、立憲政治行ハルルニ於テ行ハルベキモノデアアル、ソレマデハ先ヅ地方政治ノ小事ヨリ、漸次國事ニ與ルヤウニ、政治思想ヲ富マス方ガ宜イデハナイカ、ト云フヤウナ意味ノ意見ヲ立テラレタノデアアル、此梧陰存稿モ此治罪法ニ關スル陪審制度ノ當否ノ意見モ、種ハ若槻君ノト私ノト少シモ違ハナイノデアリマスガ、ドウモ若槻君ノ讀マルル所ガ餘リ君ノ議論ニ近イヤウニ説明セラルル、議論ニ近イノデハナイ、議論ノ説明ニ便スルニ必要ナ

ル部分ヲ抜カレテ、而カモ言外ニ自己ノ意見ヲ添ヘテ文書ノ説明ヲセラレタ  
ト云フコトヲ私ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、「ボアソナード」ノ意見モ、御  
讀ミニナツタ一節ノ他ニ斯ウ云フコトモ書イテアル、陪審裁判ヲ以テ國民裁  
判ト云フハ貴賤貧富ノ別ナク等シク國民ノ中ヨリ擧ゲタル人ヲ以テ裁判ヲ司  
ラシムルノ意義ナリ、ト云フコトガアル、此邊ハ讀ンデ戴カナカッタノデア  
リマスガ、讀メバ御意見ニ觸レマスカラシテ、是モ亦戰略上已ムヲ得ナイコ  
トト考ヘル、尙ホ又「ボアソナード」氏ハ最モ有力ナル意見トシテ、井上子爵ノ  
說ニ反對ノ趣旨ヲ明カニ致シテ居リマス、ソレハ何デアルカ、若槻君ハ全體國  
民ト云フモノニ對スル人格權ト云フモノヲドノヤウニ御考ヘニナツテ居ルノ  
デアアルカ、一應ノ推測ト致シマシテハ我モ彼モ人格ノ上ニ於テ力ノ上ニ於テ  
同等ノモノデアルト云フコトニ觀念セザルベカラザル筋ノモノデアラウト私  
ハ考ヘル、是ハ後ニ尙ホ述ベマスル、「ボアソナード」氏ニ向ッテ井上子爵ガ述  
ベラレタル有力ナル意見トシテハ、即チ若槻君論ゼラレル所ト同ジデアアル、裁  
判官ハ誠ニ公平ナルモノデアアル、素人ハ感情ニ走り易イモノデアアル、斯様ナ點  
ニ付キマシテ「ボアソナード」氏答ヘテ曰ク「陪審ノ本心自由ナラズ、或ハ依倚  
スル所アリテ、遂ニ其判決公平ヲ失フノ虞アリト、余案ヅルニ此弊ハ陪審ニア  
ラズシテ、却テ法官ニアリ、古ヨリ諸國ノ事歴ヲ見ルニ、法官審理ノ際ニ當ッ  
テヤ、動モスレバ偏倚ノ處分アルヲ免レズ是レ却テ陪審ニアラザル所ナリ」、  
「ボアソナード」ハ斯ウ書イテ居ルノデアリマス、此處モ御省キニナツタ點  
デアリマス、此議論ハ、此意見ハ少シク諸君ニ御考慮ヲ願ヒタイト思フノデア  
リマス、裁判官ハ公平デアアル、無論公平デアラネバナラス、言フマデモナキ  
コトデアアル、併シ裁判官ニハ感情ハ無用デアアルカラ、感情ハナイモノデア  
ト云フ事柄ニ斷定ガ出來マセウカ、知識ノアル者ノ感情程恐ルベキモノハナ  
イ、知識ノアル者ノ感情程憂フベキモノハナイノデアアル、法律的知識ヲ蓄ヘ  
多年罪人ヲ取扱ヒ、人ヲ見レバ賊ト思フト云フ觀念ガ頭ヲ支配シテ居ル、此  
人ニ對シテ之ヲ緩和スル爲ニ、智慧ハナイ併シ道理ハ分ッテ居ル、ムヅカシ  
イコトハ解ラヌ、併シ人間生活ノ一應ノコトハ心得テ居ル、之ガ事實ノ認定  
ヲスルノデアアル、而シテ裁判官ノ頭ニ緩和劑ヲ與ヘルノデアアル、而シテ事實  
ノ眞ヲ發揮スルノデアアル、デ私ハ論モ何ニモ言ハヌ、物ヲ知ッテ居ル者ノ感  
情ニ走セル位恐ロシイモノハナイト云フコトハ若槻君ノ御演說デ了解シタノ  
デアアル、アレ程ドウモ感情的ニ此法案ニ感情的ニ當ラレタ、成ルホド斯ウ云

フ人ガ裁判ニ當ラレタナラバ、如何ニモ恐ロシイ、感情程恐ロシイモノハナイ  
ト云フコトヲ私ハ切實ニ感ジタノデアアル、陪審ニシテ行ハレタナラバ、國家  
ガ覆ルト云フヤウナ御演說ヲナサル、而カモ憲法違反デアアル、貴族院ニ於テ  
憲法違反ノ法律ヲ迎フルト云フコトハ斷ジテ避ケネバナラス、之ニ贊成スル  
者ハ恰モ憲法ノ亂臣賊子デアアルカノ如キ御議論ヲナサル、焉ンゾ知ラン、陪審  
法ガ斷ジテ憲法違反ナリト云フ理論的、學術的論據ガ安心シテ立テ得ラレマ  
スカ、私ハ此沿革ノ小歴史ヲ申述ベマシタノハ、全ク陪審ハ訴訟法事項デアッ  
テ、憲法事項デハナイ、憲法問題ニハ沒交渉デアルト云フコトヲ證明スル爲  
デアッタノデアリマス、抑、陪審制度ハ裁判ニ對スル國民ノ自由ヲ保障スル所  
ノ利器デアリマス、之ニ依リマシテ國家ノ國民ニ對スル正義ノ觀念ヲ全ウス  
ルノデアリマス、今日後レタリト雖モ、本法ノ制定ヲ見ルト云フコトハ、日  
本ノ法制史上ノ一ツノ特筆事項デアラウト思ヒマス、國民ノ法的人格權ヲ確  
認シ、事實ノ認定ハ國民ヲシテ之ヲナサシムルノデアアル、而シテ法律ヲ其認  
定事實ニ適用セラルルノデアアル、法律ハ疾ク既ニ立法ノ參與ヲ許サレテ居  
ル、國民ノ意思ヲ容ルルコトト相成ッテ居ルノデアアル、立憲政治ハ即チソレデ  
アル、立憲政治ノ御講釋モ承ハリマシタガ、餘リ感服イタシマセヌ、承ハルマ  
デモナク御了解デゴザイマスカラシテ、其全部ガ、若槻君演說ノ全部ガ立憲政  
治ノ根本義デアルト云フコトハ間違ッテ居ルト云フコトノ證明ヲ致ス程ノ必  
要モ諸君ノ前ニハ要ルマイカト考ヘル、右ニ民意立法之ヲ與ヘ左ニ民意司法  
之ヲ奪フ、敢テ參與ト云フ字ハ避ケマス、避クル必要ハアリマセヌガ、之ヲ  
避ケテ民意司法、民意立法ト申シテモ宜シイノデアリマス、左ニハ立法ニ民意  
ヲ酌ム、宜シイ與ヘル、右ニハ民意ヲ司法ニ酌ムコトハ許サヌ、法的國民權  
ハ行政權司法權ノ區別ハアツテモ、法的國民權トシテハ分ツベカラザル一ツ  
ノモノト認メナケレバナラスモノデアリマス、序ナガラ陸海軍治罪法ノコト  
ヲ一言イタシマス、明治二十二年ニ陸海軍治罪法ガ制定セラレマシテ、大正  
十一年ニ改正セラレマシテ、陸海軍軍法會議トナリマシタ、嚴格ナル意義ニ於  
キマシテハ、陪審デハゴザイマセヌケレドモ、我等ハ死生ヲ共ニスル戰友ノ手  
ニアラザレバ死セズ、此原則ハ軍人ハ軍人ノ裁判ヲ受ケル、專門ノ法務官ハ居  
ルノデアアルガ、我等軍人ハ死生ヲ同ジウスル同僚軍人ノ手ニアラザレバ司法  
的ニハ死ナナイ、斯ウ云フ原則ヨリ出テ居ルノデアリマス、精神ニ於テ陪審ノ  
加味ガアルト申シテモ宜シイノデアリマス、是ハ今日行ハレテ居リマス沿革

ヲ申述ベマシタ、而シテ是ヨリ憲法論ニ入りテ其違法ニアラザル所以ヲ詳カニ論ジテ見タイ、而シテ若槻君ニ更ニ教ヲ請ヒタイト思フ、憲法違反論ハ二ツアルヤウデアル、第一ハ事實ノ認定ハ裁判ナリ、故ニ憲法第二十四條、五十七條、五十八條ヨリ觀察シテ違憲デアル、斯ウ云フ說、第二ハ憲法ノ條章之ヲ規定セザルガ故ニ、憲法ハ陪審ヲ認メナイ、故ニ違憲デアル、此說デア、事實ノ認定ハ裁判ニアラズ、事實ノ認定ハ讀シテ字ノ如ク事實ノ認定ナリ、是ガ私ノ意見デアリマス、人ヲ殺シタリ火ヲ放チタリト云フ事實ノ認定ガアツタカラト云ウテ、認定ソレ自身ニハ何等裁判的效力ハ發生イタシマセズ、認定シタル事實ヲ對象トシテ之ニ法律ヲ適用シ、而シテ法律適用ノ效果タル刑罰ヲ宣言スル、此宣言ニ制裁力ガアル、此宣言ニ執行力ガアル、之ヲ名ヅケテ裁判又ハ裁判權ト云フノデアル、裁判ハ國家司法權ノ行使デア、國家司法權ノ行使ハ法律ノ適用以外ニ何モノナイノデアル、法律ノ適用ト、法律ヲ適用スベキ對象物、即チ事實ノ認定トハ、其間判然タル區別ガアルノデアル、事實ノ認定ト法律ノ宣言トヲ以テ、不可分一體ノモノノ如クニ解釋ヲシテ、ハ斯ウ云フコトノ間ヲ發スレバ宜シイノデアリマス、裁判權ニ強制力ノ伴ハナイモノガアルカ、強制力ノ伴ハナイ裁判ト云フモノガアルカ、是デ宜シイノデア、法律ヲ適用セラレ刑罰ヲ宣言セラレテ制裁及執行ノ效果ガ生ズルノデア、事實ノ認定ハ單ニ事實ノ認定タルニ止マルノデア、何等裁判ノ效果ヲ發生シナイノデア、汝火ヲ放チタリ、右事實ヲ認定ス、汝人ヲ殺シタリ、右事實ヲ認定ス、是デハ裁判ノ力モナケラネバ執行ノ力モナイ、之ニ法律ヲ適用シ之ニ刑罰ヲ宣言シテ初メテ裁判權トナルノデア、成程、事實ノ認定ハ裁判權發生ノ徑路デアル、徑路デハアルケレドモガ、徑路ソレ自體ハ決シテ裁判權デハナイノデア、而シテ如何ニシテ事實ヲ認定スベキカ、其方法ハ之ヲ如何ニスベキカ、是ハ訴訟手續ノ一部デアツテ、純然タル訴訟法ノ規定事項デア、訴訟法ノ範圍デアリマス、刑事訴訟法ハ國ニ依リマシテ、便宜上裁判官ヲシテ併セテ事實ヲ認定セシムルモノモアルノデアリマス、又専ラ陪審員ヲシテ事實ヲ認定セシムルモノモアルノデアリマス、唯其多クガ陪審員ヲシテ事實ヲ認定セシムルト云フニ過ギナイノデアリマス、裁判官ヲシテ事實ノ認定ヲ爲サシメ、自ら認定シタル事實ニ對シテ法律ヲ宣言シ刑ヲ宣告スルト云フ獨斷主義ヲ執ルコトハ避ケタイト云フ觀念ガ、文明國ノ立

法例ニハ陪審トシテ現ハレテ居ルノデア、尤モ和蘭ニモ、土耳其ニモ、支那ニモアリマセヌ、其他ハ日本デアリマス、日本ニ於キマシテハ勿論從來訴訟法ニ規定ヲシテ、裁判官ヲシテ事實ノ認定ヲ爲サシメタト云フコトハアルノデアリマス、今現ニアルノデアリマス、併ナガラ憲法上ニ於ケル裁判ト云フ意義ニ於テ事實ヲ認定セシメテ居ルノデハナイ、是ハ刑事訴訟法第九十條ニ「被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件、證人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス」斯ウ書イテアリマス、尙ホ第二百三條ニ「刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ」斯ウ書イテアル、此兩條ハ即チ訴訟手續トシテ、事實ノ認定ハ陪審員ノ爲スベキガ當然デアアルケレドモ、陪審員ノ制度ノ無イ我が日本ニ於テハ、裁判官ニ併セ任スト云フノ趣旨デ、現ニ訴訟法ニ規定セラレテアルノデア、此二ツノ條文ヲ精神的ニ御味ヒヲ賜リマシテ、而シテ尙ホ此文理的ニ能ク御味ヒヲ賜リマシタナラバ陪審ノ單ナル訴訟手續デアルト云フコトハ御諒解下サルコトガ出來ヤウト思フノデ、畢竟訴訟法上法律適用ノ對象物タル事實ノ認定ヲ、或ル心證資料ニ依ツテ爲シ得ベキコトヲ、裁判官ニ委託シタト云フ趣旨ニ外ナラヌデアリマス、九十條ノ條文ヲ御通讀ヲ願ヒマス、全然憲法ニハ交渉アリマセヌ、併ナガラ本來法律適用ノ機關ト事實認定ノ機關トガ同一デナイト云フコトガ、區別スベキト云フコトガ原則デゴザリマスルガ故ニ、歐米諸國ニ於キマシテハ陪審制度ヲ設ケテ此兩機關ノ分化區別ト云フコトヲ、成ベク廣ク認メテ居ル、又現ニ陪審ヲ行ハザル事件ニ迄モ廣ク推擴メムトスル傾向ガ今日ハアルノデアリマス、即チ事實ノ存在、不存在、所謂事實ノ認定ハ之ヲ國民ノ良智良能ノ見ル所ニ一任ス、國民の良心ノ判斷ニ一任ス、國民ノ人格權ト云フモノハ之ヲ尊重ス、而シテ其認定事實ニ對シテ、國家ハ裁判權ヲ行フモノトセラレテ居ルノデア、國家ハ法律ヲ適用シ刑罰ヲ宣言シ、所謂國家ノ司法權ヲ行使スルノデアリマス、事實認定ハ斷ジテ裁判デハナイ、憲法問題ハ之ニ交渉ハナイノデアリマス、第二十四條ヲ讀シテ見テモ、五十七條ヲ讀シテ見テモ、五十八條ヲ讀シテ見テモ交渉ハナイノデアリマス、政府ハ何ガ故ニ事實ノ認定ハ裁判ニ非ズト云フ、斷乎タル聲明ヲセラレナイノデア、是ハ私ノ最モ遺憾トスル所デアリマス、岡野司法大臣ハ學說トシテ二ツアルト云フヤウナコトヲ申サレタヤウデゴザイマスルケレドモ、事實ノ認定ハ裁判デア、裁判

ノ一部デアアル、此説ハ刑事訴訟法第二百三條ノ文字ヲ餘リニ廣義ニ考ヘテ、餘  
リニ獨斷的ノ解釋ヲシ、且ツ從來裁判官ガ事實ノ認定ヲナシ來リタル傳統の  
ノ慣例ニ拘泥シ、裁判ニハ當然事實ノ認定ガ伴フテ居ルモノデアラウト云フ  
コトニ極メテ居ルカラ、此ノ如キノ學說デモアルカノ如クニ誤ラレタノデア  
ルマイカト考ヘル、裁判若クハ裁判權ノ意義ト云フモノハ、法ノ規定ヲ待タ  
ズシテ法理上一定シテ居ルノデアリマス、制裁之ニ伴フ、執行之ニ伴フ、之  
ヲ名ヅケテ裁判權ト云フ、論モ何モ無イコトデアアル、國法學竝ニ訴訟法ノ原  
理ヨリ見マシタナラバ、事實ノ認定ヲ以テ裁判ナリトスル説ハ、一顧ノ値ダ  
モ無イコトハ了解スルコトガ出來ヤウト考ヘルノデアリマス、全ク傳統的因  
習的ナンドス、裁判所ニ出ルト云フト事實ノ認定ヲセラレル、法律ヲ適用セ  
ラレテ刑罰ヲ言渡サル、カラシテ、法律ニ其通り書イテアルカラシテ是ガ裁  
判デアアルカノ如クニ、唯聞慣レ見慣レテ其通りニ隨意ニ極メタダケノモノデ  
アツテ、學理的ニ法理的ニ之ヲ名ヅケテ裁判ト云フノデハナイノデアリマス、  
沿革上ノ理由ニ於テモ申述ベマシテ、又憲法上ノ意見トシテモ申述ベマシテ、  
陪審ハ醇乎トシテ醇ナル訴訟法上ノ問題デアアル、其訴訟法上ノ問題ヲ以テ、  
強ヒテ憲法問題ニ結付ケムトスルノデアアル、憲法違反説ニ城壁ヲ築イテ、陪  
審法ヲ遮ラムトスルノデアアル、併ナガラ事實ノ認定ハ裁判ニアラズト云フ説  
ニシテ正當デアッタナラバ、反對論ノ根據ト云フモノハ直チニ崩レルノデア  
アル、裁判ノ意義ハ國法學上一定イタシテ居リマス、即チ裁判ハ國家司法權ノ  
行使デアアル、國家司法權ノ行使ハ、刑事ニアリテハ訴訟法ノ規定シタル手續  
ニ基イテ、法廷ニ現レタル事實ニ對シテ法律ヲ適用シ刑罰ヲ宣言スルト云フ  
ニ外ナラナイ、擴張ノ解釋モ取レナイ、滅縮ノ解釋モ取レナイ、之ヲ換言ス  
レバ法律ノ適用ナルガ故ニ、其法律ヲ適用シテ刑罰ノ宣言ナルガ故ニ、制  
裁伴フナリ、執行伴フナリ、名ヅケテ裁判ト云フ、是以外ニ裁判權ノ説明方  
法ハゴザイマセヌ、私ハ憲法論ト致シマシテモ國法論ト致シマシテモ、裁判  
ニニ様ノ意義ハアルマイト思フ、裁判ヲナス徑路ニハ訴訟手續トシテ或ハ陪  
審ノ報告ニ依ルベキモノモアラウシ、或ハ陪審ナキノ故ヲ以テ裁判官ニ委セ  
タル事實ノ認定モアルデアリマセウ、彼ト此トハ區別ヲセンケレバナラヌノ  
デアアル、帝國憲法ハ裁判ノ定義ハ與ヘテ居ナイ、與フル必要ナキガ故ニ與ヘ  
テナイ、裁判トハ事實ノ認定及ビ法律適用、併セ稱スト云フコトハ帝國憲法  
ニハ規定シテ居ラス、何レノ國ノ憲法ニモ斯ノ如キノ規定ハアリマセヌ、憲

法ニ揭ゲズトモ、裁判權ノ性質トシテハ法理上分ツテ居ルノデアアル、ソレ故  
何レノ國ニ於キマシテモ、事實ノ認定者タル陪審員ヲ以テ、裁判權ヲ行使ス  
ル裁判官ト同視スル者ハアリマスマイ、又何レノ國ニ於キマシテモ、陪審員  
ノ名ニ於テ裁判ヲ宣告スル者ハアリマスマイ、伊藤公ノ憲法義解ニハ裁判官  
トハ法律ノ制裁力ノ結果タル刑罰ヲ判斷スルノ職司ヲ言フト説明セラレテア  
ル、決シテ事實ノ認定ヲナス職司ナリト言ハレテ居ラス、事實ノ認定ハ之ヲ國  
民ニ一任ス、國民自身ヲシテ責任ヲ負ハシム、裁判官ヲシテ其本來ノ職能ニア  
ラザル事實認定ノ責任ヲ負ハシメナイ、裁判官ハ其職能タル裁判權ニ付テノ  
ミ責任ヲ負ハシム、此道ニ出デナケレバナナスノデゴザイマスケレドモ、陪審  
ハ明治初年御詔勅ノ趣旨、明治六年、八年ニ實施セラレタル實例ノ上カラ考ヘ  
テ見タナラバ、早ク既ニ出來ナケレバナラナカッタノガ、今日マデ後レ來ツタモ  
ノデアアルト云フノデアリマス、帝國憲法ハ法律ノ適用タル司法權ノ行使ニ付  
キマシテハ規定ガゴザイマスケレドモ、此法律ヲ適用スベキ對象物、即チ事實  
認定ノ方法ニ付キマシテハ、之ヲ訴訟法ニ讓ツテ居ルノデアリマス、故ニ訴訟  
法ハ之ヲ規定イタシテ居リマス、陪審員ハ訴訟法上事實ノ認定ヲナスト雖モ、  
憲法上裁判權ヲ行使スルモノデナイ、然ニ陪審員ヲ視ル恰モ裁判官ノ如ク、  
裁判官ト共ニ司法權ヲ行使スル裁判ヲナス者ノ如クニ解釋シテ、陪審制度ハ  
憲法違反デアアル、斯ウ云フ風ニ論ゼラレルノハ餘リニ無理ナ御解釋デアアル  
マイカト思フ、私ハ野人雅言ヲ知ラズ、何ト云フ言葉デ評シテ宜イカ、迷ッタノ  
デアリマスガ、幸ニ先輩若槻君ニ依ツテ本院ノ言語學ヲ知リマシタ、先ヅ若槻  
君ノ言葉ヲ其儘拜借シテ、詭辯ト言ツテ差支ナイモノデアリマセウ、我々ガ主  
張スル事實ノ認定ハ裁判ニアラズト云フガ如キハ詭辯ナリト言ハレル言葉ヲ  
其儘拜借シテ、事實ノ認定ヲ裁判ナリト言フハ實ニヨリ以上ノ詭辯デアアルト  
云フコトヲ以テ申上ゲマシテモ、若槻君ノ言葉ヲ拜借イタシタノデアリマス  
カラ、禮ヲ失スルモノトハ心得マセヌ、名ヲ憲法違反ニ籍リテ、民意ヲ司法ヨ  
リ排斥セムトスルト云フコトハ是ハ憂フベキコトデアアル、民意ヲ輕蔑スルモ  
ノデアアル、民意ヲヨリ以上立法ニ迎ヘムトスル普通選舉論者ノ口吻トシテハ  
不似合千萬デアリマス、若槻君ハ委員會ニ於テ述べタル委員ノ説ナリトシテ、  
委員長ノ報告ニ基イテ、頗ル嚴シキ御評論ガアツタノデアアル、承ハツテ居ル私ノ  
如キ者ハ臆病デアリマスカラシテ戰慄イタシタノデアリマス、併シ若槻君ヨ、  
餘リニ獨斷ノ論ヲ慎マレヨ、立法司法ノ區別ハアル、立法司法ノ區別ハアリ

マスルガ、法律ニ對スル國民權、即チ法的國民權トシテハ何レモ輕重ハ無イノデアアル、事實ノ認定ハ國民ガスル、認定事實ニ對シテ裁判官ハ法律ヲ適用スル、其適用スベキ法律モ亦立法ニ付テハ國民ノ意思ヲ容レル、是ガ即チ立憲政治デアアル、私ハムヅカシイ理窟ハ分リマセヌガ、此意義ヲ體得シテハ宜シクナイノデアアリマセウカ、立法ニハ民意ヲ容レルガ、司法ニハ民意ヲ容レテハ憲法ニ背クノデゴザイマセウカ、法的國民權二者分ツベカラザルモノトシタナラバ、民意ヲ立法ニ酌ムノ精神ハ、民意ヲ司法ニ酌ム精神ト合致セザルヲ得ヌノデアアリマスマイカ、此ヲ與フル、彼ヲ與ヘザルベカラザルノデアアリマスマイカ、ナゼ民意ヲ司法ニ酌ムノ精神ハイケンナイノデアアリマセウ、私ハ憲法ノ條規論トシテハ申サナイ、立憲政治即チ民意政治ノ上カラ申シマシタナラバ、立法ニ民意ヲ汲ムト云フコトノソレト同様ニ司法ニ併セテ民意ヲ酌マムトスルト云フコトニナッタナラバ、之ヲ遮ルト云フコトハセナクツテモ宜シイモノデアアルマイカ憲法ノ精神解釋ト致シマシタナラバ、彼ヲ與フル、即チ此ヲ與フルト云フ觀念デナケラネバナルマイカト思フノデアアル、寧ロ之ヲ遮ルコソ、精神の憲法解釋論トシタナラバ、憲法違反デアアルマイカト、私ハ考ヘルノデアアル、普通選舉要求ノ聲ハ民意立法權要求ノ聲デアアル、ヨリ以上民意立法權要求ノ聲デアアル、然ラバ則チヨリ以上、否、ヨリ以上デハナイ、全然無キ所ノ民意司法ノ權ヲ要求スルモノナリト、要求セズト雖モ與ヘムトスル國家ハ善意ニ之ヲ解釋スルノガ至當デアアルマイカト考ヘルノデアアル、若槻君ハ鬼面ヲ以テ人ヲ威シ巧言ヲ以テ人ヲ欺クト云フヤウナ言葉ヲ御使ヒニナッタノデアリマス、誠ニ嚴シイ言葉デ、實ハ驚イテ居ッタノデアリマスガ、事實ノ認定ハ裁判ナリ、故ニ陪審制度ハ憲法違反ナリ、之ヲ遁レムガ爲ニ、第九十五條ノ規定ヲ設ケタリト云フ點ニ關シテ、前回ノ會議ニ於テ質問ノ際ニ此言葉ヲ御用ヒニナッタノデアリマス、憲法違反ノ看板コソ、好イ面ノ皮ダト思フ、近來、憲法違反、大權干犯ト云フ字ハ餘程ハヤツテ居リマスケレドモ、如何ニ流行ノ時代トハ申シナガラ、此裁判權ノ性質ニ關シテ自己ノ獨斷デ、自己之ヲ解釋シ、之ヲ憲法ニ自己ノ獨斷デ自己當嵌メ、之ニ反對スル者ハ、所謂鬼面ヲ以テ人ヲ威スモノデアアル、巧言ヲ以テ人ヲ欺クモノデアアルト云フコトハ、餘リニ過ギタル言葉デアアルマイカト考ヘル、私ハ如何ニモ政府ガ裁判ニ非ズト云フコトヲ斷言セラレザルコトヲ遺憾トスルノデアリマス、此機會ニ於テ松室博士ノ說ヲ紹介イタシマス、松室氏ハ陪

審制度ハ憲法問題デアナイ、訴訟法ノ問題デアルト、斯様ニ申サレテ居ル、而シテ事實ノ認定ハ裁判ナリト言フハ、畢竟日本ニ於テ今日マデ行ヒ來リタル所カラ言ヒ慣レ聞キ慣レ、サウシテ理由アル如クニ思ツテ居タノデアアルケレドモ、事實ノ認定ハ決シテ裁判デアナイ、斯様ニ申サレル、然ラバ何デアアルカ、陪審員ノ爲ス事實ノ認定ハ、一種ノ法律上ノ證據デアアル、斯様ナ斷定ヲセラレテ居リマス、言葉ヲ換ヘテ申シマスナラバ法律ヲ以テ裁判官ヲ拘束スル證據方法デアアル、斯ウ言ハレルノデアリマス、成程松室氏ノ御說ノ如ク、歴史ヨリ研究ヲイタシテ見マスレバ、訴訟法ノ發達ヨリ見マシテモ、裁判官ハ必ズシモ事實ノ認定及ビ法律ノ適用全部ニ付テ權限ヲ有セシ者デアアリマセヌ、陪審ハ裁判官ニ對シテ證據ノ力ヲ定メテ、之ヲ拘束スルノ原則トスルノデアアル、決闘ノ勝負ニ依ツテ曲直ヲ決スル、或ハ熱鐵ヲ握ラシメ、熱湯ヲ探ラシメテ正邪ヲ決スル、進ンデハ隣人ノ糾問法トナリ、更ニ進ンデハ拘束力ヲ有スル證人主義トナリ、鑑定人主義トナリ、遂ニ陪審制度トナッタノデアリマス、本法ノ九十七條ノ二項ニ於テ證據ノ文字ガ削ラレテ居ル、刑事訴訟法二百三條ニアル證據ノ文字、本法九十七條ノ二項ニ削ラレテアル、此削ラレテアル所以ハ、畢竟陪審ヲ以テ松室氏ノ所謂法律上ノ證據ト見ラレタト云フコトヲ證明スルニ足ルノデアリマス、富谷博士モ矢張り同様ノ意見ヲ有シテ居ラレル、何レニ致シマシテモ、事實ノ認定ノ裁判デアナイト云フコト、陪審員ノ裁判官デアナイト云フコトダケハ明カデアリマス、私ノ見ル所、先輩ノ見ル所ト異ナラナイノデアリマス、先般、土方博士ノ講筵ニ侍シマシタ、若槻氏モ御出ニナッタヤウデアリマス、陪審制度ニ對スル意見ヲ御述ベニナリマシタ、「サクソン」以來、英吉利ニ於ケル裁判所ノ發達、竝ニ裁判ノ區別、約二時間ニ互リテ講述セラレマシタ、結論ハ只一言、僕ハ陪審ニ反對デアアル、併ナガラ陪審ノ憲法違反デアルト云フコトハ申サレナカッタ、陪審問題ニ付テ一番強イ證據トシテ若槻君ノ力說セラレル所ノモノハ、憲法違反論デアアル、而シテ憲法違反論ノ資料トシテハ、自ラ事實ノ認定ハ裁判ナリト云フコトヲ獨斷セラレテノ御意見デアアル、何か若槻君ノ獨斷ノ說ニ從ハナイ者ハ憲法モ知ラヌ、裁判權ノ性質モ知ラス者デアアルカノ如キ口吻デ御演說ニナッタノデアリマスルガ、サウ其獨リ御決メニナツテモ、世間ガ御考ノ通りニ承知スルモノデアアルカナイカト云フコトニ御考慮ヲナサラヌト、折角ノ御論ニ多少ノ疵ヲ生ジヤシナイカト思フ、法制審議會ニハ財政家ハ居リマセヌ、財政家ハ居リ

マセヌガ、憲法學者、公法學者ハ可ナリ居リマス、而シテ一人ノ以テ憲法違反ナリ、事實ノ認定ハ裁判ノ一部ナルガ故ニ、陪審ハ憲法違反ナリト論シタル人ハナイノデアリマス、勿論是等ノ人モ私ト共ニ誤ッテ居ルカモ存ジマセヌ、我レ一人澄メリトシテ、若槻君ガ居ラレルノガ、眞ノ法律上ノ意見デアアルカモ存ジマセヌケレドモ、併シ是等ノ人々ハ學界ノ權威トシテ認メラレテ居ルノデアリマスカラ、先ヅ此方ヲ通説ト認メ、其然ラザルモノハ通説ニアラズト見ルノガ穩當デアアルマイカト考ヘルノデアリマス、其二ニハ陪審制度ハ憲法ノ條章ヲ規定セザルガ故ニ違憲ダト斯ウ云フ論デアリマス、私ハ淺薄ナル辭ヲ用キルコトハ欲シナイ、何トナレバ自カラモ淺薄ナルコトヲ知ッテ居ルカラデアアル、併シ若槻君ノ御演説ニ、可ナリ淺薄デアアル、反對論ハ淺薄デアアルト報ヒラレタモノモアルヤウデアリマスカラ、私ハ斯ノ如キ所ノ説ハ非常ナ淺薄ナ説デアアルト云フコトヲ申シテ置キマス、井上子爵ヲ引用シテノ意見ハ前段沿革上ノ理由ノ際ニ申述ヘテ置キマシタカラ、繰返スコトヲ致シマセヌ、憲法ニ規定シテナイ、其所以何ゾヤ、憲法ニ規定スベキ事項ニアラザレバナリ、憲法ノ規定ニ規定スベキ事項ニアラザルガ故ニ規定セザルナリ、訴訟法ニ規定スベキ事項ナルガ故ニ訴訟法ニ規定シタルナリ、是ナンデアリマス、成ルホド國ニ依リマシテハ憲法ニ規定シテ居ルノモアリマス、ナイト申サヌ、併シ規定セナイ國モアルノデアアル、規定セナイ國ニ陪審制度ヲ行ッテ居ッタナラ、其國ハ憲法違反ヲヤッテ居ルト言ヘルデセウカ、英吉利ハ勿論憲法ニ規定シテ居ラヌ、是ハマア不文法ノ國デアリマスカラシテ、當然ノコトデアリマス、若槻君モ之ニハ御異議ガナイ、白耳義ノ憲法ニモ、伊太利ノ憲法ニモ、諾威ノ憲法ニモ、瑞典ノ憲法ニモ、黑山國ノ憲法ニモ、塞維亞ノ憲法ニモ規定シテナイガ、御演説ノ趣旨ヲ承ハッテ見ルト、世界列國、凡ソ陪審ヲ採用スル國ニ於テ、憲法ニ、憲法ノ條章ニ之ヲ規定セザルモノナシト云フガ如キコトヲ御述ベニナリマシタ、私ノ唯今申述ベマシタル憲法ノ立法例ハ御諒承下サツタ上ノ御意見デアアルノデアリマセウカ、唯議論ノ勢ヲ付ケル爲ニ無イト言ッタナラバ、議論ニ強味ヲ生ズルト云フ御趣旨デアッタナラバ私ハ敢テ追究スルノ必要ヲ認メマセヌ、私ヲ以テ之ヲ見レバ此規定ハ之ヲ憲法ニ規定スルモ妨グズ、規定セザルモ妨グズ、假令訴訟法ノ事項ナリト雖モ、之ヲ嚴ニ規定スルモ之ヲ妨グズ、又規定セザルモ之ヲ妨グズ、憲法ハ國家ノ基本法デゴザイマスカラシテ、有ラユル法律ノ基礎原則ト云フモノヲ憲法ニ規定スルト

云フコトハ、必シモ不可デアナイノデアアル、併ナガラ其悉ク之ヲ規定セネバナラヌト云フ必要モ亦無イ、唯近代ノ國法論ガ全然裁判ト事實認定トノ分化ヲ唱道イタシテ居リマス點カラ考ヘテ見、尙ホ且ツ法律系統ノ實質上ヨリ見マシタナラバ、此二ツノモノハ區別シテ裁判權ヲ憲法ニ規定シ、其對象タル事實ノ認定ハ之ヲ訴訟手續ナルガ故ニ之ヲ訴訟法ニ規定スルト云フコトハ當然デアラウト思フノデアリマス、裁判ト訴訟手續トハ合セテ憲法ニ規定シタルハ勿論ナイトハ私ハ申サナイ、我カ立法竝ニ唯今讀上ゲマシタ、白耳義、伊太利、諾威、瑞典、黑山國、塞維亞等ノ憲法ハ、立法ハ之ヲ分化シ之ヲ區別シタルニ過ギナイノデアリマス、此分化、區別ノ主義ハ私ハ立法ノ進歩ダ、斯クナクテハナラヌト考ヘルノデアリマス、英吉利ノ如キ御承知ノ如ク人身保護ニ關スル訴訟手續ト云フモノハ寧ロ憲法第一編デアアル、政治組織ノ機關、政治組織ノ……政治機關ノ運用ト云フモノハ寧ロ第二編デアアル、即チ人身保護ニ關スル所ノ訴訟手續ハ憲法ニ定メタルデアリマス、併ナガラ其他ノ國ニ於テハ法律系統論ヨリシテ、之ヲ規定セルアリ、規定セザルアリ、我國ニ於キマシテハ間違ツテ居ルカハ存ジマセヌケレドモ、國法學上ノ分化ノ原則ヲ主トシ、尙ホ且ツ法律系統論ト云フモノニ重キヲ置キ、立法ヲ區別シテ居ルノデアリマシテ、私ハ憲法ニ規定スベカラザルモノ、憲法ニ規定スルヲ要セザルガ故ニ、訴訟法ニ規定スベキモノナルガ故ニ、訴訟法ニ書イテアル、憲法ノ條項ニアリヤウ管ハナイカラ、無イノダ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、假リニ陪審ハ憲法事項デアアル、斯様ニ解釋ヲスル、解釋ヲ致シマシテモ、條章ナキガ故ニ、憲法違反デアルト論ズルト云フノハ、是ハ非常ニ不當ナ解釋デアアル、凡ソ法ハ正義ヲ維持シテ、公益ヲ全ウスルガ爲ニ存スルモノデアリマシテ、其基準ハ正義ト公益トニ取ラネバナラヌノデアリマス、法ノ解釋適用ニ付キマシテモ、亦正義ト公益トヲ以テ基準トナサネバナラヌノデアリマス、成文法規ノ條文ハ、畢竟スルニ唯其基準ノ一ヲ示セルニ過ギナイノデアリマス、決シテ唯一ノ基準デアナイノデアアル、法ニ生命アリ、法ニ精神アリ、正義ハ法ノ生命ナリ、公益ハ法ノ精神ナリ、解釋法ハ此處ニ基準ヲ取ラネバナラヌト私ハ考ヘルノデアアル、殊ニ憲法ノ如キ最モ簡潔ナル文字ヲ以テ國家統治ノ基礎原則ヲ定メタルモノニアリマシテハ、他ノ總テノ法律ニモ倍シテ、條規條文ノ末ニノミ拘泥シテ、規定ナキガ故ニ、規定アルガ故ニ、ト云フコトデ、此法ノ生命精神ノ望ム所ヲ失ハシメテハナラヌコトト考ヘルノ

デアリマス、若シ憲法ノ條文ノミヲ標準トシテ、法文ナキモノハ總テ違反デア  
 アル、斯様ナ議論ガ立ツタナラバ地方自治制ハドウデアリマス、地方自治制  
 ハ憲法ノ何レノ條章ニモ規定サレテ居ナイ、憲法ノ何レノ條ニモ地方自治團  
 體ノ權利ハ認メテ居ナイ、地方自治ノ參與ハ憲法違反デアカト云ヘバ違反  
 デアル、憲法ノ條章之ヲ認メザルモノナリト云フコトガ言ヒ得ラレルデア  
 ウカ、領事裁判ハ如何、國際聯盟ト雖モ、憲法ノ條規ニ拘泥シテ議論ヲシタナ  
 ラバ多少ノ議論ハアルノデアリマス、更ニ甚ダシキハ委任立法デアアル、責任支  
 出デアアル、歴代内閣之ヲ行ヒ、委任立法、年トシテアラザルナシ、責任支出、年  
 トシテアラザルナシ、若槻君ハ大藏大臣トシテ臺閣ニ列セラレシ時、此責任支  
 出ニ付テ如何ナル御解釋ヲ御取リニナッタノデアリマセウカ、憲法ノ條章ニ規  
 定セズ、故ニ違憲ナリト云フ御議論ヲ爲スッタヤウニハ覺エテ居ラヌ、陪審制  
 度ハ訴訟法事項トシテ説明ガ立派ニ立ツノデアアル、又此訴訟法事項デアアルノ  
 デアル、然ラバ責任支出ハ如何ニ之ヲ解釋スルモ、憲法ノ事項ヲ離レテ解釋ハ  
 出來ナイノデアアル、若槻氏ハ憲法ノ條章規定セザルガ故ニ違憲ナリト仰セラ  
 レルナラバ……然ラバ責任支出モ憲法ニ條章ナキノ故ヲ以テ違憲ナリトノ説  
 ヲ今日ヨリ以後ハ御執リニナル御積リデアアルカ、伺ヒタイト思フノデアアル、憲  
 法ノ精神解釋論トシテモ、責任支出ナドニ付テハ隨分苦シイ辯解ヲ試ミネバ  
 ナラヌ性質ノモノデアアルノデアリマス、陪審制度ニ反對セムガ爲ニ反對セラ  
 レルト迄ハ申シマセヌケレドモ、併ナガラ憲法ニ條章ナキノ故ヲ以テ陪審法  
 ハ違憲ナリ、責任支出ハ憲法ニ條章ナシト雖モ違憲ニ非ズト云フ御議論デア  
 ルナラバ、是ハモウ御議論デアアルト云フコトヲ承ハッテ、君自身ノ御所見ニ矛  
 盾ノアルト云フ事柄ガ、ソレ自體ニ於テ證明サレルノデアリマスカラ、是ヨリ  
 以上申上ゲル必要ハアルマイト思フ、帝國憲法ハ固ヨリ陪審ヲ設ケルト云フ  
 コトニ付テハ何等ノ規定ヲ設ケテ居リマセヌ、地方自治制度ニ於キマシテモ、  
 内閣ノ制度ニ於キマシテモ、何等ノ規定ヲ設ケテハ居リマセヌ、ソレト同ジ事  
 デアリマス、條章ナキ故ニ憲法ハ陪審制度ヲ許サザル法意デアアル、法律ノ趣旨  
 デアルト云フヤウニ解セラレル人ニ向ヒマシテハ、最早之ヲ駁スルノ勇氣モ  
 私ハナイノデアリマス、帝國憲法ハ萬世一系ノ 天皇國家ヲ統治シ給フ大主  
 義ヲ經トシテ、諸文明國ニ共通セル立憲政治ノ原則ヲ緯トシテ編制セラレタ  
 モノデアリマス、ソレ故ニ此大精神ニ背馳イタシマセム限リハ、條章ノ有無ナ  
 ドニ拘ルコトハ必要ガナイノデアリマス、條章ノ有無ニ拘ッテ却テ此精神ヲ

失フコトノアル慮ノ大ナルコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、立憲政  
 治ノ健全ナル發達ヲ企圖スル精神ヲ以テ解釋サレレバ分ルノデアアル、然ル  
 況ヤ陪審ハ憲法事項ニ非ズシテ、訴訟法事項ナルニ於テヲヤ、又其憲法ニ規  
 定ナキハ當然ナルニ於テヲヤ、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、既ニ事實  
 ノ認定ハ裁判ニアラズト云フコトニ見ルノナラバ、然ラバ何故ニ之ヲ以テ裁  
 判官ヲ拘束シナイカ、九十五條ノ如キ規定ヲ設クルニ及バヌデハナイカ、斯  
 ウ云フ論ガ出テ參リマス、此論ハ勿論傾聴ニ値シ、又傾聴ニ値スルダケソレダ  
 ケ、私共ハ本條ノ最モ必要ナル所以ヲ説明シナケレバナラヌト思フノデアリ  
 マス、本員ヲ以テ見レバ此第九十五條コソ、本篇中第一ノ傑作デアアル、極メテ  
 陪審ニ關スル用意周到ノ規定デアッテ、此規定アルガ故ニ此陪審法ノ特色ヲ成  
 スノデアアルト實ハ思フノデアリマス、智者モ千慮ノ一失アリ、人誰カ過ナカラ  
 ムヤ、況ヤ常ニ必シモ其總テガ智者ニアラザル陪審員ニ於テヲヤ、此規定ハ眞  
 ニ斯カル場合ニ萬一ニ備ヘタル所ノモノデアアル、寧ロ之ヲ適用スル場合ハナ  
 イノデアアル、陪審員ニ對シテハ陪審員ノ心得ヲ裁判官ガ諭スノデアアル、此裁  
 判官ガ諭スト云フコトハ歐米ニ於テハ實ニ重大視セラレテ居ル所ノモノデア  
 ル、而シテ陪審員ハ若シ不當ノ認定ヲ爲シタナラバ、本條ニ依リテ再ビ他ノ  
 陪審員ニ移付セラレルコトニナル、即チ至正公平ノ認定ヲ爲サザルモノトセ  
 ラレルコトニナル、斯様ナル決定ヲ受ケテハ面目ヲ失フコトニナル、折角國家  
 ガ人格權ヲ尊重シテ陪審ヲ許シタルニ拘ラズ、此規定ノ決定ヲ受ケルヤウニ  
 ナッタラバ、國民ハ自ラ其人格權ヲ傷ツケルコトニナル、故ニ感情ニ支配セラ  
 レナイヤウニ、黨弊ノ觀念ニ驅ラレナイヤウニ努メネバナラヌ、避ケネバナラ  
 ス、之ヲ養ハシムルト云フ趣旨ガ即チ本條ノ精神ニ籠ッテ居ル所デアアルノデア  
 リマス、之ヲ再ビスル、或ハ三度スル、十回、十遍變ヘテモ、二十遍變ヘテモ差  
 支ナイデハナイカト云フガ如キ議論モ承ハッタヤウデゴザイマスルガ、斯ノ如  
 キハ立法モ豫想セザル所ノ極端論デアアル、立法ハ稀有ノ事柄ヲ想像セズ稀ニ  
 アル所ノ事柄ヲ想像セズト云フコトハ、立法上ノ學問ノ原則デアリマス成程  
 不當ト決定シタル場合ニハ幾回變ヘテモ宜イト云フ規定ニハ讀メルニハ相違  
 ゴザイマセヌケレドモ、之ヲ再ビシ三度シ四度シ十度スルト云フヤウナコト  
 ガゴザイマシタナラバ、ソレコソ國家ト民意ト疎隔ヲ來タシ、憂フベキ所ノ禍  
 ヲ喚ブデアラウト考ヘルノデアアル、國家權ト國民權トノ衝突程恐ルベキモノ  
 ハアリマセヌ、民衆ハ國家ノ裁判權ヲ尊敬シ、裁判權ハ民衆ノ意思ヲ尊重シ、

茲ニ司法ノ威信ト云フモノガ保タレル、裁判ノ威信ト云フモノガ保タレルノデアリマス、此用意周到ナル規定ガ九十五條デアリマス、若槻君ノ質問演説ニ於テモ承ハリマシタ、今日モ亦承ハリマシタ、迨ニ財政家ダケゴザイマシテ、ウマイト感シマシタ、ソレハ何デアルカト云ヘバ、十二人ノ陪審、是ガ無罪トスル、裁判所ガ不當ト認メテ他ノ陪審ニ移ス、其十二人モ亦無罪トスル、合セテ二十四人無罪トスル、三番目ノ陪審ニ移ス、是ハ有罪トスル、十二人ガ有罪トスル、斯ウ云フヤウナコトガアッタナラバドウスルカ、私ハサウ云フヤウナコトハナイ、サウ云フヤウナコトガアツタナラバ……サウ云フヤウナコトヲ豫想スルヤウナ心配ハ斷ジテナイ……民意ト國權ノ阻隔ヲ來ス、國民權ト國權トノ衝突ヲ來ス、裁判ニ關スル所ノ觀念ガ、裁判所ト民衆ト甚シキ距離ガ出ル、斯ウ云フヤウナコトガアリ得ルコトヲ想像シナイ、唯併ナガラ十二人ト十二人、合セテ二十四人、終リガ十二人、サウスルト云フト多數ノ方ノ無罪ハ遂ニ少數ノ有罪ニ破ルト云フ、數字の算術的ノ御研究トシテハ餘程御苦心ニナツタコトデアル、其御苦心ヲ多トスルニ止メテ置キタイト思ヒマス、而シテ若槻君ハ此九十五條ヲ以テ日本ノミニアル制度ノ如ク申サレタ、是ハ非常ナ間違デアル、殆ド世界各國無キハナシデアル、若槻君ノ曾テ御專攻ニナリマシタ佛蘭西ニ於キマシテモ、刑事訴訟法第三百五十二條ニ規定セラレテアル、被告人ニ犯行アリト認メラレタル場合ニ重罪裁判所ニ於テ陪審員カ形式ヲ遵守シタルモ本案ニ於テ誤リタルコトヲ承認シタルトキハ公判ヲ延期シ事件ヲ次ノ開期ニ移送シ更ニ新ナル陪審ニ付ス可シ、但シ新ナル陪審ニハ取消サレタル申立ニ參加シタル一人ノ陪審員ヲ加フルヲ得ス何人モ前項ノ處分ヲ請求スルコトヲ得ス、重罪裁判所ハ陪審ノ申立カ公ニ言渡サレタル後直ニ職權ヲ以テ之ヲ命令ス可シ

第二ノ陪審ノ申立アリタル後ハ重罪裁判所ハ其申立カ第一ノ申立ト一致スルトキト雖モ新ナル移送ヲ命スルヲ得ス

斯ウ云フ規定ガアリマス、而シテ一々ハ朗讀ヲ致シマセヌガ、唯國ノ名ト條文ダケヲ申シテ置キマス、獨逸刑事訴訟法第三百十七條、伊太利刑事訴訟法第五百九條及ビ十條、埃地利刑事訴訟法第三百三十二條、匈牙利刑事訴訟法第三百七十一條、是デアリマス、母法ハ斯ノ如クニアル、而シテ此規定コソ本法ノ特色デアツテ、陪審員ノ極メテ鄭重ニ其職務ヲ執ラムコトヲ欲スル、法ノ精神ノ現ハレテ居ル所ノモノデアル、而シテ母法存ス、併シ此母法ハ必ズ

一回ニ限ルコトニナツテ居リマスケレドモ、兎ニ角若槻君ノ言ハルル如ク、ドコノ世界ニモ無イ、斯ウ云フノデハナイ、何處ノ世界ニモ在ルノデアル、之ヲ申述ベテ置クノデアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 休憩ヲ致シマシテ、午後八時ヨリ開會イタシマス  
午後六時十四分休憩

午後八時三十五分開議

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス  
〔長書記官朗讀〕

本日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル左ノ政府提出案ハ本院ノ修正ニ同意シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

恩給法案

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

工場法中改正法律案可決報告書

工業労働者最低年齢法案可決報告書

船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案可決報告書

請願文書表第九回報告書

大正九年度歳入歳出總決算、大正九年度各特別會計歳入歳出決算審査報告書

本日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

水先法中改正法律案

災害地租免除法中改正法律案

所得税法中改正法律案

本日豫算委員長ヨリ分科擔當委員ノ兼務ヲ左ノ如ク決定セル旨ノ報告書ヲ提出セリ

第四分科擔當委員

第一分科兼務

本日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

大正十二年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)

大正十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

大正十二年度歳入歳出總豫算追加案(第三號)

大正十二年度特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)

大正十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第三號)

大正十二年度歳入歳出總豫算追加案(第四號)

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ先刻ニ引續キマシテ會議ヲ開キマス

〔若槻禮次郎君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 唯今花井君ガマダ……

○若槻禮次郎君 私ハ議事ノ進行ニ付テ御伺ヒシタイノデ

○議長(公爵徳川家達君) 若槻君ハドウ云フコトデスカ

○若槻禮次郎君 唯今定足數ガアルノデアリマスカ

○議長(公爵徳川家達君) アルト存ジマスガ……

○若槻禮次郎君 貴族院ノ定足數ハ何人アルト定足數ニナリマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 念ノ爲ニ調ベマセウ

○若槻禮次郎君 ドウゾ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 唯今定足數ハアルト存ジマシテ、開會ヲ宣告イタ

シマシタガ、二人足りマセスカラ、暫ク御待チテ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 本議場ニ居ラレマス議員ノ數ハ、百三十九デゴザ

イマスカラ、定足數ガアルト考ヘマス、花井卓藏君ニ先刻ノ續キノ發言ヲ許

シマス

〔花井卓藏君演壇ニ登ル〕

○花井卓藏君 憲法論ノ終リヲ告ゲムトスルニ當リマシテ、休憩ニ相成ツタノ

デアリマス、之ヲ尙ホ補充イタシテ置カウト思ヒマス、裁判ト申セバ既定ノ事

實ニ既定ノ法律ヲ適用スベキ形式的論理ノ結論デアル、是ハ既ニ繰返シテ申

述ベテ居ル所デアリマス、若シ反對論者ノ申ス如ク、裁判ニハ當然事實ノ認定

ヲ包含スルモノデアルトスルナラバ、即チ事實ノ認定ヲ包含セザル以上ハ裁

判ニハナラナイト云フ説ヲ正當ナリトセバ、之ヲ極ク嚴シイ言葉デ、裁判ハ法

律ノ適用ト事實ノ認定ナルニ要素ヨリ成ルモノデアルト云フコトニスルナラ

バ、事實ノ認定ヲ爲サズシテ單ニ法規ノ適用ノミヲ宣言スル裁判機關ノ行爲

ハ、裁判ト爲シ得ラレナイコトニナラケレバナラヌノデアアル、併ナガラ大

審院ニ於テ民事刑事事ノ上告ノ判決ヲ致シマシテ、事實ノ認定ハ致シマセヌ、致

サヌノミナラズ、事實ノ認定ヲ致スト云フコトハ是ハ違法デアアルノデアリマ

ス、其他民事訴訟法ニ於ケル認諾判決、外國裁判所ノ判決ニ對スル執行判決、

仲裁判斷ニ對スル執行判決、支拂命令、執行命令、假差押命令、假處分命令、訴

ヘ却下ノ判決、又刑事訴訟法中ノ第六十五條第一號乃至第六號ノ事由ヲ理

由トスル豫審免訴ノ決定、告訴ノ拋棄、又ハ訴訟條件闕缺ニ基ク豫審免訴ノ決

定、公訴不受理ノ判決、正式裁判申立棄却判決、其却下ノ決定、管轄違ノ判

決、免訴ノ判決、再審ノ訴ニ對スル判決、枚舉ニ暇アラズデアリマス、即チ裁判

ハ法規ノ適用ヲ宣言スルニ止マルベキモノデアツテ、事實ノ認定ハ裁判ノ内

容若クハ其要素ヲナスモノデアリナイト云フコトハ、現在ノ法律實ニ數限リナク

説明ヲ致シテ居ルノデアリマス、若槻氏ハ極メテ熱心ニ事實ノ認定ハ裁判ノ

一部ナリト云フコトヲ論ゼラル、併ナガラ根據ハ別ニ私ハ承ハラナカツタ、

單ニ斷定デアアル、唯一ツノ例デ示サレタ、ソレハ境界争ヒニ關スルコトデアリ

マス、是ハ直チニ法律ヲ以テ御答イタシマス、若槻君ノ御引例ニナリマシタ境

界争ヒノ事例ハ、民事訴訟法ノ上ニ於キマシテハ、多分確認訴訟ニ該當スルモ

ノデアラウト考ヘルノデアリマス、境界ヲ互ニ争ウテ、而シテ其權利確認ヲ求

ムルノ訴デアラウト思ヒマス、民事訴訟法ハ確認ノ訴ニ於キマシテ權利ヲ確

認スル、權利ノ確認即チ法律ノ宣言ヲ求ムルノ訴ハ、之ヲ許スノデアリマスケ

レドモ、事實ノ確認ノ訴ハ之ヲ却下スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、成

程境界ヲ互ニ相争フ、併ナガラ裁判所ガ法律ノ宣言トシテ致シマスル所ノモ

ノハ、此境界ヲ、汝ノ權利ニ屬セザルガ故ニ、或ハ汝ノ權利ニ屬スルガ故

ニ、確認スベシ、若クハ確認スベカラズ、權利確認ノ訴ノ外ニハ許サナイ、

裁判所ガ兩々ノ境界ノ争ヲ見テ、甲ノ境界ニ屬スベキモノデアルト云フ事實

ノ認定ヲ致シマシタ所デ、ソレハ事實ノ認定デアアル、其事實ノ認定ヲ前提ト

シテ、判決主文ニ於テ權利確認ノ宣言ヲ爲スニ非ザレバ、執行ノ效力アル裁

判トハ相成ラヌノデアリマス、之ヲ御答ヲ致シテ置キマス、尙ホ民事訴訟法

ヲ御調査ニナリマシタナラバ、私ガ辯論イタシマスヨリモ御了解ガ確カデア

ラウト存ジマス、憲法論ト名ヅクベキ程ノモノデハゴザイマセヌガ、事實ノ

認定ハ裁判ニ非ズト云フコトノ卑見ハ大要之ヲ以テ終ル積リデアリマス、私

ハ此機會ニ一言ヲ致シタイト存ジマス、陪審法ハ憲法違反ノ法律デアアル、諸

君ノ卓上ニ横タハッテ居ル其法律案ハ憲法違反ノ法律デアアル、斯ノ如クニ明白ニ斷定ノ付クベキモノデアアルナラバ、而シテ此說ヲ受取ルコトノ極メテ安全デアアルト云フコトデアアルナラバ、數時間ヲ費シテ媿々數萬言ヲ費ス必要ハナイ、理由ヲ十舉ゲル必要ハナイ、憲法違反ノ一ツデ澤山デアアル、憲法違反ノ一論ヲ提ゲテ、而カモソレヲ真中ニ挾ンデ、サウシテ兩々ニ九個ノ理由ヲ列舉シテ居ラルル所ニ、即チ此憲法違反論ノ弱イト云フコトヲ自ラ證明セラレテ居ルモノデアアルト云フコトヲ以テ結ビタイト思フノデアリマス、不肖ナガラ我々ハ憲法違反ノ法律ニハ協賛イタシマセヌ

〔ヒヤノ〕ト呼ヒ其他發言スル者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 成ルベク御静カニ願ヒマス

○花井卓藏君 今日我國民ハ裁判ニ對シマシテ果シテ信賴ヲシテ居ルデアリマセウカ、悦服ヲシテ居リマセウカ、國民ハ裁判ニ對シテ懷疑ノ念ヲ抱イテ居ラヌデアリマセウカ、恐怖ノ念ヲ懷イテ居ラヌデアリマセウカ、私ハ此點ニ於キマシテハ政府者ノ見ル所トハ違フノデアリマス、或ル人ハ我國現時ノ司法制度ハ聊カ佛蘭西革命前ノ司法狀態ニ類似スルモノガアルト云フヤウナコトヲ申シテ居ル人ガアル、而カモ是ハ大學ノ教授デアアル、人權蹂躪問題ハ幾度カ議會ニ運バレタノデアリマス、爲ニスル所アル世論、一種ノ有罪陪審ノ觀ヲ以テ爲ニスル所アツテノ世上ニ宣傳スル、人ヲ罪スル世論ニ迎合セムトスルノ流風ガ必ズシモ法廷ニ行ハレザルニアラズト私ハ信ジテ居ル、一人ノ被告、一人ノ證人ヲ、二十回三十回、左様ナル訊問ヲナシタ事例、是コソ世界ニナイコトデアアラウト思ヒマス、斯ノ如クニシテ何ヲ得ムトスルノデアアルカ、自白ヲ強要スルニアラザレバ、判事自身ノ獨斷概念ニ伴ハシメムコトヲ努メルノデアリマス、此流風ハ豫審ニ限ラズ警察ニモアリマス、檢事ニモアリマス、若槻君ガ前回竝ニ今日、壇上ニ於テ述べラレタコトヲ私ハ必シモ否定シナイノデアリマス、誠ニ怖ルベキコトデアリマス、私ハ陪審法ノ制定ニ因リテ此弊ヲ矯ムルノ途ニモ供シタイト存ジテ居ルノデアリマス、成程警察ト云ヒ、檢事ト云ヒ、豫審ト云ヒ、是等ハ陪審ハ勿論附セラレテ居ルノデアリゴザイマセヌ、然レドモ國家ガ法制ヲ立テテ、民意ヲ司法ニ問フノ陪審法ヲ制定シタ、若シ例ニ依テ例ノ如キコトヲ爲シ來タナラバ、公判廷ニ運バレタル場合ニ於テ實ニ重大ナル問題ヲ惹起スルデアラウ、慎マズンバアルベカラズ、此觀念ハ確カニ養ハシメ得ラレルノデアリマス、是ハ誠ニ從タル理由ノ

ヤウデハゴザイマスルケレドモ、此從タル理由ノ及ボス所ニ司法ノ改革ト云フモノハ私ハ、必ズ見ルベキモノガアルト信ジテ居リマス、今日國民ガ裁判ニ恐怖ノ念ヲ抱イテ居ルコトハ遺憾ナガラ私ハ認メザルヲ得ナイト思フ、若槻君ノ所論ノ如シト私ハ思フノデアリマス、此國民恐怖ノ觀念ヲ助長シ來リマシタ結果ハ如何デゴザリマセウカ、私ハ茲ニ敢テ論ズルコトヲ憚リマス、先帝ノ有難キ大御心ニ對シ奉リ恐懼セザルヲ得ナイノデアリマス、又東西ノ歴史ニ鑑ミテ寒心セザルヲ得ナイノデアリマス、國民ヲシテ裁判ニ恐怖ノ念ヲ抱カシメズ民意ヲ法廷ニ容レテ、直接ニ及ビ間接ニ、主タル理由從タル理由ノ上ニ、裁判ニ悦服歸服ノ端ヲ開カムトスルノガ即チ陪審デアリマス、然レドモ此度ノ陪審制度ハ之ヲ矯正セムガ爲ニ起リタルモノト私ハ申スノデハナイ、是ハ從タル理由デアアルト申スノデアアル、陪審ハ國民ニ司法上ノ人格權ヲ認ムルノデアリマス、人ノ良心ハ法律ヨリモ明快ナル解決ヲ與フルモノデアリマス、人ノ良心ニハ常識ガ宿ッテ居リマス、常識ハ實驗的眞實デアリマス、此常識ニ依リテ事實ヲ認定スル、之ニ對シテ裁判官ハ法律ヲ宣言スル、正義ヲ宣言スルノデアアル、百發百中セズト雖モ、國民ハ之ニハ満足スル、之ニハ諦メル、判事ノ獨斷認定ニ優ルヤ萬々デアリマス、私ハ國民ノ人格權ハ尊重イタシタイ、民意ハ尊重イタシタイ、法的國民權ハ立法司法二ツナガララ與ヘテ完全ヲ期シタイノデアリマス、然ルニ陪審制度ニ反對スル人ハ、例ヲ歐米ニ取り、歐米ノ陪審斯ノ如シ、弊害百出、未ダ行ハレザルノ日本ノ陪審亦然ラナムト云フ事柄ヲ豫メ斷定シテ證據トナスガ如キ事柄ハ、果シテ實證學ノ原理ニ副フモノデアアルデゴザリマセウカ、行ウテ利アリ、行ウテ害アリ、是ハ他日二期セヌケレバナラヌノデアアル、而シテ國運ノ進歩、民情ノ發達ハ斯ノ如キコトノナカルベキコトヲ我々ハ確信ヲ致シテ居リマス、又陪審員ノ人ヲ得ザルコトヲ憂ヘラル、ヤウデアアル、陪審員ハ誰ガナル、八兵衛モナル、太郎兵衛モナル、蠟燭屋モナル、葬儀屋モナル、斯ウ云フヤウナ御言葉モアッタヤウデアアル、又反對論者ノ多クハ之ヲ申スノデアアル、是等ノ人々ガ事實ノ認定ヲ爲スト云フコトハ、如何ニモ危險デハナイカト申スノデアリマスガ、私ハ學問アリ知識アリ、而シテ感情ノ強イ物知リヨリハ、冷靜公平ハ是等ノ者ニ依ッテ保タレベキモノデアアルト云フコトヲ確信スルノデアアル、八兵衛結構、太郎兵衛頗ル可ナリ、豆腐屋、葬儀屋結構デアアル、是等ノ人々ハ何ガ故ニ尊敬ヲ拂フ可カラザル

カ、是等ノ人々ニハ人格權ヲ認メズシテ可ナリト云フ理由ハ、別段ニ存スル  
 ノデアリマスカ、反對論者ノ言ハルル如ク人ノ人格ヲ職業ノ上ニ求メテ、之  
 ニ對スル尊敬ノ念ヲ減ズルト云フコトハ、私ハ喜バシイコトデアアルマイト  
 思フノデアアル、自治制ニ參與ノ權利ハ、是等ノ人々ハ持ッテ居ルノデアアル、民  
 意ヲ立法ニ現ハスノ機關ニハ携ハリ得ラレルノデアアル、民意ヲ司法ニ現ハス  
 上ニ於テ、之ヲ除外セネバナラスト云フ理由ハ、是ハ私ニハ解シ得ラレナイ  
 ノデアアル、然ルニ國民ハ陪審ヲ要求シナイ、陪審ノ何モノタルコトハ解シナ  
 イ、又何事ヲモ辨ジテ居ルモノトハ解セラレナイ、殊ニ法律ノ觀念ガ乏シイ、  
 危險デアアル、是ハ私ハ餘ホド御考ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、普通選舉  
 ノ要求ハ是ハ法的國民權ノ要求、之ヲ立法ニ求ムル者ハ、之ヲ司法ニ求ムル  
 者ナリ、立法ヲ知ル者ハ司法ヲ知ル者ナリ、況ンヤ之ヲ要求セズト雖モ、之  
 ヲ與フルハ先帝ノ御詔勅ノ上ニモ現ハレテ居ル通りデアリマス、政府ハ寧ロ  
 要求ニ先ンジテ、與フベキハ與ヘネバナラストモノト、私ハ信ジテ居ルノデア  
 ル、國民ハ陪審ノコトハ能ク心得テ居リマス、如何デゴザイマセウカ、國民  
 ハ、條約ノ效力ハ調印ニ依ッテ生ズルヤ否ヤ、批准ニ依ッテ生ズルヤ否ヤ、是  
 モ重大ナル問題ニハ相違ゴザイマセウカ、國民生活ノ上ニ交渉ガナイ、斯ノ如  
 キ事柄ニハ或ハ心得ガナイカモ存ジマセウカ、陪審、自己ノ生命身體  
 之ニ對スル所ノ裁斷ヲ受ケル、之ニ民意ヲ容ルル事柄ノ宜イカ、官僚ノ獨斷  
 ガ宜イカ、此位ノ辨ヘハ確カニ持ッテ居ルノデゴザイマス、私ハ茲ニ世ノ民  
 衆ノ逆襲、民ヲ侮蔑シタル結果ノ民衆ノ逆襲、是程怖ロシキモノハナイト云  
 フコトヲ俱レテ居リマス、私ノ卑見ハ尙ホアリマスルガ、時ノ關係ニ於テ此  
 程度ニ措キタイト思ヒマス、但シ一言尙ホ茲ニ申シタイ點ハ、此陪審法ハ完  
 璧ニアラズト云フコトデアリマス、御同感デアリマス、私ハ決シテ此陪審法  
 ガ其内容實質ニ於テ完全無缺ノモノトハ認メマセウカ、併ナガラ大凡最良ノ立  
 法ハ一度ニシテ完全スベキモノデアリナイノデアアル、必ズ漸次ニ改良ヲシテ其  
 完璧ヲ期セネバナラストデアリマス、此立法ハ完全無缺……併ナカラ之ヲ行  
 ヲテ其完全無缺ガ却テ適用ニ殃スル事實ガアルト云フコトヲ慮ラネバナラスト、  
 立法ノ制度ハ初メヨリ完璧ヲ期セザルニアリ、之ヲ行ッテ完璧ヲ期スルコト  
 ヲ事實ニ於テ求ムルコトニ存スルノデアリマス、未熟ナ案デアルト云フ御意  
 見モアツタヤウデアリマスカラ、之ヲ申上ゲテ置キマ、若君楓ガ御演說ニナ  
 リマシタル點デ、其重要ナル御意見ニ對スル駁撃ハ唯今ノ二ツノ理由ノ下ニ

隨所ニ陳述イタシタ積リデアリマスカラシテ繰返スコトハ致シマセウカ、唯  
 本案ノ條文ニ關スルコトニ付キマシテ、一二御參考ニ申述ベテ置キタイト思  
 フノデアリマス、條文ノ中デ九十五條ノ解釋ハ、全然若君楓ノ見ル所ト違フ  
 ノデ、此條文ノ精神ノ存スル所ハ、先程申上ゲタ通りデゴザイマスカラ、左様  
 ニ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス、又極メテ聲ヲ大ニセラレテ貧富ノ差別ヲ  
 立ツ、其條文ハ百七條デアアルト仰セラレタノデアリマス、是ハ實際ヲ御承知ナ  
 サラヌカラ起ルコトデアラウト思フ、成程條文ハ其通りデアリマス、ソレハ現  
 行刑事訴訟法ニ於キマシテモ、改正刑事訴訟法ニ於キマシテモ其通りデアリ  
 マス、原則トシテ百七條ノ如クニ定メテゴザイマセウカ、其請求ノアリ  
 タル場合ニ於テ、費用ヲ豫納セザル故ヲ以テ拒ムコトハ致サナイノデアリマ  
 ス、又今日マデノ事例ニ依リマシテモ、訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスト判文  
 ニハ書キマス、法律ニ基イテ書キマス、併ナガラ日本ノ裁判所ニ於テ、被告  
 トセラレタ所ノ者ガ、幾人此訴訟費用ノ負擔ヲシ、且ツ之ガ納付ヲ致シタル  
 モノガアルカト云ツタナラバ、眞ニ寂々寥々デアアル、實際ノ取扱上ヨリ立法セ  
 ラレタル次第デゴザイマス故ニ、法文ノ上カラ見ラレマシタラ、其御疑念ハ  
 御尤モデアリマスガ、憂ヒハナイノデアリマス、此案ノ沿革ヲ承ッテ見マス  
 ト、訴訟費用ニ關スル斯様ナ規定ヲ立テタイト云フコトモアツタサウデアリマ  
 ス、併ナガラ民事訴訟法ニ於テハ此規定ガゴザイマスガ、刑事訴訟法ニハ此  
 規定ガナイ、規定ナシト雖モ立派ニ運用ハ出來ルノデアリマス、陪審法ハ訴  
 訟法ノ一部ニ屬スルノデ、特ニ之ヲ掲ゲルノ要ハナイト云フノデ、此條文ハ  
 現ハレナカッタ次第デアアルノデアリマス、條文ニ關スル點ハソレダケデアリ  
 マス、若君楓ノ御議論中、此案ノ歴史ハ政治家ガ被告人トナッテ其苦痛ヲ訴  
 ヘタルニ基スルノデアアル、斯様ニ申サレマシタガ、サウデハナイ、是ハ先程  
 來モ陳述イタシマシタ通りノ理由デアリマス、又辯護士ノ仲間ノ希望ニ出デ  
 タモノデアアルト仰セラレタ、成程我々ハ仲間ノ中ニ屬スル所ノモノデゴザイ  
 マセウカ、辯護士仲間ノ希望デアアルト仰セラレタ此言葉ガ人格權ノ尊重ヲ傷ケ  
 テ居ルナゾトハ私ハ申シマセウカ、併ナガラ辯護士ノ希望ト云フコトハ是ハ大  
 ナル意味ガアルコトト私ハ解スル、何トナレバ法律ニ關スル……法律ニ關ス  
 ル在野ノ常設的國民ノ代表ト辯護士ヲ見ルト云フ事柄ハ、歐米殊ニ英吉利ナ  
 ドニ於キマシテハ然リデアアル、殊ニ之ヲ重ク見ラレテ居ルノデアアル、辯護士  
 ガ各般ノ被告人ニ接シ、其事件ニ當リ其苦痛ノ状態ヲ知り、民意ヲ司法ニ容

ルル必要ヲ實驗的ニ認メテ、而シテ之ヲ提唱スルハ、素人ガ總テノ事情ヲ審ニセズシテ意見ヲ立テルニ比シテハ、多少重キヲ以テ迎ヘラレテ然ルベキモノデハアルマイカト私ハ考ヘル、勿論辯護士ノ希望ノミニハ止ツテ居リマセヌ、一般國民ガ之ヲ望ンデ居ル、殊ニ裁判ヲ爲ス所ノ裁判官モ之ヲ望ンデ居ル、檢事モ之ヲ望ンデ居ル、一人ノ異議者ハナイノデアリマス、若槻君ハ公判ノ準備手續ガアル、豫審ノ手續ガアル、檢事ガ調ベル、警察ガ調ベル、即チ是ニ公判ヲ加ヘテ五ツトナル、之ニ依リテ事件ハ延滞ヲスルデアラウ、被告人ハ牢獄ニ長ク繋ガレナケレバナラヌデアラウ、誠ニ一應御尤モノヤウニ承ハレルノデアリマス、併ナガラ是ハ條文ノ上ニ於テ證明スルコトハ勿論出來ヌコトデゴザイマスガ、苟モ陪審制度ヲ立テテ、直覺的ニ直接心理ヲ判斷ヲシヤウト云フ事件デゴザイマスルカラ、公判準備ニ於テ相應ニ注意ヲ是ヘ拂ハレ、居ッタナラバ、其多クハ一日ニ於テ決審スルコトデアラウト私ハ考ヘルノデ、現ニ國事犯ノ如キ、騷擾罪ノ如キ、選舉法違反ノ如キ、人ノ數多クシテ而カモ煩雜ナル事件ハ省イテアリマス、其御心配ハ要ラヌデアラウ、又是ガ五回十回モ繼續スルヤウナコトデゴザイマシタナラバ、直覺心理ハ其日限り消エテ、後ノ直覺心理ヲ造ラナケレバナラヌト云フコトデハ、裁判ノ實績ト云フモノハ舉ゲルコトモ出來マセヌ、又眞ノ事實發見モ出來マセヌ、尙ホ公判ノ事件ニ誤判ガ今日マデナカリシナラバ、陪審ノ要ナキニアラズヤト仰セラレマシタガ、公判事件デ誤判ノアリシ事例ハ幾ラモアル……幾ラモアル、幾ラモアルト云フテ悉クアルト申スノデアリマセヌガ、我々ノ實驗ニ依リマシテ、實ニ驚クベキトコロノ不幸ニ際會イタサレタルトコロノ人ハ確ニアルノデアリマス、是等ハ必シモ陪審ニ依ッテ救フベキ唯一ノ途ナリト私ハ申スノデゴザイマセヌケレドモ、其陪審法ノ制定セラルル……民意ヲ司法ニ酌ムト云フコトノ制度ガ確立シタノデアルト云フ、此觀念ガ精神的ニ人々ノ頭ニ刻ミ込マレテ、此刻ミ込マレタルトコロノ精神ガ從來取リ來リタルトコロノ主義ヲ一擲スルト云フ效果ハ必ズアルベキモノデアルト云フコトヲ私ハ信ズルノデアアル、終リニ臨ミマシテ謹ンデ再ビ先帝ノ御詔勅ヲ捧讀イタシタイト思ヒマス、「賞罰ハ天下ノ大典朕一人ノ私スヘキニアラス宜シク天下ノ衆議ヲ集メ至正公平亮釐モ誤ナキニ決スヘシ」云々トアルノデアリマス、是ハ明治元年十二月七日會津藩主松平容保ノ死一等ヲ減ジサセ賜ヒタル誤デアリマス、即チ司法裁判ニ關スルトコロノ御詔デアアルノデアリマス、先帝ガ刑事裁判ニ關シテ、唯一

人ノ臣民ニ對シテ斯クモ有難キ寛大慈仁ノ御沙汰ヲ賜ハルト云フ所以ノモノハ、而シテ天下ノ衆議ヲ集メ云々ノ御言葉ヲ賜ハル所以ノモノハ、民意ヲ司法ニ酌ムニ於テ、最モ至公至正ノ期セララルモノデアルト云フコトヲ、御叡慮ノ上ニ置カセ給ヒタルトコロノ大御心ハ實ニ之ヲ捧讀スレバ、スル程私共ハ恐懼ノ至リニ堪ヘヌノデアリマス、謹ンデ御清聽ヲ汚シマシタル罪ヲ謝シマス  
〔男爵目賀田種太郎君發言ノ許可ヲ求ム〕  
○議長(公爵徳川家達君) 目賀田男爵ハ……  
○男爵目賀田種太郎君 本員ハ花井君ニ誠ニ簡單ナル質問ヲ致シタウゴザイマス  
○議長(公爵徳川家達君) 花井君ノ述べラレタコトニ付テハ質疑……、何卒其範圍ヲ越エヌヤウニ願ヒタイ、御質疑ダケニ願ヒタイ、御意見ハマダ御述ニナル機會ガアリマスカラ……御自席デ宜シウゴザイマス  
○男爵目賀田種太郎君 願ハクバ登壇イタシタイト存ジマス  
○議長(公爵徳川家達君) 御隨意デアリマス  
〔男爵目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕  
○男爵目賀田種太郎君 本員ハ花井君ニ對シテ二點質問イタシタウ存ジマス、最前ヨリ先帝ノ勅諭ニ對シテ御陳述ガアリマシタ、天皇ノ勅諭ヲ云爲シ奉ルノハ本員ハ誠ニ憚リマス、誠ニ恐縮ニ存ジマス、唯今ノ御述ベニナリマシタ勅諭ハ、刑法ニ關スル處分ヲ公明ニスルト云フコトニ歸スルノデアッテ、敢テ其結果トシテ刑法若クハ刑事訴訟法ノ細ヤカナモノデモ含マレタノデハナイト思ヒマス、何トナレバ同時ニ其先帝ノ勅諭ニハ、今國家ニ親臨シテ大義名分ノ洽カラザルコトヲ憾ム、是朕ノ不徳ニ歸ス、總テノ此責任ハ朕一人ニ歸スベシト仰セラレテ、ソレヨリシテ總テ公明正大ヲ尊ブト云フ御趣意ノヤウニ存ジテ居リマス、實ハ勅諭ノ事柄ヲ彼是申上ゲ奉ルノハ私ハ甚ダ恐縮イタシマスカラ、唯一點ヲ申上ゲテ、唯今御引キニナリマシタコトハ敢テ司法制度デ包含シタコトデハナイヤウニ思ヒマス、殊ニ明治創業ノ初メニ於テハ、諸般ノ制度定マラズシテ、其時ニ於テ種々ノ詔勅モゴザイマスレバ、種々ノ發令モゴザイマス、又國政ノ種々ノ施設モゴザイマシタ、或ル時ハ太政大臣初メ投票ニ依テ之ヲ選舉スルト云フコトマデアッタノデゴザイマシタサウ云フ古イコトヲ御引キニナリマシテハ、今日ノ場合ニ於テハ是ハ如何ノコトカト存ジマス、是ハ敢テ論議ノコトデアリマセヌガ、少々私ナドノ考ト

ハ違ッテ居リマスカラ唯伺ヒマス、此場合ニ於キマシテ敢テ御議論ヲ伺フ積リデハアリマセヌガ、唯御引用ノ上ニ於テ本員ノ思フ所トハ違ヒマスカラ、此點ヲ伺ヒマスルノデス、ソレカラ又參座ト云フ、是ハ明治ノ初年ニ於テハ刑部省ト云フモノガアツテ、マダ裁判所モ餘リ確立シテ居ラヌ、初メテ裁判所ガ出來テ、山口縣、鹿兒島縣ト此二ツニ初メテ裁判所ヲ置イタルガ如キ時ニ於テハ、非常ニ問題ニナツタ、況ヤ明治三年、明治六年ニアツテハ裁判官モ本當ニ確定シテ居ラナカッタ、殊ニ庶人ニハ拷問ヲスル、拷訊ヲ施ス、或ル犯罪ノ種類ニ依テ其犯人ガ士族デアッタナラバ拷問ハ出來ナイノデアリマス、最前御引キニナリマシタ例ノ如キ場合ニ於キマシテハ、其犯人ノ資格トシ、種々ノ事情ニ依リマシテ參座ヲ命ジタノデアリマス、是ハ寧ロ陪席判事ト云フトデアツテ、陪審ト云フトコトデハナイト思ヒマス、私ハ此所ニ於テ質問ヲ致シマスルノハ、敢テ陪審制度ニ反對ノ意ヲ述ブルト云フ譯デハナイノデ、ソレハ別ト致シマシテ、唯今マデ花井君ノ御述ベニナリマシタコトニ付テハ、事實ニ於テ私ノ承知イタシテ居ルコトト稍々齟齬イタシテ居リマスカラ、此邊マデ申述ベマシテ

〔副議長侯爵黒田長成君議長席ニ著ク〕

寧ロ花井君ノ聰明ナル明示ヲ受ケレバ幸ト思ヒマス、然ラズシテ若シ花井君ノ言フ如ク世間ニ傳ヘタナラバ、或ハ誤リヲ傳ヘヤシナイカト思ヒマスルノデ、念ノ爲メ此席ニ於テ質問ヲ致シマシタノデアリマス

○花井卓藏君 第一ノ御尋ニ對シテ御答ヲ致シマス、本員ハ此御詔勅ヲ引用イタシマシタ所以ハ、全ク民意ヲ司法ニ酌マセ給フ大御心ヲ拜戴シテ、而シテ民意ヲ司法ニ酌ム陪審法ノ行ハル、ト云フトハ、此聖旨ノ喜バセ給フ所デアラウト云フト信ジテ疑ハザル所ノモノデアリマス、御詔勅ハ刑事裁判ニ關スル御詔勅デアアルノデアリマシテ、男爵ノ仰セラルルガ如ク司法ニ關セヌモノデハナイノデ、松平容保ノ死一等ヲ減ジサセ給フノ御勅デ、全ク司法ニ關スル所ノ御詔勅デアアルノデアリマス、尙ホ第二ノ點ニ付キマシテハ是ハ私ノ先輩ニ對シテ甚ダ禮ヲ失スルカ存ジマセヌガ、參座ハ陪審ノ趣旨ニ於テ設ケラレタノデアリマシテ、男爵ノ仰セラル、ガ如ク陪席ノ意味デハゴザイマセヌ、是ハ先程ノ演説ノ一節ニモ引イテ置キマシテゴザイマスルガ、明治六年九月十五日司法大輔ヨリ司法大臣ニ對スル伺書、之ニ陪審ノ字ヲ用ヒタ、各國ニ於テモ裁判所ニ陪審ヲ備ヘ裁判ノ公ナルヲ證シ候義有之向後凡ソ人民ヨ

リ官ニ係カルノ詞訟且官ト官トノ間ニ起リ候争訟等ヨリ刑法裁判ニ及候節ハ正院左院或ハ大藏省等ヨリ其官員ヲ出シ陪審ノ任ニ備ヘ司法裁判ノ不公ナキヲ示シ度義ニ候云々、斯様ニ掲ゲラレテ居ル、勿論仰セノ如ク當時ハ府縣ニ於テ裁判モ致シテ居リマシタカラ、今日ノ如キ場合ニ於ケル裁判所ト趣ヲ異ニ致シテ居ルト云フトハ固ヨリ認メマス、併ナガラ京都府知事及ビ參事ノ被告事件、廣澤參議暗殺ノ被告事件ハ府縣ノ裁判ニハアラス、當然今日ニ於テモ申シマスル所ノ裁判所デ審判ニナツタト云フトハ御了承ノ通りデアリマス、目賀田男爵ハ司法部ニ在ラレ、我々ノ辯護士ノ先輩デモアリ、殊ニ明治初年頃ノ事例ニハ十分御通曉ニ相成ッテ居ルコトデゴザイマスルカラ、今日私ノ意見ニ對シテ御質問ヲ蒙リマシタト云フトハ非常ニ光榮ニ存ジマス

○男爵目賀田種太郎君 私ハ花井君ノ御意見ハ御意見トシテ傾聽シテ居ルノデアリマス、唯維新ノ創業ニ於キマシテハ皆何レモ立國ノ基礎ヲ固クシ、隆昌ヲ禱ルガ爲メ諸般ノ考慮ヲ盡シタ時デアリマシテ、斯ク申ス拙者ノ如キモ或ル時ハ陪審ノコトモ研究イタシタノデアリマス、ソレカラ參座ノコトモ非常ニ宜イコト、思ヒマシタコトガ、事實ハサウデナイノデアッタノデアアル、聊カ花井君ノ御論據ノ……餘リ今日ニ於テ見レバ違ッテ居ルコトモアルカト存ジマシタ爲ニ、一言申シタノミデアアル、其他ハ意見デアリマスカラ、茲ニ敬意ヲ表シテ私ハ措キマス

〔山脇玄君演壇ニ登ル〕

○山脇玄君 私ハ前議會ニ於キマシテモ今議會ニ於キマシテモ、本案ニ反對スル論者デアリマス、デ前議會ニ於テ反對ノ理由ヲ述ベ、今議會ニ於テモ質問ニ於テ略シ私ノ意見ハ申述ベテ居ルノデアリマスルカラ、オマケニ前二若槻君カラモ、重箱ノ隅マデホジクヤウナ議論ヲシテ、モウ遺憾ナイノデアリマス、ソレニ對シテ又花井君ガ今色々辯駁ガアリマシタカラ、私ノヤウナ聲ノ低イ、記憶ノナイ者ガ朗讀演説ヲスルコトハ、甚ダ諸君ニ御氣ノ毒ニ存ズルケレドモ、反對ヲスル以上ハ、ドウシテモ聊カ理由ヲ述ベサシテ貰ハナケレバナラス、ドウゾ暫ラク……決シテ長イコトハ申シマセヌカラ、御清聴ヲ煩シタイト思ヒマス、唯今花井君ハ流石其道ニ精シイ御方デアツテ、洵ニドウモ腹ヲ抉ルヤウナ御演説ガアリマシタ

〔議長公爵徳川家達君議長席ニ復ス〕

我々モ感服シタ、何モ今日ノ演説ニ感服シタノデハナイ、我々共ハ花井君ガ何時モ刑事訴訟ヲ辯護ヲ爲サル、ニ付テハ、感服シテ居ル一人デアル、其御方ガ此席ニ臨ンデ、憲法論ヲ喋々御述べニナリマシタ、私モ今日反對スル理由ハ、第一ガ矢張り憲法ニ抵觸スルト云フ論旨デアル、デアアルデアリマスルカラ、若槻君ニ對スル花井君ノ辯論ヲ一々私ガ辯明スルト云フコトハ逆モ出來ハスマイト思フ、又ソレヲシタナラバ今夜一夜掛ッテモ逆モ論ジ得ラレナイノデ、ソレハ私ハ若槻君ニ讓ル積リデアリマス

〔「簡短」ト呼フ者アリ〕

ケレドモ、憲法ニ反對スル以上ハ、花井君ノ憲法論ニ對シテ聊カ私ノ考ヲ述ベネバナラヌ、ソレデ花井君ノ言ハレルノニ……

〔「簡短」ト呼フ者アリ〕

裁判ト云フモノハ事實ノ認定ト、其事實ノ上ニ刑法ヲ適用スルトハ別デアル、ソレハ何デアリマセウ、當局モ言ハレルヤウニ、サウ云フ説ト、サウナイ説ト、二様アルト云フコトハ當局モ認メテ居ルデアリマセウカ、私ハソレヲ認メテ居ルデアアル、デ若槻君ハ即チ其事實ノ認定、其上ニ付テ刑ヲ適用スルノガ裁判デアルト言フ、私モ其論者デアアル、花井君ハソレニ反シテ、ソレハ別論デアアル、是モ矢張り獨斷的ノ解釋デアアリマセウカ、御互ニ獨斷的ノ解釋ヲ以テ争フタナラバ、幾ラ争フタ所デ論ガ盡キル譯デハナイ、ソレハ私ハ無用ナル論デアアル、刑事當局デモ是ハサウデセウ、一向論ガ決ッテ居ラヌ、二ツ説ガアルト言ッテ居ラレルデアアリマセウカ、其通りデアアル、私ノ淺學薄聞ナルサウ云フ二段ニ分ッテ説ト云フモノハ、ドウモ多數ニハアルマイト是ニ推測ヲ致スノデアアル、サウシテ花井君ノ言ハレルヤウニ、日本ノ習慣デハ兎角此二ツノ作用ヲ裁判トシテ居ルト云フデアアリマセウカ、我々モ其習慣ニ從ッテ居ル者デアアルカラ、ソレヲ論據トシテ喋々述べタ所デ、論ノ盡キルヤウガナイ、ソレハ私ハ餘リ咎メル必要ハナイト思フ、ソレカラ私ガ今一ツ辯ジテ置キタイノハ故井上子爵、井上子爵ハ如何ニモ地下デ御迷惑ニ思ハレルカモ知レマセウガ、井上子爵ハ皆様モ御承知ノ通り非常ニ熱心ナ方デ、サテ國事ニ關スルトナルト、晝夜ヲ分タズシテ働イタト云フコトハ、私ガ側ニ住ンデ居ッテ、夜中ドンドソノ戸ヲ敲イテ、夜中ニ是ハ明日外國人ヲ訪ネテ明日意見ヲ行ッテ來イト言ウテ、私ハ非常ニ獎勵セラレタ程非常ニ研究シテ居ッタ人デアアル、其人ガ意見ヲ書イタノハ刑事訴訟法ニ付テ書イタ意見デアラウガ、サウデナカラウ

ガ、ソレハ私ハ餘リ問フ必要モナイト思フ、兎ニ角井上子爵ノ例ヲ引クナラバ、陪審制度ニ反對スルト云フ意見ガアルトスレバ、ソレハ何モ刑事訴訟法ニ對シテ言フノデハナイ、我々憲法起草ニ對シテ言フノデアアル、サウ言フ説ヲ私ハ茲ニ今辯駁スル必要ハナイト思フ、兎ニ角伊藤公爵ガ健在ノ時分ニ、直接ニ私ガ聽イテ居ル所デハ、俺ガ憲法ヲ定メタノハ全ク井上ノ賜物デアアルト云フコトヲ申シテ居ラレルノデアリマス、其憲法ノ起草ヲシタ人ガサウ云フ論デアアルトスレバ、憲法起草ノ際デアアルト、刑事訴訟法ノ際デアアルト、ソレヲ問フ必要ハナイト思フ、ソレデ私モ前日ノ質問ノ時ニ、井上子爵ガ斯ウ申サレテ居ルト云フコトヲ實ハ話シタノデアアルガ、私ハ何モスツカリ是ハ刑事訴訟法ノ時ニサウ云フ論ヲ書イタノデアアルカ、或ハ憲法起草ノ時ニサウ云フ論ヲ書イタノデアアルカ、私ハソレハ考究シテ居リマセウ、兎ニ角井上子爵ハ陪審制度ニ反對デアッタト云フコトハ確カデアアル、デ其人ガ憲法起草ニ付テ殆ド晝夜ヲ厭ハズ徹夜シテマデモ常ニ勉強ヲシテ、憲法ノ草案ヲシタ人デアッタト云フ以上ハ、即チ矢張り憲法ニ於テ陪審制度ヲ許ス性質デナイト云フコトヲ私ハ信ジテ、少シモ誤リデナイト私ハ思フ、其他色々刑事訴訟法ヲ引キ花井君ガ辯ゼラレマシタガ、此習慣上、古イ參座トカ云フコトニ付テ、……私ハ此參座ト云フコトハ何モ陪審制度ノ發端デアアルトハ考ヘナイ、何故ナラバ官吏ガ即チ澤山集ッテ裁判スルト云フコトデアアル、其事件ガ身分ノ高尚ナル人ニ關スルトカ、或ハ重大事件デアアル場合ニハ、澤山ノ官吏ヲ集メテ審判サセルト云フノハ、ソレハ當リ前ノ話、即チ一人ノ裁判官ニ任シテハドウモ安心ガ出來ナイカラ、多數ノ官吏ヲ集メテ裁判スルト云フノガ、即チ其時ノ人情ノ然ラシムル所デアラウト思フ、之ヲ以テ今日ノ陪審制度ノ發端デアアルト云フコトハ、ドウモ私共ハ信ゼラレナイ、即チ見テ御覽ナサイ、其集ッタ人間ハ何カト云フト、矢張り官吏ノ集ッタモノデアアル、即チ裁判官ノ數ヲ増シタト少シモ變ッタコトハナイ、ソレヲ以テ今日ノ陪審制度ノ初端デアアル、若シ陪審制度ノ初端デアッタナラバ、ナゼソレヲ段々改良シテ、殊ニ憲法發布ノヤウナ場合ニデス、其陪審制度ヲ其場合ニ施カヌノデアアルカ、ソレホド人民ノ意思ヲ重ンゼネバナラヌト云フ制度デアアルナラバ、即チ其憲法發布ノ時分ニ、モウ既ニ陪審制度ト云フモノガ設ケラレナケレバナラヌノデアアル、ソレヲ設ケテ居ラヌヲ見ルト云フト、參座ト云フヤウナ制度ト云フヤウナモノノハ、唯其時ノ必要ニ應ジテ唯澤山、マア今カラ言ヒマスト、專任ノ裁判官ヲ

増シテ裁判ヲサセタト云フコトニ歸著スルト私ハ見タ方ガ宜シカラウト思フ、ソレカラ明治天皇ノ色々御趣意ヲ御引用ニナリマスガ、ソレハ私共ハ一々彼レ是レ申スノハ誠ニ恐縮ノ至ニ存ジマスケレドモ、私共ハ此五箇條ノ御誓文ヲ今日ハモウ日々精讀シテ感服ヲ致シテ居ル者デアリマス、五箇條ノ御誓文ノ中ニハ今日言フ所ノ「デモクラシー」式ガ悉ク包含シテ居ルト私ハ信ジテ居ルノデアアル、ソレハドウ云フ趣意デアアルカト云フト、政治ヲスルニハ民衆ノ意嚮ヲ本トセネバナラナイト云フコトニ歸著スルノデアアル、唯今花井君ノ引カレタ所モ、矢張りソレニ私ハ歸著スルト思ハレル、民衆ニ背イタ、民衆ノ心ニ背イタヤウナ裁判ヲシテハナラナイ、何モソレヲ以テ人民ノ代表ヲ司法ニ加ヘナケレバナラヌト云フ趣意ニマデ私ハ考ヘル必要ハナイ、サウ云フ御趣意デハナイト私ハ解釋シテ居ルノデアアル、唯民衆ノ意思ニ背イタ政治ヲシテハナラナイモノデアアルモノダカラ、第一ニ御覽ナサイ、萬機公論ニ決スベシト云フ一言デモ分ルシ、其外上下心ヲ一ニシテ經綸ヲ行フベシトアル、ソレカラ第三ニハ官民一途庶民ニ至ルマデ各其ノ志ヲ遂ゲ、人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス、舊來ノ陋習ヲ打破シテ天下ノ公道ニ基ク、知識ヲ世界ニ求メテ皇基ヲ振起スベシ、マア一々今日ノ世界ヲ唱フル所ノ「デモクラシー」式ガ即チチャント其中ニ含ンデ居ルト我々ハ考ヘル、モウ感服シテ、今日危險思想ガ恐シイトカ何トカ言フノハ、實ハ私共ハ如何カト思フノデ、此精神ヲ國民ニ徹底サレタナラバ、何モ露西亞ノ共產主義ヲ驚クニ及バヌ、無政府主義モ驚クニ及バヌ、「サンヂカリズム」ヲ驚クニ及バヌ、其精神ニ背カヌダケノ素養ヲ作ルト云フコトガ肝腎、私共國民教育ハ國費ヲ以テヤルベシ、ネ、教育ヲ受ケタクモ費用ノ無イ者ニハ、國費ヲ以テ總テヲ支辨シテヤレバ宜イ、今一ツハ普通選舉ヲ實行シテ國民ニ政治上ノ責任ヲ持タシメル、此二ツヲ完全ニシテ置ケバ、決シテ社會主義ヲ恐ル、ニ足ラナイ、社會主義ハアナタ方見テ御覽ナサイ、其思想ハ決シテ惡クナイ、政府ガ無イナラバ、無政府主義位結構ナコトハナイ、政府ガナケレバ我々租稅ヲ納メルニ及バナイン、サウデセウ、共產主義デアッテモ、總テ今ノ世界ノ財産ハ共有デアアル、決シテ惡イコトハナイ、其思想ハ善イガ、其思想ヲ實行スル土臺ガ出來テ居ルヤ否ヤト云フ問題ニアルノデ、其例ハ露西亞デアアル、露西亞ニ其主義ヲ實行シテ見タ、所ガマダ土臺ガ出來テ居ラナイ、殊ニ露西亞ト云フモノハ、人民ト云フモノハ非常ニ無教育、九十九マデハ教育ヲ受ケナイ

人民ガアルトマデ言ハレテ居ルヤウナ國民ニ持ッテ行ッテ、「レーニン」氏ガ共產主義ヲ行ハムトシタトテ行フコトハ出來ナイ、主義ハ宜シイガ、土臺ガ出來テ居ラナイカライケナイ、ダカラシテ斯ウ云フ主義ハ宜シイニハ宜シイガ、其土臺ガ出來ナイカライケナイト云フノデ、此思想ヲ國民ニ能ク涵養シテ置キサヘスレバ、何ニモ恐レルニハ足ラナイノデ、左様ナ譯デアリマシテ、唯今花井君ノ述ベラレタコトモ、私ハドウモ一々若槻君ニ對シテ花井君ノ所謂詭辯ト言ハレルノハ、花井君ガ言ハレルノヲ私共ニハ詭辯ニ聽ヘルノデアアルカラデアアルカラ、ソレヲ若シ此處デ私ガ代辯シテ、若槻君ノ代辯ニ辯ズルコトモ出來モセズ、ソレヲシタナラバ私ノ今夜言フコトハ盡キヌ、就眠出來ナイノデ非常ニ私モ迷惑ヲシ、諸君モ御迷惑ダカラ、私ハ之ヲ全ク止メテ、憲法論ハ私ガ第一ニ是デ反對セネバナラヌカラシテ言フ、憲法論ニ關スルダケハ花井君ニ向ッテ、ドウモ私共ハ賛成スル譯ニハイカナイ、ト云フノハ詰リ事實認定ト、其事實ノ上ニ於テ法律ヲ適用スルト云フノハ、是ハ別論デアリヤ否ヤト云フコトニ歸著スルノデアアル、是ハ即チ私共ハ餘リ能クハ知りマセヌガ、外國ニサウ云フ論ガデスネ、マア無イトハ申シマセヌガ、是ハ極ク新規ナ説デアルト思フ、マア普通ニハ諸君モ考ヘテ御覽ナサイ、裁判ト云ヘバ大岡裁判ガ一番宜イノデアアル、事實ヲ能ク調べテ、其事實調ト云フモノガデスネ、却テ其事實ノ上ニ法律ヲ適用スルノヨリモムヅカシイノデアアル、是ハ即チ今日言フト社會學、心理學、教育學ヲ、能ク裁判官ガ心得タ人ガ能ク其事實ノ認定ガ出來ルト云フ程ノ今日ハ世ノ中デ……歐羅巴デハ論ジテ居ルノデアアル、其方ガ却テムツカシイ、而シテ調バツタ事實ノ上ニ刑ヲ適用スル、其事實ノ認定ト云フコトガムヅカシクナル、ソレガ即チ大岡裁判ト云フモノガ能ク其事實ヲ認定シテ居ル、ト云フヤウニ、我國ニハ事實ノ認定ト、其上ニ刑ヲ適用スル、此二ツノ作用ガ名裁判ト云フノデアアルト云フコトハ私共疑ヲ容レヌ、ソレヲ花井君ガ段々科學ノ研究上カラソレヲ二ツニ別ケタ、ソレヲ出來ナイトハ私ハ申シマセヌガ、併シソレハ極ク新シイ説デ、花井君ナリ其他ノ法曹界ノ人が唱ヘラレル、決シテ私ハソレヲ非難スル譯デアナイケレドモ、其説ハ即チ其説デ御主張ニナルモ宜シイガ、我々共ハ古來ノ習慣ヲ重ンジ、又歐羅巴多數ノ例ニ依テ、事實ノ認定ヲシ、其上ニ刑ヲ適用スル、此二ツノ作用ヲ裁判ト云フ觀念カラシテ憲法違反論ヲ唱ヘル譯デアリマス、其邊ヲ一ツ御了承ヲ願フ、ソレカラモウ一ツ私茲ニ願ッテ置キタイノハ、私ドウモ老人

デ聲が低い、今一ツハ記憶力が悪クナツタ、デドウシテモ書イタ物ニ依テ話シ  
スルヨリ記憶が出来マセヌ、ドウカ其邊ハ一ツ御諒承ヲ願フテ置ク、デ私ノ此  
法案ニ反對スル理由ハ五ツアルノデアアル、デ此五ツノ理由ノ中デ……是ハ若  
槻君ガ殆ド言ヒ盡シタ、ソレニ對シテ花井君ガ辯駁ヲシテ盡キテ居ルヤウデ  
アリマスガ、ドウモ此上反對ヲスルト云フ以上ハ、聊カ理由ヲ述ベズニハド  
ウシテモ良心ガ承知イタシマセヌカラ、暫ク重複スルカ知レマセヌガ、諸君  
ノ御静聽ヲ煩シタイノデアリマス、デ第一ニハ憲法ト陪審法トハ兩立セヌ  
ト云フ理由デ反對スル、第二ハ理想ト實際トハ相反スルト云フノハ政府當  
局ハ何時デモ是ハ理想デアルカラ是非實行セネバナラヌト云フケレドモ、其  
理想ガ案外事實ト反對スルト云フヤウナコトヲ聊カ申述ベタイノデアアル、ソ  
レカラ第三ニハ是ハ政府當局ハ餘リ主張ヲナサラスケレドモ、前議會ニ於テ  
ハ政府當局ハ明カニサウ申シテ居ル、ソレハ人權蹂躪沒常識ノ裁判ヲ防グ爲  
ニ陪審制度ヲ設ケルト云フコトハ、今日ノ政府委員ハ餘リ主張ナサラスケレ  
ドモ、前議會ノ政府委員ハ大ニ之ヲ主張シテ居ル、ソレデアレバコソ、此陪  
審制度ヲ設ケルト云フ理由ニナツテ居ルノダカラ、矢張り私ハ人權蹂躪沒常  
識ノ裁判ヲ防グニハ、他ニ良法ガアリハセヌカト云フ理由デ反對スル、ソレ  
カラ第四ニハ此法案ヲ實行シタ曉ニハ、意外ノ結果ヲ見ハシナイカト云フ此  
理由、ソレカラ第五ニハ斯ル無用ノ經費ガアツタレバ、生産工業ニ充テタ方  
ガ宜シイデハナイカ、宜シイドコロデハナイ、其費用ニ充テネバナラナイト  
云フ理由デ、極ク簡單ニ一ツ理由ヲ述ベテ見タイト思フ、憲法ト陪審法ト兩  
立セヌト云フ理由ヲ、簡單ニ私ノ考ヘル所ヲ申シマスレバ、陪審法ノ名實ヲ、  
名ト實ヲ完カラシメムトスレバ、ドウシテモ憲法ト牴觸スル、其名義カラ見  
ルト、讀ンデ字ノ如ク陪審ト云フノデアリマスカラ、普通ノ人が陪席ヲシテ  
審判ヲスルノデアルト解スルト、モウ直接ニ憲法ト背反スル、是ハ名義上カ  
ラ申ス、實質上カラ申スト、一面ニ於テ陪審ノ意見ト裁判官ノ意見ト合致ス  
ルコトガアル、ソレニハ合致セヌ場合ガアルニ相違ナイ、合致スル場合ガ  
アル、其他面ニハ合致セヌ場合モアルニ相違ナイ、此場合雙方ノ意見ガ合致  
セヌ場合ニ於ケル裁判ハ、相互ノ意見ノ合致シタヤウナ外觀ヲ呈スル、意見  
ガ一致シタヤウナ外觀ヲ呈スルモ實際ハサウデナイ、裁判官ガ陪審ノ意見ニ  
從ッテ局ヲ結バネバナラナイト云フコトニナルノデアアル、サウデアアル、サウ  
デセウ、何遍モ意見ガ違フト云ウテ陪審ヲサウ替ヘル譯ニハ行クモノデナイ、

先ヅ一度ハ替ヘテ見テ、矢張り前ト意見ガ同ジデアッタラバ、裁判官ガ其意  
見ニ從フト云フコトニナルノデアアル、デアルカラ是モ等シク憲法ト牴觸スル、  
言葉ヲ換ヘテ言フト、ソレハ精神上ニ於テ牴觸スルト云フテ宜カラウト思  
フ、斯カル憲法ト陪審法ハ一致スル譯ノモノデハナイ、ト云フヤウナ兩立スベ  
カラザルモノヲ、人爲ヲ以テ之ヲ調和セムトスルノハ、丁度水ト油トヲ混合  
セムトスルヤウナモノデアラウト私ハ思フノデアアル、其不可能ナルコトハ多  
言ヲ要セズ、明々白々火ヲ賭ルヨリモ明カデアアル、斯様ニ調和ノ出來ナイモ  
ノヲ無理ニ調和セシメムトスルモノハ世上幾ラモアル、私ガソレニ付テ一番  
感シタ一二ノ例ヲ申シテ見マスルト、或ル文學博士ガ我が家族制度ノ崩壞シ  
テ行クノヲ憂フルノ餘リ之ヲ恢復シテ、維持セムトシテ、家族制度ト個人主  
義トヲ調和セムト試ミテ居ルノデアリマス、是ハ現在アルノデアアル、ソレガ  
現在錚々タル文學博士ガサウ云フ説ヲ主張シテ居ルノデアアル

〔「簡單」ト呼フ者アリ〕

私ハ其人ト議論ヲシタコトガアルノデアアル

〔「簡單々々」無用々々ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 一度議題トシテ議長カラ許サレマシテ發言シテ居  
ル間ハ其演説ノ長短ノ御註文ハ聊カ不穩當ト考ヘマス

〔「ヒヤ」ト呼フ者アリ〕

○山脇玄君 私ハ長ク申シマセヌ、ケレドモ反對スル以上ハ聊カ理由ヲ述ベ  
サシテ貫ハニヤ、ソレハ仕方アリマセヌ、或ル文學博士ノ申シマスルニ我が  
家族制度ノ崩壞ヲ憂フルノ餘リ之ヲ恢復維持セムトスル爲ニ、家族制度ト個  
人主義トヲ調和セシメムト試ミタノデアアル、其言フ所ニ依ルト、家族制度ノ短  
所ハ個人主義ノ長所ヲ以テ補ヘバ宜イデハナイカト力説シテ居ルノデアアル、  
然ルニソレハ我々ガ見ル所デハ無理ナ出來ナイ相談デアルト言ハナケレバナ  
ラヌ、家族制度ノ短所ト言ヘバ申スマデモアリマセヌ、家長ノ全權ノ下、支  
配ノ下ニ纏メテ置カウトスルノデアアル、ケレドモ世ノ中ト云フモノモ皆經濟  
事情ノ變遷ニ依テ變化シテ行クノデアアル、是モ同ジク經濟事情ノ變遷カラ、  
世ノ中ニ於テハ到底行ハレル筈ハナイノデアアル、已ムヲ得ズ個人主義ノ長所  
ヲ以テ之ヲ補ハムトスルノガ即チ其文學博士ノ主張デアアル、然ルニ個人主義  
ノ長所ト言ヘバ

〔「問題ニ觸レテ願ヒマス」ト述ブル者アリ〕

問題ニ觸レテ居ル、斯ウ云フ工合ニ調和スベカラザルモノヲ調和サセヤウト云フ實例ヲ申スノデアリマスカラ御猶豫ヲ願ヒタイノデス、ドウゾ宜シク……個人主義ノ長所ト申シマスレバ、個人ガ各、獨立シテ其好ム所ニ進展セネバナラスノデアルカラ、到底家長ノ全權ノ下、支配ノ下ニ止マラセル譯ニハイカヌコトハ是亦明白ナコトデアリ、現在ノ事實デアアルノデアル、ソレカラ今一ツハ我國ニ於テハ兎角個人主義ト利己主義ト……

〔陪審ニ何等關係ハナイト述フル者アリ〕

アリマス、ト云フモノハ調和スベカラザルモノヲ調和サセルト云フコトガイケナイ

○議長(公爵徳川家達君) 議員ノ演説デ不穩當ノコトガアレバ議長ガ制止シマス、御謹聽ニ相成ルノガ穩當ト考ヘマス

○山脇玄君 サウ云フ理由ヲ以テ是ハ御話ヲスルコトハ是ハ仕方ガアリマセヌ、ソレハ少シ御寛容ヲ願ヒタイ、私ハ奇ヲ好ムト云フノデハナイ、サウ云フ例ハ幾ラモアル、兩立スベキモノヲ兩立サセナイヤウニスルノガ不可能デアアル、モウ是デ濟ムノデスカラ、サウ別ニ御止メニナラヌデモ、モウ深山ニ申シマセヌ、個人主義ト利己主義トヲ混淆シテ居ルト云フノガ、是ガ又我國民性ノ一ツノ弊デアアルト思フノデアアル、個人主義ト利己主義ト云フモノハ全然別個ナモノデ決シテ混同シ得ベキモノデハナイ、一言ニ申シマスレバ、個人主義ハ自己ノ人格ヲ重ンズルト同様ニ、他人ノ人格ヲ重ンズル、自己ノ利益ヲ計ルト同時ニ他人ノ利益ヲモ顧ミル、是ハ個人主義ノ骨子デアアル、利己主義ハドウデアアルカト云フノニ、サウデハナイ、自己ノ利益ヲ計ルニ急ニシテ他人ノ利益ヲ少シモ顧ミナイト云フヤウニ、其間ニハ判然タル區別ガアル、今更言フマデモアリマセヌ、憲法ト陪審制トハ實質ニ於テ兩立スベキモノデアアツテ、互ニ調和スベキモノデハナイコトハ、丁度今申シマシタ例ニ照シテ兩立スベキモノデアアツテ、調和スベキモノデナイト云フコトト私ハ殆ド異ル所ガナイト見テ居ルモノデアリマス、ソレカラ是ハマア憲法論デ……第二ニハ理想ト實際ト相反スル、當局ノ言ハレルヤウニ司法ニ國民ヲ参加セシムルト、司法ニ對スル國民ノ信頼ヲ厚ウスル、斯ウ云フ理由ニナツテ居リマスガ、ソレハ私カラ見ルト却テ不信頼ノ土臺ヲ造リハセヌカ、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、先ヅ理論上カラ申シマスルト云フト、國民ヲシテ立法行政……行政ト云ウテモ自治制度ダケノ話デアリマス、立法、行政ニ參與セシム

ルコトハ、個人ノ自覺ニ伴ウテ廣ク民衆ニ之ヲ許スベキト云フコトハ、是ハ當リ前、當然デアアル、ケレドモ司法ニ普通人ヲ参加セシムルト云フコトニ至ツテハドウデアリマセウカ、此點ガ我々ノ最モ疑フ點デアリ、即チ激シク露骨ニ申シマスルト云フト、却テ司法ニ對スル國民ノ信頼ヲ薄クシハシマイカト云フコトニナルノデアリマス、ソレニ付キマシテハ色々説ガアリマスルガ、私ハ英國ノ國民ノ心理状態ト、佛蘭西國ノ國民ノ状態トヲ比較シテ少シク辯シテ見タイ、他ニモ色々説ハアリマスケレドモ、主ナル理由ハ其點ニ於テ、英國ニ於テハ先ヅ今日マデ起源以來……其源ヲ作ツテ以來、今日マデ格別ノ議論アリ、實際ニ於テハ色々變更ハアリマセウ、是ハ土方博士ノ專門デ、能ク御調べニナツテ居リマセウ、私共能ク調べテ居ラヌガ、兎モ角モ實際ニハ幾分變更ハアリマセウガ、兎モ角モ今日マデ平穩無事ニ成立シテ居ルト云フ即チ國民ト、之ヲ革命時代ニ模倣シテ、其時ノ裁判官ノ專横ヲ抑制スル爲ニ取ツテ來タ佛國トノ間ニ、非常ナ差ヲ生ジテ來タト云フコトハ、抑々何デアアルカト云フト、詰リ國民ノ心理状態ニ依ルト云フ説ガ私共ハ一番適切ナモノデアラウト思ヒマス、其點ヲ聊カ辯ジテ見タイ、元來是ハ前論者モ觸レラレタヤウニ、英國ノ國民心理ト佛人ノソレトハ大ニ其状態モ異ニシテ居ルノデアリマス、佛國ニ於テハ英國ノ陪審ヲ取入レタモノデアアルニ拘ハラズ、其結果ヲ異ニスルコト恰モデス、佛國ノ立憲政體ガ英國カラ輸入サレタモノデアアルノニ、ソレト趣ヲ異ニスルト同ジヤウニナルデアラウト思ハレルノデアリマス、デ英人ハ元來犯人ニ對シテ餘程嚴酷デアアル、然ルニ佛人ハ寧ろ犯人ニ對シテ感情ニ脆ク、同情ヲ寄セル傾キガアル、ソコデ或學者ハ言ツテ居ル、陪審制ハ……陪審制度ハ英國デアアツタナラ、ウマク運用シテ行ケルケレド、佛國ニ持ツテ來テハ到底駄目デアアル、斯ウ言ツテ居ル、次ニ英國ノ陪審員ハ自分デ裁判ヲスルト云フ意氣込込有ツテ居ル、陪審員ガ其決定ヲ言渡スニハ、自分ハ社會ノ爲ニ犯人ヲ裁判シテヤルノデアアルト云フ氣分ヲ持ツテ居ル、社會ノ爲ニ自分ハ裁判ヲスルト云フ氣分ヲ有ツテ居ル、然ルニ佛國ノ陪審員ハサウデナク、裁判官ガ何カ無理ヲシナイカ、餘リ苛酷ニ失シハシナイカ、ソレヲ一ツ監督シテヤラウト云フ意氣込込即チ有ツテ居ル、九デ違フ、斯様ニ英國人ト佛國人トノ意氣込込全然相違シテ居ルノデアアル、英國人ハ裁判官ヲ遠慮セズ助ケルト云フ態度ヲ取り、自分ガ裁判官デアルト云フ氣分ヲ事ニ當ルノニ、自分ハ其席ヘ出レバ裁判官デアルト云フ氣分ヲ取ルノニ、佛國人ハ裁判官ニ

對抗スル、裁判官ニ對抗スル態度ヲ執ルノデアル、又英人ハ個人主義、是ハモウ諸君ノ御承知ノ通り、英國人ハ個人主義、佛國人ハ何ト云ウテ宜シイカ、社會主義トデモ申シマセウカ、英人ハ自分ト云フコトニ重キヲ置イテ、自分デ働クト云フ考ヲ有ッテ居ル、然ルニ佛國人ハ民衆的ノ考ヲ持ッテ居ルト稱セラレナガラ、自分デ働クト云フ考ガ少イ、矢張り社會ト共ニ行動スルト云フ考ガ多イ、英人ハ個人ニ重キヲ置イテ何處マデモ自分ヲ主ニシテ考ヘルケレド、佛人ハドウモ自分ヲ單獨ニ信用ヲシナイ、ソレヨリモ社會全體ガ權力ヲ以テ働クトカ、行動スルトカ云フヤウニ個人自身ニ自主ノ考ガナイトシカ思ハレナイ、是等ガ陪審ノ運用上ニ重大ナル影響ヲ及ボシテ居ルダラウト思ハレルノデアル、言葉ヲ換ヘテ申シマス、佛人ハ無責任ト云フコトニナル、多數ガ雷同的ニ行動スルノミデアル、然ルニ英人ハ何ノ事ニモ責任ヲ重ジテ立派ニヤリ遂ゲルト云フ、トニールノデアリマス、ソレ故英國ノ陪審ハ英國ニ於テコソ良イ實果ヲ結ブコトガ出來ルデアラウガ、之ヲ以テ直チニ其他ノ國ニ於テモ、同様ノ效果ヲ收メ得ルト速斷スル譯ニ行カナイ、此制度ヲ採ラムトスル各國ハ先ヅ其國ノ國民ノ心理状態ヲ能ク考究シ、英國ノソレト對照比較シテ初メテ採否ヲ極メネバナラナイノデアル、若シサウセズシテ其理想形態ノミニ懂ガレテ、輕々ニ之ヲ輸入シヤウモノナラバ、必ズヤ佛國ナドニ於テ、現ニ論議セラレツアルヤウナ全廢說ヤ、改造說ニ惱マサレル如キ失敗ヲ見ルヤ明カデアル、ソレデナゼ英人ト佛人トノ比較ヲ、私ガ茲ニ持チ出シタカト云フニ、我國ノ國民ノ心理状態ハ如何デアリマセウ、私ハ殘念ナガラ、我ガ殊ニ今日思想動搖ノ際、體育ノ不十分ノ國民、餘程神經質ニナッテ居ルト思フ、サウ云フ國民ノ心理状態ハ、英國人ノ心理状態ニ比較スルヨリハ、佛國人ノ心理状態ニ私ハ似テ居ルト云フコトヲ感ズルノデアリマス、ソレデ英國人ト佛國人トノ心理状態ノ比較カラ、學者ノ論ジテ居ル說ヲ茲ニ持出シタ次第デアリマス、サウ云フ人民ヲ司法ニ加ヘテ、サウシテ益、司法制度ニ對スル國民ノ信賴ヲ厚ウセムト欲スルノハ大イニ間違ヒハシナイカト思フ、ト云フノハ詰リ斯様ナ英國人ヨリハ佛國人ニ似タヤウナ感情的ナ人民ヲ司法ニ加ハラシタナラバ、今日ヨリハヨリ以上ノ事實ニ適切デナイ裁判ヲスルト私ハ考ヘルノデアリマス、ソレデアアルカラ理想的ノ豫想ハ實際ニ反對スルト云フノハ、サウ云フ譯デアリマス、司法ニ對スル國民ノ信賴ヲ厚ウスル爲ニ人民ニ司法ノ參與ヲ許セバ、却テ今日マデノ國民ガ司法ニ對スル信賴ヨリ

モ國民ハ失望スル、即チ薄クナルト云フ所ヲ申上ゲル積リデアリマス、ソレカラ人権蹂躪沒常識ノ裁判ヲ防グニハ他ニ良法ガアル、是ハ今日ノ司法當局者ハ餘リ主張ヲナサラヌガ、前議會ニ於テ私ガ質問ヲシタ場合ニハ、現ニ司法當局ガ人権蹂躪沒常識ノ裁判ガアレバコソ陪審制度ヲ採用スルノデアルト云フコトハ明白ニ答ヘテ居ルガ、ソレハソレトシテモ、此先刻若槻君ノ言フヤウニ、或ル政治家、在野法曹家ノ陪審制度ヲ唱ヘルノハ全ク此一點ニアル、人權蹂躪沒常識ノ裁判ヲ防グ爲ニ陪審制度ヲ設ケナケレバナラヌト云フノハ、是ハモウ在野法曹界、花井君モ其一人デアル、ケレドモ花井君ノ論ハ憲法論デ、全ク解釋ガ違フカラ、是ハ引付ケル譯ニ行キマセヌガ、併ナガラ花井君モ錚々タル在野法曹デアル、其人ガ唱ヘルノハ人權蹂躪沒常識ノ裁判ヲ防グニハ陪審制度ヨリ外、良法ガナイト云フコトニ歸著スルノデアリマス、其點ニ付テ私ハソレヲ防グニハ他ニ方法ガアル、逆モ陪審制度ヲ以テ防グルモノデアルマイ、斯ウ云フ考ヲ有ッテ居リマスカラ、其點ヲ聊カ辯シテ貫ヒタイ、第一ニ在野法曹界デハ主トシテ檢事ノ、即チ警察官、檢事ノ人權蹂躪ガヤカマシクナッテ居ルノデアル、此情弊ヲ矯メル方法トシテ陪審制ヲ設ケムト主張シテ居ル、ケレドモ之ヲ設ケテ果シテ此情弊ヲ矯メルコトガ出來ルデアリマセウカ、是モ前論者ノ言フ通り到底出來ナイ、之ヲ矯メルト云フコトデアレバ、我々ハ贊成ハシナイガ、英國ノヤウニ矢張り起訴陪審、大陪審ヲ設ケネバナラヌノデ、今日ノ陪審ハ公判ニ付テノ陪審デアアルカラ其陪審デ以テ此人権蹂躪ノ時弊ヲ矯メル譯ニハ行カナイノデアル、ソレハマアサウト致シマシテ、今ヤデス、是ハ質問ノ際ニモ簡單ニ述ベマシタガ、刑事訴訟法ガ改正サレテ今ヤ將ニ實施セラレムトスルノデアル、此刑事訴訟法ヲ見テ見ルト云フト餘程人權蹂躪ト云フコトノ道ガ塞ガッタ、人權蹂躪ノ出來ナイヤウニ餘程用意周到ニ革新サレテ居ルノデアル、其事柄ヲ少シ申シテ見レバ、現行法デハ檢事ノ捜査手續ニ關スル……檢事ノ捜査手續ニ關スル法文極メテ不完全デアッテ、是ガ何時デモ人權蹂躪ノ原因トナルノデアリマス、デ新法ハ、改正ノ刑事訴訟法ハ、其捜査手續ニ用意周到ナル制限ヲ附シテ強制力……

〔「簡單」ト呼フ者アリ〕

イヤ、モウサウ長クハヤリマセヌ、モウ暫ク……檢事ノ強制力ヲ振廻スコトヲ絕對ニ許サヌコトニシテアル、是マデノヤウニ檢事ノ被告人ニ對シテノ強制力ヲ絕對ニ許サヌコトニナッテ居ル、唯被告ガ逃走スル虞レガアルトカ、或

ハ證據ヲ湮滅スルト云フ虞レガアル場合ニ限ツテ、ソレモ自分デ捜査スルノデハナイ、裁判官ニ頼ンデ捜査ヲシテ貰フ、其裁判官ノ調査シタ材料ガ控訴ノ根本……控訴ノ根本トナルノデアアルカラ、人權蹂躪ノ叫ビ聲ハ、應テ其跡ヲ絶ツニ違ヒナイノデアラウト思フノデアリマス、デ又新刑事訴訟法ハ、從來ノ訴訟手續トハ違ツテ、全然被告ノ人格ヲ認メ、是マデハ被告ノ人格ハ認メナイヤウデアリマスガ、今度ノ刑事訴訟法ハ、被告ノ人格ヲ認メ、當事者トシテ待遇スルコトニナツテ居ル、又是マデノヤリ方デアリマスルト云フト、被告ノ陳述ニ依ツテ、證據蒐集ニ努メタノデアリマスケレドモ、新刑事訴訟法デハ、被告ノ陳述ヲ強制シタリ、被告ノ陳述ヲ無理ニ申述ベサシタリ、其自白ヲ強要スルト云フトガ出來ナイヤウニナツテ居ル、ソコデ裁判官ハ公判ニ於テ、檢事ノ起訴ニ依ルト……裁判官ハ公判デ、檢事ノ起訴ニ依ルト斯ク斯クノ事實證據ヲ取ツテ起訴シタノデアアルケレド、斯ク斯クノ事實證據ヲ取ツテ檢事ガ起訴シタノデアアルケレド、被告ハ之ニ對シテ自己ノ利益ニナルヤウニ辯明スルモ宜シ、又反對證據ヲ提出スルモ妨ゲナシト云フ風ナ取調ヲスルコトニナツテ居ルノデアアル、又反對證據ヲ提出スルモ妨ゲナシト云フ風ニナツテ居ルノミナラズ、豫審ニ於テサヘモ新刑事訴訟法デハ辯護人ヲ用フルヤウニシテアルノデアアル、尙ホ豫審ニ於テヤル、又現行法デハ訴訟手續ノ中心ガ……訴訟手續ノ主ナル調ハ豫審ニアッタノデアアル、現行……改正前ノ訴訟法デハ豫審ノ取調ト云フモノガ中心デアッタノデアアルケレドモ、新刑事訴訟法デハ之ニ反シテ公判コソ却ツテ判斷ノ根幹トナルヤウニ、裁判官ガ直接ニ事ノ真相ヲ捉フルコトニ極力注意ヲ拂ツテ居ルト云フヤウニ、大體斯様ニ新刑事訴訟法ハ人權蹂躪ノ出來ナイヤウニ用意周到ニ改正革新シテアルノデアリマス、第二ニ兎角現代ノ裁判官ハ沒常識ノ裁判ヲシテ困ルト云フトモアリマスルガ、ソレハ私共ハ餘リ當ツタ説デハナイト思フノデアアル、現代ノ裁判官ハ以前ノ裁判官ノヤウニ行政廳ト交際ヲスルコトハナラナイナドト云フヤウナ窮窟ナ制限ハモウ既ニ解カレテ居ル、裁判官モ普通人民ト同ジニ交際ハ自由ニナツテ居ル、デアアルカラシテ世事ニ通ジナイト云フトハ私ハ言ハレナイト思フノデアアル……

〔「大聲ニ願ヒマス」ト呼フ者アリ〕

……是ヨリ大キナ聲ハ出マセヌ、初マリ諸君ニ御許シテ請ウテアル、精々張リ上ダテ言フ積リデアアルケレドモ、ドウモ仕方ガナイ、是ハ寄ル年波ノ……(笑)

聲起ル) サウ云フ弊ヲ防カムトシテ陪審制度ヲ設ケテ之ヲ防ガウトスルノハ如何デアラウカ、私ハソレハ少シ見當違ヒデアアルノデアアルマイカト思フノデアアル、若シ學識經驗アル裁判官ガ事實ノ認定ヲ誤ルトコトガアルトシタナラバ、斯カル知識ノ無イ普通人ガ事實ノ認定ヲ誤ルト云フトガ無イトハ言ヘナイ、却テ普通人ノ方ガ事實ノ認定ヲ誤ルコトガ多カラウト思フ、況ヤ先日質問ノ際ニ申シタヤウニ、今日ノ社會學、心理學、教育學ノ結果、事實ノ認定ハ、却テ其事實ニ基ク裁判ヨリハ專門的ノ知識ト技能トヲ要スルト云フ説ガ中ニ盛ンニ行ハレテ居ルノデアアルカラ、事實ノ認定ト云フモノハ、其事實ノ上ニ刑法ヲ適用スルヨリ多クノ知識ト技術トヲ要スルト云フトハ、今日或學者ノ、新學派ノ主張スル所デアツテ、ソレハ我々モソレデアラウト思フ、我ガ裁判官ノ諸君ガ、世界ノ事情ニ適シタ裁判ヲスルト云フトハ何デアアルカ、事實ノ認定ニアルノデアアル、先刻來、澤山實例ノ出マシタヤウニ、人ヲ殺シタト云フニモ動機ニ色々アルカラ、其事實ヲ心理學上、社會學上、教育學上カラ之ヲ判斷シテ認定スルト云フトハ、其決マツタ事實ノ上ニ刑法ヲ適用スルコトヨリハ、餘程知識ト技能トヲ要スルト云フトハ、私ハ其通りデアアル、新學派ノ唱ヘル通りデアルト、私共ハ信ジテ居ルノデアアル、デアアルカラ沒常識ノ裁判ガ若シアルトスレバ、……サウ云フ裁判ハナイトハ申シマセヌガ、先ヅ普通ナイ、總テ政府ノ政治ニ對スル信頼ハ、前論者ノ申ス如ク、一番私共ハ司法官ニ信頼ヲ置イテ居ルノデアアル、司法官ガ獨立シテ自分ノ良心ニ依ツテ判斷ヲシテ居レバコソ、我ガ社會ハマダ是程ニ秩序ノ維持ガ出來テ居ル、是ハ私共ハ信ジテ疑ハナイノデアアル、……

〔「簡單」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 議長ガ先刻申シマシタ通り、一遍議長カラ許サレタ議員ノ發言中ニ、演説ノ長短ノ御注意ハ御控ヘテ願ヒタイト考ヘマス

○山脇玄君 ソレデサウ云フ裁判ガアリト致シマシタナラバ、裁判官ノ養成ニ注意スルガ宜イ、或ハ刑事學、社會學、心理學、教育學ヲ練習サセ、普通行政官ヨリハ異ツタ教育ヲスルト云フノガ、私ガ根本的ノ良法デアラウト思フノデアリマス、ソレカラ先刻モ花井君ガ言ハレルヤウニ、此陪審制度ハ即チ證人裁判デアルト斯ウ申サレマス、證人裁判デアアルナラバソレハ私共ハ別ニ異存ハナイノデアアル、デアアルカラデス、此裁判事件ニハ色々專門ノ技術者ヲ要スル事柄ガ出テ來ルノデアアルカラ、其事柄ニ從ツテ、其道ニ精シイ證人

ヲ出シテ、證人ヲ出ストカ、或ハ鑑定ヲサセルトカ、或ハ參考人トシテ裁判官ニ知識ヲ與ヘ、サウシテ裁判スルト云フコトハ、是ハ至極私モ宜シイと思フ、ケレドモ陪審制度ヲ以テ證人制度デアルト云フコトハ、ソレハ沿革上ハサウ云フ時代モアッタノデアアル、陪審ト云フモノハ證人デアッタト云フ時代モアッタケレドモ、今日ノ陪審ハ全ク性質ヲ異ニシテ居ルモノデアアルカラ、若シサウ云フ御考ノ人ガアルナラバ、ソレハ證人訊問ノ範圍ヲ擴メルナリ、或ハ參考人トシテ、或ハ鑑定人トシテ裁判官ニ其專門ノ技術ヲ教ヘルト云フコトハ、是ハ私共宜イと思フ、私ハ其方法ヲ執ツタ方ガ宜イと思フノデアアル、ソレカラ第四ニハ本法ヲ實施シタ曉ニ、意外ノ結果ヲ生ズルト云フコトニ付テ簡單ニ申シタイノデアリマスガ、私共ハ極力願ハヌノデアリマスケレドモ、若シ本法ヲ實施ノ曉ニナルト云フト、二ツノ極端ナ方ニ走リハシナイカ、若シモ本法ノ實行ヲ人民ガ喜ンデ之ニ興味ヲ有ツテ來タナラバドウデアリマセウ、本案ノ如キデスナ、陪審員ノ評議ハ……決議ハ、政府委員ノ説明ノヤウニ、決議ヨリハ輕ク諮問ヨリハ重シト云フ中間性ノ陪審制ニハ甘ンジテハ決シテ居ラナイト私ハ思フ、デ佛國ニ許シテ居ルヤウナ酌量減輕ノ權ヲ得ルバカリデナク、尙ホ一步モ二歩モ進メテ刑ノ量定マデモ我々ニ與ヘロト云フ問題ガ起ル、是ガ一方ノ極端デアアル、今一方ノ極端ヲ申スト、是ハ前論者ノ言ウタヤウニ實ニ人民ニ取ツテハ迷惑ナ義務デアアル、國民ハ迷惑ノ義務ヲ果スコトハ嫌デアアルカラ、抽籤ニ當ッタ人々ガ病氣デアルトカ已ムヲ得ナイ故障ヲ唱ヘテ忌避スルニ違ヒナイ、サウシタナラバ如何デアリマセウカ、一方ノヤウニ完全ナ陪審制度ヲ求メルト云フコトニナルニシテモ、又一方ノ人民ガ嫌ヤガツテ其義務ヲ避ケルト云フヤウナ結果ニナツテモ、決シテ好イ結果デハナイデアアリマセウカ、サウ云フヤウナ結果ヲ見ルデアラウー私ハ信ジテ疑ハナイノデアアル、ソレカラ第五ニハ斯カル無用ノ費用ガアッタナラバ、生産工業ニ使ツテ欲シイト云フコトデアアル、斯ク種々ノ點カラ論ジ來ツテ見マスルト云フト、

〔「簡單」ト呼フ者アリ〕

モウ直グ濟ミマス、何モ此法案ヲ此議會デ議決シテ直チニ……直チニデハナイガ、七年後ニ實行スル必要ハ毛頭ナイト私ハ信ジテ居ルノデアアル、況ヤ先刻モ前反對論者ノ言フヤウニ、七年後ニ實施スルトハドウデアリマスカ、ソレマデ準備シテ實行セネバナラヌ法案ヲ今此議會デ議決シテ、サウシテ直チニ實行セネバナラヌト云フ理由ハドウモナイ、況ヤデス、臨時費モナイ、況ヤデス、

臨時費ノ數百萬圓、經常費ノ數百萬圓ト云フ金ヲ費スト云フコトハ、如何ニモドウシテモ我々國民トシテ惜マザルヲ得ナイ、ドウデス諸君、過日モ色々行政整理ノコトニ付テ質問シタヤウニ、我國ト云フモノハドウシテモ農業立國デハ成立シナイモノデアアル、商工業ヲ發達サセナケレバナラナイノデアアルト、内閣諸公モ主張シテ居ルノデアアル、サウシテ其根本ハ何處ニアアルカト云フト、理化學ノ研究ニアアルコトハ申スマデモナイ、其理化學研究ヲ手近ニ持チナガラ、其經費ヲ出スト云フコトヲ、ソレヲ引上ゲルト云フコトハ、如何ニモ私ニハ分ラナイ、

〔「賛成」賛成ト呼フ者アリ〕

何デモアナタ萬遍ニ宜イヤウニ經費ヲ振り撒クト云フコトニシナケレバナラヌ、私ハ政策ガ、詰リ政府ニ確乎タル政策ガナイト斷ジテ置キタイ、其際ニハ私ハ何處マデモ日本國ハ新規ナ製造工業ノ方法ヲ發見スル外ニ途ハナイ、此響キヲ防グニ付テハ、見テ御覽ナサイ、支那ガモウ既ニ紡績ナリ、「マツチ」製造ナリ、硝子製造ナリ、支那ニアリマスガ、之ヲ支那人ガヤッタラドウナル、資本ノ豊裕ナ、原料ノ豊裕ナ、勞働賃ノ低廉ナ……日本ノ模倣工業ハ皆奪ハレテ仕舞フノデアアル、デアアルカラ一刻モ早く日本固有ノ所ノ方法ヲ發見セネバナラヌ、新工業ヲ發見セネバナラヌ、其新工業ノ發見ハ不能デアアルヤ否ヤ、不能デナイ、我國ノ技術ハ決シテ歐羅巴ニ劣ツテ居ラヌト思フ、唯サウ云フ新發明ガ出來ナイト云フコトハ、先刻モ言フ通り政府ハ斯様ナコトハ、政府ガ金サヘ出セバ決シテ出來ナイコトハナイ、技術ハ十分進んで居ルノデアアル、農商務省ノ工業試驗所ノ有様ハ如何デアアルカ、タツタ二十萬圓ノ經費ヲ與ヘテ、又オマケニ天引ヲシタ、大阪ニ昨年出來タノハソレハ幾分カ天引ヲシナイガ、矢張り天引ヲスル積リデ居ラレマセウ、サウシテ居リナガラ、先日モ茲デ協賛ヲシタ民間ノ理化學研究所ノ二百四十萬圓ノ金額ハ何事デアアルカ、是ハ私ハ事情ハ申サスケレドモ、マア手近ナ所デ願ミテ、サウシテ外ヲ補ハナケレバナラヌノニ、自分ノ手下ハ漸ク生命ヲ維持スルダケノ費用ヲ與ヘテ、民間ニ二百四十萬圓ト云フノハドウシテ與ヘルノデアアルカ、如何ニモドウモ政府ニ確立シタル政策ハナイト斷ズル外ハナイ、此點カラ私ハ此度陪審法案ガ、加藤總理ガ衷心カラ賛成デアアルヤ否ヤハ、觀念シテ居ラレモトハ考ヘラレヌ、加藤總理モ御同意デアリマストシタナラバ、斯ウ云フコトニ……斯ウ云フ事業ニ持ツテ來テ、澤山ノ臨時費ト澤山ノ經常費ヲ費スト云フコトハ、

恐ラクハ心中ニアル譯デハアルマイ、是ハ露骨ニ申セバ、前政府ノ政綱ヲ踏ミ來リ、前政府ノ政綱ヲ已ムヲ得ズ御踏襲ニナツタト申ス外ナイト思フ、是ハ誠ニ失禮ナ申分デゴザイマスケレドモ、恐ラクハ加藤總理ハ今ノヤウナ、生産工業ノ確立ノ必要カラ費用ヲ割イテマデモ之ヲ以テ充テナケレバナラヌト云フ御考ハ、私ハドウシテモ……今ノ總理ハ私共ハ實ニ人格ノ備ハッタ公平ノ御方ト見テ居ルノニ、斯ウ云フ法案ヲ御提案ニナルト云フコトハ、是ハドウシテモ他カラノ壓迫デ已ムヲ得ズ、之ニ御同意ニナツタト云フコトヲ判斷スルヨリ外ナイノデアリマス、如何ニモ失禮ナ申分デアリマスガ、私ハ加藤總理ニハサウ云フコトハナイト信ジテ居リマス

○議長(公爵徳川家達君) 富谷君

〔富谷銚太郎君演壇ニ登ル〕

○議長(公爵徳川家達君) 御静肅ニ願ヒマス

○富谷銚太郎君 私ハ此百十四條カラ成立ツテ居リマスル、外ニ附則ガゴザイマスルガ、此法案ニ全然賛成ノ意ヲ表スルモノデゴザイマシテ、此私ガ決意ヲ致シマシタコトニ付テハ、随分長イコトガアリマスガ、ソレハ總テ略シマシテ、今日此議場ニ現ハレタ反對、及ビ賛成ノ御演説ノ總テノ御議論ヲ十分ニ玩味イタシマシテ、サウシテ自分ガ此法案ヲ熟讀イタシマシタコトニ依ッテ、益々此私ノ信念ガ確カデアルト云フコトヲ信ジタノデアリマス、私ハ此意ヲ極ク簡單ニ述ベタイト思フノデアリマス、暫時ノ間、遅レマシタガ時ヲ御與ヘ下サルコトヲ偏ニ希望イタシマス、抑々司法ニ最モ大切ナル所ノモノハ何デアるかト云フト、威嚴デアリマス、威嚴ノ由ツテ生ズル所ハ何デアるかト云フト信用ト云フコトデアラウト、私信ジテ居ッタノデゴザイマス、此信用ヲ鞏固ナラシメル、確保スルト云フコトガ、此法案ニ依ッテ……若シ此法案ガ法律ニナリマスレバ、十分ニ此點ヲ發揮シ得ルモノト私ハ信ズルノデアリマス、併シ此點ニ反對ヲナサレタ若槻君ノ御演説中ニ、幸ニシテ是マデノ司法官ニ信用ノアルコトヲ御認め下スツタコトハ、實ニ私ノ誠ニ喜ブ所デゴザイマシテ、此信用ハ如何ニシテモ維持確保シ少シモ毀損ノナイヤウニシタイト思フノデアリマス、時代ノ變遷、思想ノ變リマス所ハ如何トモ致シ難イ、或ハ司法官ノ從來ノナシタル所、其事ハ信頼スベキモノデアルト云フコトニ……此一般國民ノ觀念ガドウ變ッテ來タカト云フト、ドウモ段々荒ン

デ來ル、之ノミ依頼シテ置クコトハ出來マセヌカラ、ドウシマシテモ之ニハ民意ヲ酌シテ、民意ヲ容レタ裁判制度ヲ設ケルト云フコトガ最モ大切デアルト思フノデゴザイマス、必要デアルト認めマス、此點ニ於テ私ハ賛意ヲ表スルノデアリマス、又我が國民性ガ陪審制度ニ反スルト云フコトノヤカマシイ御議論ガアリマシタケレドモ、此點ハ私ハ左程ニ感シナイノデアリマシテ、我が國民ハ躁急ナ國民デアリマセヌ、能ク事ヲ判斷シテ、僅カノ間ニ開國ノ趣旨ヲ貫徹シテ、今日ノ隆盛ヲシテ居ル所ヲ見テモ能ク分リマス、伊太利人ト云フ例ガアリマシタガ、決シテ拉丁人種ト全ク同人種デゴザイマセヌ、其點ニ於テハ、或ハ英吉利人トハ違フト云フコトガアルカモ知レマセヌガ、日本人ニハ日本人ノ特長ガアリマシテ、濫ニ事ニ當ッテ輕躁ナコトヲスルコトハナイト思フノデアリマス、其點ハ議論ノ岐レル所デアリマスガ、私ハサウ考ヘル、日本ノ國民性ニ此法律ハ決シテ當嵌ラナイト云フコトハナカラウト思フ、尤モ此點ニ付テハ此法案ハ十分ニ注意ヲ拂ッテゴザイマシテ、陪審員ガ粗勿ナ事ヲシナイヤウニ、無闇ナコトヲシナイヤウニ、十分ニ注意ヲ拂ッテ冷靜ナル裁判官ノ判斷ニ依ッテ決スルコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、此點ニ心配ヲ置クコトハナイモノデアルト思フノデアリマス、而シテ此法案ガ憲法ニ違フモノデナイ、憲法ノ趣旨ニ適フモノデアルト云フコトハ、此法案ヲ起草サレタ、刑事法ニ於テ尤モ博識ナル、深遠ナル學理ヲ研究セラレタ、吾カ友人ノ花井博士ノ考證モアルノデアッテ、此點ニ於テハ私モ安心シテ憲法違反ニアラズト云フ説ヲ確信スルモノデゴザイマス、故ニ憲法ニモ適ヒ、憲法ノ趣意ニ適ヒ、サウシテ國民性ニモ反セズ、現在ノ司法ノ威信ヲ彌ガ上ニモ確實ニシ、確保スルト云フ法律デアラナラバ、何ガ故ニ之ヲ容レルコトガ悪イカ、之ヲ可決スルコトガ悪イデアリマセウカ、私ニモ其反對ヲナサルコトガ誠ニ分ラヌノデアリマス、尙ホ此點ニ於テハ十分ニ説明ヲナシ得ルノデアリマスルガ、非常ナル時ヲ要シマシタ、モウ今日デアリマスカラ、私ハ是デ私ノ意ノアル所ダケヲ一應表明シテ、説明ハ或ル機會ニ於テ十分ニ致スコトガ出來ヤウカト考ヘルノデアリマス、之ヲ以テ私ノ賛成ノ意ヲ表シタコトト御承知ヲ願ヒマス

○子爵西大路吉光君 討論終結ノ動議ヲ提出イタシマス

〔賛成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ討論終結ノ動議ニハ、定規ノ賛成者

ガアツト認メマス

〔男爵池田長康君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 質問デスカ

○男爵池田長康君 唯今動議ガ成立イタシマシタガ、参考ノ爲ニ、此賛否ヲ決スル參考ノ爲ニ議長ニ御尋イタシマズガ、尙ホ御手許ニ通告者ガアル等デゴザイマスガ、ドナタデゴザイマシテ、サウシテ反對者デゴザイマスカ否カ伺ヒタイ

○議長(公爵徳川家達君) 殘ッテ居リマスノハ、通告ヲ爲サレタ御方ハ矢吹男爵、矢口長右衛門君デゴザイマス

○男爵池田長康君 反對デ居ラッシャイマスカ 賛成デ居ラッシャイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 反對デアリマス、討論終局ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ヲ第二讀會ニ移スベキヤ否ヤ、採決ハ記名投票ヲ以テ致シタイト云フ要求ガ、蜂須賀侯爵外六十名ヨリ提出ニ相成リマシタカラ、記名投票ヲ以テ決シマス、簡單ナコトデゴザイマスカラ、議長ヨリ申述ベル必要モナイカト存ジマスガ、念ノタメ議長カラ申述ベマス、本院規則第十九條ニ依リマシテ、問題ヲ可トスル議員即チ本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ハ白色票、移スベカラズトセラレル諸君ハ青色票ヲ、投票函ニ御投入ヲ請ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 一ツ御諮リ致シタイトゴザイマス、磯部四郎君ハ御承知ノ通り歩行ニ不自由デゴザイマスカラ、諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、隣席ノ御方ニ投票ヲ御委託ニ相成ッテハ如何デアリマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 尙ホ諸君ニ御諮リ致シマスガ、書記官ノ氏名點呼ヲ省略シタイト考ヘマス、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガナケレバ、二條公爵ヨリ黒田侯爵ト御著席ノ御順ニ御投票ヲ願ヒマス……成ルベク御早ク何卒御登壇ヲ希望イタシマス

〔投票執行〕

○議長(公爵徳川家達君) 御投票漏レハゴザイマセヌカ、是ニテ投票ハ終ット認メマス、是ヨリ書記官ヲシテ計算ヲ致サセマス

〔書記官投票ヲ計算ス〕

○議長(公爵徳川家達君) 記名投票ノ結果ヲ御報告ニ及ビマス、投票總數百五十一、白色票ヲ投シタル者、即チ本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル者百四十三、青色票ヲ投シタル者、即チ本案ノ第二讀會ヲ開クベカラズトスル者八、故ニ多數ヲ以テ本案ハ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○子爵西大路吉光君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案全部ヲ問題ニ供シマス……原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○大山綱昌君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 茲ニ諸君ニ御諮リ致シタイコトゴザイマス、藤田男爵本日病氣ニ付キ賠償金特別會計法中改正法律案外一件ノ特別委員ノ辭任ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許可イタスコトニ御異存ゴザイマヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、就テハ其補缺トシテ男爵伊藤文吉君ヲ指名イタシマス、本院規則第五十八條ニ依リマシテ延會ヲ……本日ノ議事ハ是デ延バスコトニ致シマス、明後二十三日ハ午前十時ヨリ開會イタシマス、議事日程ハ本院彙報ヲ以テ御通知イタシマス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午後十一時四分散會

〔參照〕

賛成 百四十三名

反對 八名

賛成者氏名

- |            |           |           |
|------------|-----------|-----------|
| 公爵二條 厚基君   | 侯爵黒田 長成君  | 侯爵蜂須賀 正韶君 |
| 伯爵萬里小路通房君  | 伯爵吉井 幸藏君  | 伯爵松本 宗隆君  |
| 伯爵寺島誠一郎君   | 伯爵大木 遠吉君  | 伯爵川村 鐵太郎君 |
| 伯爵奥平 昌恭君   | 伯爵中川 久任君  | 伯爵林 博太郎君  |
| 伯爵松平 頼壽君   | 伯爵勸修寺 經雄君 | 伯爵小笠原 長幹君 |
| 伯爵堀田 正恒君   | 伯爵大原 重明君  | 伯爵唐橋 在正君  |
| 伯爵青山 幸宜君   | 伯爵土方 雄志君  | 伯爵大宮 以季君  |
| 子爵山口 弘達君   | 子爵京極 高德君  | 子爵本多 實方君  |
| 子爵勘解由小路資承君 | 子爵高倉 永則君  | 子爵藤谷 爲寛君  |
| 子爵樋口 誠康君   | 子爵稻垣 太祥君  | 子爵毛利 高範君  |
| 子爵松平 直徳君   | 子爵青木 信光君  | 子爵冷泉 爲勇君  |
| 子爵牧野 忠篤君   | 子爵酒井 忠亮君  | 子爵永井 尙敏君  |
| 子爵伊集院 兼知君  | 子爵堀河 護麿君  | 子爵五島 盛光君  |
| 子爵五辻 治仲君   | 子爵細川 立興君  | 子爵櫛笥 隆督君  |
| 子爵西大路 吉光君  | 子爵六郷 政賢君  | 子爵五條 爲功君  |
| 子爵柳生 俊久君   | 子爵京極 高備君  | 子爵黒田 清輝君  |

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 子爵京極 高義君  | 子爵今城 定政君  | 子爵吉田 清風君  |
| 子爵大給 近孝君  | 子爵不多 忠鋒君  | 子爵豊岡 圭資君  |
| 子爵藪 篤麿君   | 子爵秋月 種英君  | 子爵伊東 祐弘君  |
| 子爵片桐 貞央君  | 子爵大河内 正敏君 | 子爵松平 乘長君  |
| 子爵堤 雄長君   | 子爵白川 資長君  | 子爵野村 益三君  |
| 子爵池田 政時君  | 子爵丹羽 長徳君  | 子爵米津 政賢君  |
| 子爵清岡 長言君  | 子爵八條 隆正君  | 子爵立花 種忠君  |
| 子爵秋田 重季君  | 子爵牧野 一成君  | 子爵戸澤 正己君  |
| 子爵西尾 忠方君  | 子爵大浦 兼一君  | 子爵竹屋 春光君  |
| 子爵板倉 勝憲君  | 子爵米倉 昌達君  | 松室 致君     |
| 大山 綱昌君    | 北里 柴三郎君   | 男爵村上 敬次郎君 |
| 男爵山本 達雄君  | 河村 善益君    | 富谷 銚太郎君   |
| 佐藤 三吉君    | 玉利 喜造君    | 水野 鍊太郎君   |
| 江木 千之君    | 和田 彦次郎君   | 河村 讓三郎君   |
| 男爵高千穂 宣麿君 | 石塚 英藏君    | 小松 謙次郎君   |
| 男爵名和 長憲君  | 男爵太秦 供康君  | 荒井 賢太郎君   |
| 男爵南岩倉 具威君 | 男爵平野 長祥君  | 男爵山内 豊政君  |
| 鈴木 喜三郎君   | 神野 勝之助君   | 若林 資藏君    |
| 男爵若王子 文健君 | 男爵徳川 厚君   | 男爵永山 武敏君  |
| 男爵黒川 幹太郎君 | 男爵長松 篤業君  | 男爵島津 長九君  |
| 男爵今園 國貞君  | 男爵藤堂 高成君  | 男爵中川 良長君  |
| 男爵島津 健之助君 | 石渡 敏一君    | 加太 邦憲君    |
| 福永 吉之助君   | 橋本 圭三郎君   | 南 弘君      |
| 市來 乙彦君    | 鎌田 榮吉君    | 磯部 四郎君    |
| 志村 源太郎君   | 安樂 兼道君    | 江木 翼君     |
| 馬場 鏡一君    | 湯地 幸平君    | 竹越 與三郎君   |
| 伊藤 傳七君    | 佐藤友右衛門君   | 藤武 喜助君    |
| 村野常右衛門君   | 三田 義正君    | 竹村與右衛門君   |
| 鎌田 勝太郎君   | 津村 紀陵君    | 犬上 慶五郎君   |
| 金杉 英五郎君   | 山田 敏君     | 中村 圓一郎君   |
| 高橋 源次郎君   | 花井 卓藏君    | 平尾 喜三郎君   |

三木與吉郎君

成清 信愛君

反對者氏名

山脇 玄君

大島 健一君

男爵目賀田種太郎君

男爵毛利 五郎君

男爵池田 長康君

男爵矢吹 省三君

湯淺 倉平君

矢口長右衛門君

